

2019 年度

根力育成プログラム プロジェクト実習

地域志向教育プログラム プロジェクト演習

活動報告書

2020 年 3 月

茨城大学人文社会科学部

巻頭言

人文社会科学部長 内田 聡

人文社会科学部が立ち上がって3年目を迎え、専門科目も本格的に始まり、すべての学生がメジャープログラム（主専攻）とサブメジャープログラムの両方を履修しています。後者の代表的なプログラムの1つである「人文社会科学部地域志向教育プログラム」には、主として学内で学ぶ科目群とならんで、「実際に地域へ出かけて行って、現実社会の中で課題を発見し・解決に取り組む」PBL科目や、「実際の官公庁・企業で短期間ながらフルタイムの仕事を経験する」インターンシップ等、主として実社会の中で学ぶ科目群が用意されています。

PBL技法に基づく授業である「プロジェクト演習」は、同プログラムの中核に位置づけられています。社会の現状を分析し、課題を見つけ、その課題を解決するため主体的に行動する。自分の意見を発信し、他人の意見を丁寧に聴き、異なる価値観を持つ人たちとチームを組んで課題に取り組む。そのような“社会人”を育てることが「プロジェクト演習」の目標です。

この授業は、人文社会学部生だけでなく、教育学部や理学部、さらに単位互換協定を結んでいる茨城キリスト教大学、常磐大学の学生も一緒に履修しており、授業がまさに一つの“社会”となって、互いに切磋琢磨する場となっています。そして今年度も「プレゼンテーション講座」を並行して開講し、事業成果の「見せ方」を習得してきましたので、その効果が報告会で現れていたと思います。より多くの方に関心を持ってもらうことは大切ですので、引き続き情報発信にも取り組んでいるようです。

「プロジェクト演習」授業運営をご支援いただいている地域の皆様の日ごろのご尽力に改めて深く感謝申し上げますと共に、大学で4年間を過ごして巣立っていく若者たちの成長をうながす本授業の進化や深化の様子を本報告書によりご確認いただければ幸いです。

はじめに

神田 大吾

2019年度の「プロジェクト演習」履修学生は、1.ワインを使った水戸のプロモーション、2.水戸市の地域コミュニティを強化、3.五浦美術文化研究所の日本語リーフレットを中国語・韓国語に翻訳、4.常陸太田市里美地区の魅力を発信、5.日立市大みか町で異文化理解・異文化交流活動、6.路線バスを使ったツアーを作成、7.こみっとフェスティバルの企画・運営、8.インターネット検定「.com Master BASIC」のカリキュラムならびに同検定公式サイトの改訂案を作成、という8つのプロジェクトに取り組みました。彼らが繰り広げた多彩な活動は、その節目節目でプロジェクト演習公式フェイスブック (<https://www.facebook.com/IUChiikipg/>) でお伝えしましたが、それらの活動を通して学生たちは何を学んだのか、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）はどのくらい身についたのか、学生自らの文章によってご報告申し上げます。

プロジェクト課題ご提案者の皆様、学生たちを見守り、ご支援やご協力いただいた皆様に篤く御礼申し上げます。学生は実社会の課題に実践的に取り組み、教員は彼らに伴走しながら随時サポートしました。学生と教員による一年間の「学びの記録」にお目とおしいただければ誠に幸いと存じます。

報告書の新形態について

鈴木 敦

過去のプロジェクト実習／プロジェクト演習の活動報告書（以下「報告書」）は、下記の7項目の機能を果たすべく、制作して参りました。

- A：履修学生のリフレクションの記録
- B：プロジェクト課題提案者を始めとする、学外の協力者の皆様への報告書
- C：予算や非常勤講師枠等の配分で特段の配慮を得た、学内の協力部署への報告書
- D：履修学生が、就活時にいわゆる「ガクチカ」としてアピールする際のエビデンス
- E：本学の1年次生、本学の受験を検討している高校生とその関係者への広報資料
- F：担当教員のリフレクションの記録
- G：担当教員が、他大学でPBLに取り組む教職員等と情報交換をする際のエビデンス

これを受けて歴代の報告書は、以下の4項目を基本に構成して参りました。

- (1)当該年度の授業改善（教員の取組を、教員が成文化して編集）
- (2)チーム別活動報告（学生の取組を、学生が成文化して教員が編集）
- (3)年度末活動報告会報告（学生の取組を、教員が成文化して編集）
- (4)その他（教員が記録すべきと判断した事柄を、教員が成文化して編集）

報告書の編集は、例年授業終了後の2月後半～3月の間に行って参りました。しかし昨今は、速報性が求められる部分（上記A～E）と慎重な整理・分析が求められる部分（同F～G）の両立が、極めて困難となって参りました。

そのような中で、2018年度初頭にプロジェクト演習のホームページ（以下「HP」）
<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/project/project.html>）を立ち上げることができ、昨今はその運用も安定して参りました。そこで今後は、「教員の取組」に関する部分すなわち機能としては上記のFとG、報告書の構成としては上記の(1)については、本報告書から切り離して同HPの資料庫（<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/archive.html#project>）に随時アップしてゆくことと致しました。これにより本報告書は、専ら学生の取組をご報告して上記A～Eの機能を果たそうとする物へと性格を変えることとなります。

宜しくご理解の程、御願ひ申し上げます。

目次

巻頭言

はじめに

報告書の新形態について

目次

I : チーム別活動報告

1 : プロジェクト演習 2019 年度の運用	3
2 : 茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム 活動報告	7
3 : Mito Bloom チーム 活動報告	23
4 : KoriNa チーム 活動報告	41
5 : さとみ・あいチーム 活動報告	59
6 : E-girls R チーム 活動報告	81
7 : 公共交通 KoMiKo チーム 活動報告	97
8 : こみフェスチーム 活動報告	123
9 : IBADAI×ICT ラボチーム 活動報告	145

II : 年度末活動報告会

1 : 趣旨と経緯	169
2 : プロジェクト演習を取り巻く環境の変化	169
3 : 2019 年度活動報告会のテーマ設定	169
4 : 2019 年度活動報告会の構成	170
5 : ポスターセッション	170
6 : 活動報告会	171

おわりに

I : チーム別活動報告

- 1 : プロジェクト演習 2019 年度の運用
- 2 : 茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム
- 3 : Mito Bloom チーム
- 4 : KoriNa チーム
- 5 : さとみ・あいチーム
- 6 : E-girls R チーム
- 7 : 公共交通 KoMiKo チーム
- 8 : こみフェスチーム
- 9 : IBASDAI×ICT ラボチーム

I : チーム別活動報告

1: プロジェクト演習 2019 年度の運用

神田 大吾

(1) 授業の大枠

プロジェクト演習は、学外協力者あるいは学生自身から提案されたプロジェクト課題に、同じ課題を選んだ学生同士がチームを作って取り組み、課題解決を目指して活動することを通じて社会人基礎力を身につけることを目的とした授業である。授業の構造と運用の枠組みについては、プロジェクト演習のホームページ（以下「HP」と略記）に掲げた。

社会人基礎力: <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

HP : <http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/project.html>

(2) 課題提案とチームの成立状況

2019年度は学外から6件、学内から1件、計7件のプロジェクト課題提案をいただいた。課題提案ポンチ絵の一覧を次の図1に示す。



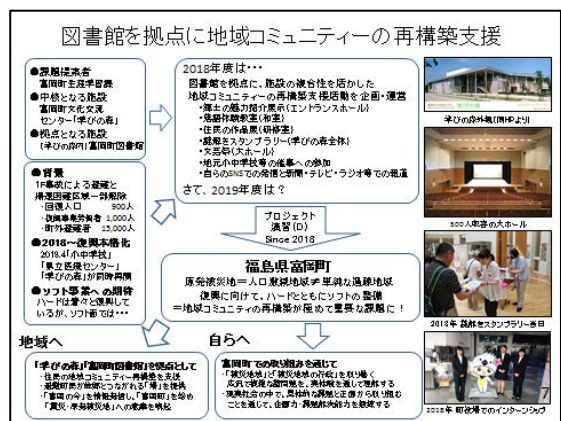
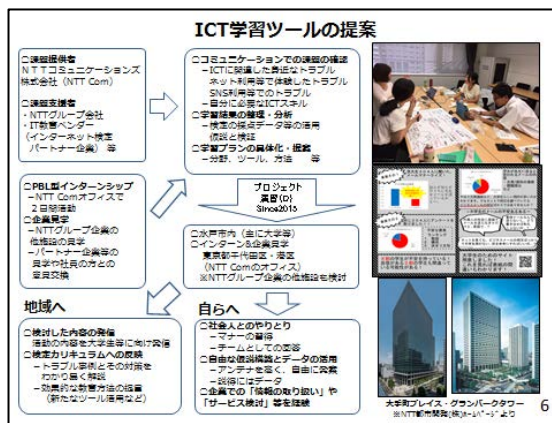


図 1：課題提案ポンチ絵

その後、「図書館を拠点に地域コミュニティの再構築支援」課題が、先方の事情により取り下げられた。昨年度に続いて意欲的なメンバーが集まって来ていただけに、甚だ残念な出来事であった。

一方で履修学生自身から 2 件の課題が提案され、最終的な提案数は 8 件となった。幸いにしてその全てに必要な数の学生が集まり、チーム結成に至った。提案課題と成立チームの一覧を図 2 に示す。

	プロジェクト課題	ご提案者 (敬称略)	カテゴリ	チーム名
1	「水戸のワイン」を使ったプロジェクト運営	DomaineMITO株式会社	A	茨城大学Domaine MITOプロジェクトチーム
2	水戸市の地域コミュニティを強化	2019年度履修学生	A	Mito Bloom
3	学習型！ポランティアガイド	2019年度履修学生	A	KoriNa
4	若者・よそ者で里美の地域おこし活動	2018年度さとみ・あいチーム学生	B	さとみ・あい
5	異文化交流・自文化発信プロジェクト	茨城キリスト教大学教員	C	E-girlsR
6	自分たちのチカラで、水戸の公共交通を変える	水戸市役所市長公室交通政策課	D	KomiKo
7	こみっとフェスティバルを開催します！！	水戸市役所市民生活課	D	こみフェスチーム
8	ICT学習ツールの提案	NTTコミュニケーションズ株式会社	D	IBADAI×ICTラボ

図 2：提案課題と成立チーム一覧

「カテゴリ」欄：A=総合、B=地域連携・地域貢献、C=国際交流・異文化理解、D=PBL型インターンシップ

(3)PBL 型インターンシップについて

「カテゴリ D」は「PBL 型インターンシップ」と称して、通常のプロジェクト活動に加えて課題をご提案戴いた組織においてインターンシップを受け入れて戴いている。期間は「2 日以上」としており、人文社会科学部地域志向教育プログラムで別途開講している「インターンシップ A」「同 B」

(<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/internship.html>) 等に比べれば短期間ではある。しかし、本授業におけるインターンシップは、4 月のチーム成立以降、プロジェクト課題提案者でありインターンシップ受け入れ組織の担当者でもある方々と、具体的な諸問題を巡って何度となく打ち合わせを重ねた後に実施される。このため、インターンシップ初日時時点で既に 4 ヶ月前後の取り組み実績を有していることになり、インターンシップ自体の実施期間こそ短いものの、大きな学習効果が期待できる構造となっている。

今年度は「KomiKo」「こみフェス」「IBADAI×ICT ラボ」の各チームがこれに該当し、夏季休業中を中心に 2 日間ないしそれ以上のインターンシップを受け入れていただいた。詳細については、本章の 7～9 に収めた各チームの活動報告の「5：インターンシップレポート」を参照されたい。

受け入れ組織の皆様方におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、実社会の中で課題の考察を深めると共に、職場体験もさせていただきましたことに、改めて篤く御礼申し上げます。お蔭様で学生たちは「働く」とはどういうことなのか肌で感じ、自分の将来像をイメージできました。どうも有難うございました。

(4)プロジェクト演習 2019 年度の運用

プロジェクト演習は PBL 授業であり、学生の自発的な活動を前提としている。このため、教員の主導で履修者が一堂に会して行う通常の「一斉授業」と、学生がチームごとに任意の時間と場所で行う「チーム別活動」とを適宜組み合わせながら運用することとなる。

①一斉授業

2019 年度の一斉授業の概要を、図 3 に示す。

初開講以来 8 年を経て、一斉授業の内容とスケジュールはほぼ安定した。プロジェクト演習は前後期併せて全 30 回 4 単位という設計であるが、ご覧のように一斉授業だけで 27 回を数え、後述のチーム別活動と併せれば規定の授業時間数を大きく超える。学生にとっては「割に合わない」授業、単位以上の学修時間を要する授業となっているが、それだけ中身の濃い科目となっていることは教員の誇りとするところである。

授業題目中に掲げた「総合プレゼン講座」とは、プロジェクト演習履修学生のプレゼンテーション技能を向上すべく、学外から専門家（渡辺しのお先生）を招聘して行う授業である（詳細は HP 資料庫ファイル番号[305]『2017 年度活動報告書』I-2-(2)-②総合プレゼン講座 を参照されたい）。

②チーム別活動

学生の主体性を育む観点からは、チーム別活動こそがプロジェクト演習の根幹である。

教員は「伴走者」として、活動の場にできるだけ同席するよう努めている。しかし、その名の通りチーム別に任意のタイミングで行われるため、僅か 3 名の担当教員ではもとより完璧は望めない。加えて、あらゆる場に教員が同席することは主体性向上の芽を摘み、却って逆効果となりかねない。

一方で、教員はすべからく「単位の実質化」と「成績評価の厳密さ」を実現しなければならない。「教員が同席しない部分での活動をどう評価するか」は、PBL 授業たるプロジェクト演習ではとりわけ大きな課題である。

この課題に対応すべく、プロジェクト演習では各チームに「議事録・活動記録」（HP 資料庫ファイル番号[214]）、「チーム活動記録簿」（HP 資料庫ファイル番号[215]）の作成と提出を課している。量的にその全てを報告書に収めることはできず、「チーム別活動記録簿」の簡略版を切り出して収載している。具体的には、本章 2～9 に収める各チーム報告文の 3「議事録・活動記録〈概要版〉」を参照されたい。チームにより多少の多寡はあるものの、全てのチームが規定の学修時間を大きく上回る活動をしていることをご理解いただけたらと思う。

No.	月	日	講時	場所	授業題目	主な内容
1	4	12	1	C406	履修目的の明確化	ガイダンス、「個人の達成目標ルーブリック」作成
2	4	19	1	C406	課題提案プレゼンと質問会	外部提案者によるプロジェクト課題提案と質疑応答
3	4	26	1	C406	チーム結成	チーム結成と役割分担 「事例シナリオ」によるミーティングのシミュレーション
4	5	10	1	C406	構想のまとめ方①	ブレインストーミングとKJ法の実習
5	5	17	1	C406	構想のまとめ方②	「プロジェクト構想書」作成
6	5	24	1	C406	構想報告会	プロジェクト構想のプレゼンと質疑応答
7	7	18	1	C406	前期末中間報告会	前期の活動概要等のプレゼンと質疑応答
8	9	24	3	MM1	総合プレゼン講座①	第1回 プレゼンテーションの定義と目的
9			MM1	第2回 プレゼンテーションの企画から本番までのプロセス		
10			MM1	第3回 PREP話法とホールパート法の実践		
11	9	25	1	MM1	総合プレゼン講座②	第4回 伝わる文書構成はツリー構造
12			2	MM1		第5回 Power point操作編①: 基本操作の習得
13			3	MM1		第6回 Power point操作編②: スライドを「一目でわかる化」する デザインマスタの作成
14			4	MM1		第7回 Power point操作編③: 図解とカラーリング
15	9	26	3	MM1	総合プレゼン講座③	第8回 Power point課題作成: 第10回の課題発表に向けて演習
16			4	MM1		第9回 魅せるプレゼンターのスキル 立ち居振る舞い・発声方法・質問発問等
17			5	MM1		第10回 課題発表
18	10	4	1	C406	後期キックオフ報告会	前期ならびに夏季休業期間中の 活動概要等のプレゼンと質疑応答 「個人の達成目標ルーブリック」中間評価記入
19	12	7	3	人文10	年度末活動報告会リハーサル (総合プレゼン講座④)	活動報告プレゼンと質疑応答 司会リハーサル、外部講師によるご指導 (総合プレゼン講座 第11回～第13回)
20			4	人文10		
21			5	人文10		
22	12	20	5	人文10他	年度末活動報告会準備	会場設営作業
23	12	21	2	講義棟 廊下	年度末活動報告会 (ポスターセッション)	チームごとにポスター、資料を使って活動紹介
24			3	人文10	年度末活動報告会 (総合プレゼン講座⑤)	司会、活動報告プレゼン、質疑応答、 来賓ならびに外部講師による講評等 (総合プレゼン講座 第14回・第15回)
25			4	人文10		
26	1	10	1	C406	年度末リフレクション①	活動報告書の各種原稿作成を説明
27	1	24	1	C406	年度末リフレクション②	活動報告書作成の打ち合わせ

図3：2019年度プロジェクト演習 一斉授業の概要

加えて、2018年度から開設したプロジェクト演習フェイスブック（以下「FB」と略記）を用いて、各チーム個別の活動を随時報告している (<https://www.facebook.com/IUChiikipg/>)。FBもまた構造的に、チーム別活動の「全て」を報告しきれものではないが、学生チームの活動の一端を示すものとしてお目通しいただければ幸いである。

(5)各チームの活動報告の掲載方針

次節からチーム別の活動報告を「1：はじめに」、「2：活動概要」、「3：議事録・活動記録」、「4：活動トピック」、「5：個人レポート」、「6：おわりに」の順に掲載する。なお、PBL型インターンシップを組み込んでいるチームについては、「4：活動トピック」の次に「5」として「インターンシップレポート」を挿入する。

2:茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム

リーダー	: 金沢 歩輝	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
副リーダー	: 藤川 尚	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	: 佐々木幹太	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	: 根本 真子	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
会計	: 仲川大二朗	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
広報	: 松永 海渡	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年

主担当教員 : 神田 大吾 茨城大学人文社会科学部准教授
主担当教員 : 鈴木 敦 茨城大学人文社会科学部 教授

茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム

1 : はじめに

藤川 尚

私たち「茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム」は Domaine MITO 株式会社からいただいた課題をもとに水戸の活性化を行ってきた。Domaine MITO 株式会社は平成 27 年に設立された、水戸の市街地において茨城のブドウなどを使ったワインを作るまちなかワイナリーであり、私たちは Domaine MITO 株式会社からアドバイスをもらいながら水戸の活性化に向け活動を重ねた。

私たちは1年を通して多くの様々な活動をし、多くの課題にぶつかることで、多くのことを学んできた。プロジェクトの課題も当初決めたものから変更をすること等、様々なことがあったが、6人全員で水戸の活性化に向け活動を行うことが出来た。これから私たちの行ってきた活動を記していく。この記録が次の世代の活動に活かされることを期待している。

(1) 活動課題の設定

チームのテーマとして私たちは、「ワインを使った水戸のプロモーション」を最終的な課題として設定した。それまではワインを水戸のプロモーションの手段とするには知名度が低いと考え、水戸ワインの知名度の向上を目指していたが、協力者である宮本様のアドバイスのもと、上記の目標が最終的なものとなった。

(2) プロジェクト課題

ワインを使った水戸のプロモーション

(3) プロジェクト課題からプロジェクト構想へ

①構想への絞り込み

プロジェクト活動の当初は先述の通り、水戸ワインの知名度をまずは向上させるために活動を行うこととした。そのために様々なアイデアを出し、その中から水戸とワインとの結びつきを示すことのできるものを選ぶことにした。最終的に行ったものとしてはHP制作、イベントの開催、SNS発信である。

②プロジェクトの目的①プロジェクトとして何をするか/達成するか

HP制作では私たちのチームが行ってきた活動を紹介するページを作成した。それにより、学生がワインを通して水戸のまちなかの活性化を行っていることを切り口に水戸とワイン、活性化のイメージをつなぎ合わせることを目標とした。また、イベントの開催としては「アペリティフ」という食前酒を楽しむフランスの習慣や、宮本様の行っているイベントを参考にし、学生向けにアペリティフのイベントを行うことで、若い世代に対するワインのイメージアップを図った。最後のSNS発信についてはHP制作の内容と重なるものもあるが、それに加えて Domaine MITO 株式会社の活動や関連する情報などを発信し、知名度の向上を目指した。

③プロジェクトの目的②チームとして何を得るか/学ぶか

活動を通して全体把握力を身に付けることやイベント等の企画力の育成を目標とした。チーム内のコミュニケーション能力やスケジュール管理等様々なことを学ぶことが出来た。

④成果の検証方法・「成功」の基準

どれだけ水戸ワインの知名度を上げることが出来たか。

2 : 活動概要

仲川 大二朗

(1) 活動の目的

① プロジェクトの目的

Domaine MITO 株式会社から提示された「ワインを使った水戸のプロモーション」という課題に取り組む。これにあたりプロジェクトの達成目標を、水戸を周知し多くの人に実際に足を運んでもらうこと、に設定した。

② チームの目的

私たちは活動全体を通して身に着けたい社会に出た際に役に立つ力として、全体把握力と企画力の育成をあげ、これらを養うことをチームの目的とした。

(2) 活動の概要

① 学生アペリティフ

日時：11月7日（木）

場所：水戸市泉町、マチノイズミ（多世代交流スペース）

内容：食前酒を楽しむためのイベントを学生向けに行い、若年層のワインへの親近感の向上を目指す

② SNS 発信

内容：Twitter、Instagram、Facebook を使い、ワインに関わりがある水戸のスポーツや文化の PR をする。これにより、水戸ワインやそれに関わる文化の認知度向上を目指す。

③ ホームページ作成

作成に至った経緯：当初は水戸の魅力やワインに関するパンフレットの作成を計画する。しかし目的や効果の不明瞭さや、費用の面で断念。→代用でき、かつ手軽に利用できるホームページを作成。

内容：これまで行ってきた内容や言った場所についての紹介。感想を詳細に記入することで SNS との差別化をする。

④ 新酒お披露目会への参加

日時：11月3日（日）

場所：水戸市南町、L'IVRESSE（イヴレス）

内容：Domaine MITO 株式会社で作られた 2019 年ワインのお披露目。

→水戸ワインに対する理解。水戸ワインに関わりがある人たちとの交流。

⑤ イベント出店

内容：Domaine MITO 株式会社の販売のお手伝い。

→会社の活動への理解を深める。地域の人々との交流。

日程：5/19（日）水戸ホーリーホック vs 柏レイソル @ケーズデンキスタジアム水戸

6/2（日）城里町古内地区「庭先カフェ」

6/15（土）城里町古内地区 古民家バル「島家住宅」

10/5（土）、6（日）茨城ゆめ国体 @アダストリアみとアリーナ

3 : 議事録・活動記録

根本 真子

表 1 : 議事録・活動記録

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実施時間
1	2019年 5月9日 10:20 - 12:00	茨城大学図書館 2階グループ学習室	役割決め、今後の方針についての話し合い	金沢、藤川、仲川、佐々木、根本	1:40
2	2019年 5月16日 10:20 - 12:00	茨城大学図書館 2階グループ学習室	Domaine MITOの宮本さんと仲田先生との顔合わせ、構想書作成	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:40
3	2019年 5月19日 10:00 - 14:00	ケーズデンキスタジオ	イベント出店の手伝い	松永、根本	4:00
4	2019年 5月20日 14:20 - 16:30	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	PPT作成	金沢、藤川、仲川、佐々木、根本	2:10
5	2019年 6月2日 8:00 - 17:00	城里町吉内地区 庭先カフェ	ワイン提供の手伝い	仲川	9:00
6	2019年 6月11日 10:20 - 12:00	茨城大学図書館2階グ ループ学習室	ノンアルコールワイン製造についての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、佐々木、根本	1:40
7	2019年 6月13日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館2階グ ループ学習室	プロジェクトのコンセプト等の再確認	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
8	2019年 6月15日 16:00 - 21:00	城里町 鳥家住宅	ブドウ畑見学、ワイン提供の手伝い	根本	5:00
9	2019年 6月20日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館2階グ ループ学習室	ツアーの打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
10	2019年 6月27日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	Domaine MITOの宮本さんとツアーについ ての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
11	2019年 7月4日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館2階グ ループ学習室	写真集についての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
12	2019年 7月8日 14:20 - 15:50	茨城大学茨苑会館談 話室	PPT作成、活動内容の詳細についての打 ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、根本	1:30
13	2019年 7月11日 10:20 - 12:00	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	企画のコンセプトについての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、佐々木、根本	1:40
14	2019年 7月25日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	これからの予定、ツアーについての打ち合 わせ	金沢、仲川、佐々木、根本	1:30
15	2019年 8月1日 10:50 - 12:00	茨城大学図書館2階リ ブレイジュールーム	今後の予定、ツアーについての打ち合わせ	金沢、藤川、松永、根本	1:10
16	2019年 8月21日 6:20 - 12:30	鯉沼学園	ブドウの収穫	根本	6:10
17	2019年 9月8日 7:20 - 12:30	鯉沼学園、木葉下	ブドウの収穫	金沢、松永、佐々木	5:10
18	2019年 9月23日 17:30 - 19:00	カスミ イートスペース	チーム内の役割分担、写真集についての 打ち合わせ	仲川、松永、佐々木	1:30
19	2019年 9月28日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	後期ミーティング日時決定、今後の予定に ついての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
20	2019年 9月30日 12:40 - 16:00	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	後期キックオフ報告会のPPT作成、今後の 計画についての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、根本	3:20
21	2019年 10月8日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	写真集について	佐々木	1:30
22	2019年 10月9日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	写真集、パンフレットの打ち合わせ	金沢、仲川、松永、佐々木	1:30
23	2019年 10月15日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	パンフレットのデザインについての打ち合 わせ	金沢、藤川、松永、佐々木	1:30
24	2019年 10月23日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	パンフレットのターゲット、コンテンツについ ての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
25	2019年 10月28日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館2階グ ループ学習室	パンフレットについての打ち合わせ	藤川、松永、佐々木、根本	1:30
26	2019年 11月1日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	学生アベリティブの詳細についての打ち合 わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
27	2019年 11月3日 10:30 - 13:00	L'IVERESSE	新酒発表会	金沢、藤川、仲川、根本	2:30
28	2019年 11月6日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	学生アベリティブの詳細についての打ち合 わせ	金沢、松永、佐々木	1:30
29	2019年 11月7日 17:30 - 21:30	マチノイズミ	学生アベリティブ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	4:00
30	2019年 11月14日 16:00 - 17:30	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	HPについての打ち合わせ	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
31	2019年 11月22日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	現状分析、HP、活動報告会PPT、ポス ターセッションPPT作成	金沢、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
32	2019年 11月29日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	現状分析	金沢、仲川、松永、根本	1:30
33	2019年 12月3日 16:00 - 17:30	茨城大学共通教育棟 ラーニングコモンズ	活動報告会リハーサル用のPPT作成、段 取り確認	金沢、松永	1:30
34	2019年 12月7日 12:00 - 12:40	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	活動報告会リハーサルの発表練習	金沢、藤川、仲川、松永、佐々木、根本	0:40
35	2019年 12月13日 10:20 - 13:00	Domaine MITOワイナ リー	ワイナリー見学	金沢、仲川、松永、根本	2:40
36	2019年 12月19日 16:00 - 17:30	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	HP作成、活動報告会の段取り、練習	金沢、仲川、松永、佐々木、根本	1:30
37	2019年 12月20日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館1階 ラーニングコモンズ	活動報告会の練習	金沢、藤川、仲川、佐々木、根本	1:30

5：活動トピック

松永海渡

(1) イベント出店のお手伝い

5月19日（日）Domaine MITO 株式会社のプロモーション活動の一環として行われている、水戸ホーリーホックのホームゲーム会場でワインの販売をお手伝いした。「水戸でワインを作っているなんて知らなかった」「醸造所があるのは知っていたが行ったことはない」というお客様の声を聴くことができプロモーションのこれからの水戸ワインの可能性を実感した。（図1・2）



図1:ホームゲーム会場でのお手伝いの様子



図2:会場で販売されたワイン

(2) 鯉淵学園でのブドウ収穫体験

8月21日（水）、9月8日（日）茨城県水戸市鯉淵町にある鯉淵学園農業栄養専門学校にてブドウの収穫体験を行った。現地ではブドウの品種についての説明を受けたほか、Domaine MITO 株式会社のひとくちオーナーの方々との交流もあった。（図3）



図3:収穫したブドウ

(3) 茨城国体でのワイン販売のお手伝い

10月5日(日)、茨城国体フェンシング競技の会場であるアダストリアみとアリーナにてワインの販売をお手伝いした。茨城県内外から訪れるお客様に水戸ワインの存在や茨城県の地酒を紹介することができた。(図4)



図4: 販売ブースの様子

(4) 新酒発表会への参加

11月3日(日)、水戸市南町にあるL'IVRESSEにて行われたDomaine MITO株式会社の新酒報告会に出席した。当日は鯉淵学園で収穫されたブドウを使った赤ワインや常陸太田市で収穫されたブドウを使った白ワインなどを試飲させていただいた。また、ひとくちオーナーの方々のご出席なされていたので交流ができた。(図5・6)



図5: お店の外観



図6: 当日提供されたワイン

(5) 学生アペリティフ

11月7日(木)、水戸市泉町にあるマチノイズミにて「学生アペリティフ」と題してワインと軽食を楽しむイベントを実施した。このイベントの目的は学生を含む若い年齢層に向けた水戸ワインの周知と、またその様子をSNSにて発信することで水戸で新たなイベントが行われているといった話題性を生むためである。しかし当日は本プロジェクトメンバーの他に3人しか人が集まらないなど課題が残る結果となった。(図7・8)



図 7: 学生アペリティフが行われた会場の様子



図 8: 提供した料理

5 : おわりに

佐々木 幹太

やりたいことと、できることのギャップに悩みながら取り組んだ約 1 年間の活動であった。プロジェクト当初は写真集の制作に取り組もうと考え、その配布を通して成果の検証も行おうと考えていたが、費用の面やスケジュールの面でも難しくなってしまう実際に行うことはできなかった。しかし、その現状の中でも自分たちにできることは何か、何を行えばお題である水戸のワインを使い市街地活性化に取り組んでいけるのかということメンバーで話し合い、最終的に代替案として Web サイトの制作を行った。その際のメリットとしても、写真集や Web サイトをつくる前に想定していたパンフレットと比較し、コストがかからないという点、Web 上にあるため後からでもコンテンツの追加が可能で最新の情報を発信することができるなどの点でも優れていると考え制作した。その中でおかれた状況に臨機応変に対応する力、自分たちのできることに基づき工夫を凝らしていくことの 2 つを実践していくことができた。これらの 2 つは社会に出てからも重宝する力であるため、この経験を今後もいかしていきたい。

しかし課題もいくつか見つかった。それは実現可能なスケジュールを建て、それを実行していくことと、メンバーそれぞれが自発的に活動を進めるという 2 点である。前者に関して、情報収集などをせずに大まかにいつまでに何をすると決めてしまったため、その中の細かい内容に戸惑うことがあり、日程を超過してしまうことで計画にずれが生じ、締め切りまでに間に合わないということがあった。改善するためには、事前に下調べを行い大まかな計画をたてたらその中で詳細をさらに作り、細かく目標を達成するという手順を踏むべきであった。後者に関して、誰かに言われてから動く、他の人が動くのを待つ、締め切り間際で動き出すなど自発的というよりは周りの環境によって動くということが多々あったので、もっと自発的に活動をすべきであった。

課題も見つかったが得た経験も多かったので、この活動に取り組むことができよかった。

最後にはなりますが、課題提案者である **Domaine MITO** 株式会社社長の宮本紘太郎様、教員の皆様をはじめ多くの方々にお世話になりました。至らぬ点が多くあった私たちを最後までご指導していただきありがとうございました。

3:Mito Bloom チーム

リーダー	：木村友紀奈	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
副リーダー	：佐久間秀斗	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	：松本 真奈	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	：小池さくら	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
会計	：稲野邊優香	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
会計	：津田 玲菜	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年

主担当教員：鈴木 敦 茨城大学人文社会科学部教授
副担当教員：岩佐 淳一 茨城大学教育学部 教授

2019 年度

茨城大学人文社会科学部 プロジェクト演習

「Mito Bloom チーム」活動報告

1 : はじめに

津田玲菜

(1) 結成の経緯

昨年、福島県富岡町の地域コミュニティ強化を目的としたプロジェクトを行っていた、「とみ咲ク」チームの2年目の活動として私たちはチームを結成した。しかし富岡町からの突然の課題取り下げにより解散を余儀なくされた。

そのため私たちは、地域コミュニティの衰退が富岡町と同様に水戸市でも言えるのではないかと仮説を立て、「Mito Bloom」チームとして再結成した。活動を始めるにあたり、実際に水戸市において地域コミュニティが希薄になっているのか調べるため、水戸市内の各所でヒアリングを行った。仮説検証の過程についてはこの後の活動記録で詳しく述べる。

(2) プロジェクトの目的

プロジェクトの目的は、「水戸市に住んでいる方々に地域への親しみを持ってもらうこと」だ。私たちは地域住民の交流イベントを定期的で開催することで目的の達成を目指した。しかし授業の特性上1年間の一過性のものになってしまう恐れがあったため、継続した活動のために協力していただける外部の団体を探す必要があった。

水戸市内の様々な団体を検討した結果、「NPO 法人セカンドリーグ茨城」様が運営母体である「310 食堂」というイベントと出会った。310 食堂は食を通じて地域住民の交流の場となることを目指す、水戸市の子ども食堂である。毎月第3土曜日に市内3か所を拠点に開催され、大人から子どもまで幅広い世代の交流を促進している。食事の調理はセカンドリーグ茨城の方々やボランティアに集まった方々が行っている。当日届いた食材を見てその場で献立を立てて調理するため、ボランティア同士の会話も促進され良い交流の場になっている。このように、私たちの活動の趣旨と合ったイベントだったため連携させていただくことになった。

そして私たちは継続性のあるコミュニティ形成の一助となることを目指し、310 食堂の活動のより一層の充実化・継続のお手伝いをする事とした。具体的な活動については、この後の活動トピックで述べる。

(3) 身につけたい力

地域の方々と連携してプロジェクトを進める中で、働きかけ力、対応力、発信力を身に着けることを目指す。具体的には310 食堂でのイベントの実施や学外団体との交流を通して働きかけ力を、予想外の出来事にも対応することで対応力を、SNSなどの情報発信を通して発信力を身に着ける。

上記で述べたように、活動当初から困難に見舞われた私たちだが、色々な方のご協力を頂きながら水戸市での活動を1年間行ってきた。そうした活動内容を次頁から具体的に述べていく。

2：活動概要

稲野邊優香

(1) 活動の目的

近年希薄化が見られつつある水戸市の地域コミュニティを強化すること。それにあたって、NPO 法人セカンドリーグ茨城様が運営母体である「310 食堂」と連携し、地域住民同士の繋がりを構築する一助となるようなイベントを開催する。また、広報の一端を担うことで 310 食堂の継続のお手伝いをする。

(2) 活動の概要

昨年、福島県富岡町の地域コミュニティの強化を目的としたプロジェクトを行っていた「とみ咲ク」チームの 2 年目の活動として私たちはチームを結成した。しかし富岡町からの突然の課題取り下げにより解散を余儀なくされた。それでも「地域コミュニティを強化したい」という強い思いでチームを再結成し、フィールドを水戸市に移したうえで具体的な方向性を定めるために、地域の方や市役所の方などに水戸市の地域コミュニティに関するお話を伺った。その後チーム内で何度もミーティングを重ね、最終的に 310 食堂との連携が決定し、イベントの開催や広報に用いる PR 動画の作成を行った。以下は 1 年間のプロジェクトのなかで重要となった主な活動である。

①第 1 回チーム内ミーティング

2019 年 5 月 13 日、茨城大学にて実施。

再結成したチーム 6 人での初めての顔合わせをした。これからどのようにプロジェクトを進めていくかについて、おおまかな方向性を定めた。また、地域コミュニティを知るために学外の方にお話を伺うことを決めた。

②宮本紘太郎様とのミーティング

2019 年 5 月 22 日、茨城大学にて実施。

プロジェクトを進めるにあたり、あらかじめチーム全体でテーマに関して不明瞭な点や確認しておきたい事柄を思案・共有した。そのうえで、本授業で長年課題提案をしてくださっている宮本紘太郎様に大学にお越しいただき多種多様な地域コミュニティの種類や営みなどといったお話を伺った。また、私達が今後連携を取ることができそうな団体をご紹介いただいた。

③細谷智二郎様とのミーティング

2019 年 6 月 5 日、茨城大学にて実施。

宮本紘太郎様のご紹介のもと、五軒町の町内会「ふあいぶたうん」で副会長を務める細谷智二郎様に、まちづくりや地域コミュニティに関するお話を伺った。2011 年の東日本大震災での水戸の状況についてのお話の中で、地域コミュニティの必要性を改めて確認した。

④水戸市役所商工課様とのミーティング

2019 年 6 月 7 日、水戸市役所にて実施。

宮本紘太郎様のご紹介のもと、水戸市役所商工課様に中心市街地活性化基本計画に関するお話を伺った。行政と地域住民が一丸となつてのまちづくりの重要性を確認した。

⑤水戸市役所市民生活課様とのミーティング

2019 年 6 月 27 日、水戸市役所にて実施。

これからのプロジェクトで連携を取ることができそうな市民団体をご紹介いただくために水戸市役所市民生活課様にお話を伺った。お話の中で「こみっと広場」という、市民団体を一元化しているウェブサイトをご紹介いただき、そのサイトから連携先を見つけることを決定した。その後のチーム内ミーティングで、310 食堂と連携した活動を行うために運営母体へのアプローチを開始した。

⑥NPO 法人セカンドリーグ茨城様との第1回ミーティング

2019年8月22日、茨城県労働福祉会館にて実施。

310 食堂の運営母体である、NPO 法人セカンドリーグ茨城様とのミーティングの中で私達のプロジェクトの趣旨をご説明し、連携が成立した。その後チーム内ミーティングを重ね、310 食堂で行うイベントを具体化した。

⑦310 食堂第1回親子参加型イベントの開催

2019年10月19日、マチノイズミ・食と農のギャラリー葵にて実施。

通常の310 食堂にボランティアとして参加した後、親子参加型イベントと称して「ハロウィンお菓子作り」を実施した。今まで何度も重ねてきたミーティングや準備の、最初の成果物となった。イベントは成功し、チームの親睦がより一層深まった。また、2月に開催予定のイベントに繋がる改善点も見つかった。

⑧310 食堂 PR 動画の作成・公開

2019年12月に実施。

310 食堂の広報のため PR 動画を作成した。茨城大学生に向けて公開する1分半動画と、SNS で公開する30秒動画の2種類を作成。前者は2019年12月3日、12月6日に人文社会科学部の学生に向けて昼休みに公開した。後者はチームの Facebook で公開中である。

⑨310 食堂第2回親子参加型イベントの開催

2020年2月16日、マチノイズミ・食と農のギャラリー葵にて実施。

バレンタインの時期に合わせ、第2回目となる親子参加型イベントを開催した。イベントではたこ焼き器を使った鈴カステラ作りを行い、子供たちを中心に活発な交流ができた。今年度の活動の集大成となるイベントであり、参加者の方々に大好評いただくと同時に主催者である私たちも非常に満足のものとなった。

3 : 議事録・活動記録

小池さくら

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 5月13日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	初顔合わせ、プロジェクト構想立案	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	1:30
2	2019年 5月22日 8:30 - 9:40	茨城大学人文社会科学部A319	宮本様から水戸市のコミュニティの現状についてのお話	稲野邊、木村、津田	1:10
3	2019年 5月22日 14:20 - 18:00	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	宮本様からの話しの共有、しっかりとした目的の設定	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	3:40
4	2019年 5月23日 10:30 - 11:10	茨城大学図書館リフレッシュルーム	構想報告会の打ち合わせ	木村、佐久間、松本	0:40
5	2019年 5月29日 14:30 - 15:40	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	チーム名決定、チームとしての目標設定、来週質問することの意見出し合い	稲野邊、木村、佐久間、松本、小池	1:10
6	2019年 6月5日 14:30 - 17:30	茨城大学人文社会科学部A220	ふあいぶたんの細谷様からのお話「好文のまちづくり～文化・歴史の理解～」	稲野邊、木村、佐久間、津田、小池	3:00
7	2019年 6月7日 15:30 - 18:00	水戸市役所	水戸市商工課の大谷様、矢ノ倉様、小石川様から、コンパクトシティと中心市街地活性化についてのお話	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本	2:30
8	2019年 6月11日 12:40 - 14:00	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	二方向の伺ったお話をもとに、今後の方針についての話し合い	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本	1:20
9	2019年 6月12日 14:20 - 16:20	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	課題の明瞭化、個人としての意見を共有	木村、佐久間、津田、小池	2:00
10	2019年 6月19日 14:20 - 15:00	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	やりたい事・目的・対象を絞る	稲野邊、木村、佐久間、津田、小池	0:40
11	2019年 6月27日 9:00 - 10:00	水戸市役所4階市民生活課	市民生活課の橋本様と吉田様に、連携できそうな団体様を紹介していただく	稲野邊、木村、佐久間	1:00
12	2019年 6月28日 14:20 - 15:00	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	市民生活課から頂いた情報をもとに、今後連携する団体についての話し合い	稲野邊、木村、佐久間、松本、小池	0:40
13	2019年 7月5日 14:20 - 15:00	茨城大学紫苑会館一階 談話室	310 食堂様との連携(案)について具体的な計画の話し合い	木村、佐久間、津田、松本、小池	0:40
14	2019年 7月17日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	中間報告会の打ち合わせ	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	1:30
15	2019年 7月31日 16:00 - 17:00	茨城大学人文社会科学部A515	310 食堂様について田中耕一先生にお話を伺う	木村、津田、松本	1:00
16	2019年 8月1日 10:20 - 11:00	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	昨日の話を共有と話し合い、前期の反省、夏休みの日程確認	稲野邊、木村、松本、小池	0:40
17	2019年 8月7日 16:00 - 18:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	夏季休業以降の活動について方向性を定める	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本	2:30
18	2019年 8月22日 9:00 - 10:30	茨城県労働福祉会館2階	310 食堂を取りまとめるセカンドリーグ茨城の横須賀様、中村様との打ち合わせ	稲野邊、木村、津田、小池	1:30
19	2019年 8月26日 11:00 - 12:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	310 食堂との連携について具体的な案をまとめる	稲野邊、木村、佐久間、松本	1:30
20	2019年 9月17日 10:00 - 11:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	次回の話し合いに向けて案をまとめた	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	1:30
21	2019年 9月22日 10:00 - 10:50	茨城県労働福祉会館2階	10月のデザート作り企画等の打ち合わせ	木村、佐久間、津田、松本、小池	0:50
22	2019年 9月24日 10:30 - 11:40	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	イベントのチラシ、グーグルフォームの作成、茶巾のレシピ共有	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	1:10
23	2019年 10月2日 16:00 - 17:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	後期キックオフ会の発表練習、イベントで使った装飾の購入について	稲野邊、木村、佐久間、津田、松本、小池	1:30

24	2019年 10月3日 14:00 - 16:00	人文社会科学部棟ラ ーニングコモンズ	後期キックオフ会の最終確認・練習、イベ ントで使う備品の購入について	稲野遼、木村、佐久間、津田、松本	2:00
25	2019年 10月8日 16:00 - 17:15	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	チラシ配布・学生ボランティアとの事前顔合 わせについて、講演会の日程について	稲野遼、木村、佐久間、津田	1:15
26	2019年 10月19日 9:00 - 17:30	食と農のギャラリー葵、 マチノイズミ	310食堂のボランティアと、企画したイベント 「ハロウィンお菓子作り」の運営	稲野遼、木村、佐久間、津田、松本	8:30
27	2019年 10月29日 16:00 - 17:50	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	10月9日に行ったイベントの報告・反省会	稲野遼、木村、佐久間、津田、松 本、小池	1:50
28	2019年 11月5日 16:00 - 17:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	予定していた講演会を断念し、その代替案 について話し合った	稲野遼、木村、佐久間、津田、松本	1:30
29	2019年 11月15日 10:30 - 11:30	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	3分半の動画の内容の打ち合わせ	佐久間、津田、松本	1:00
30	2019年 11月15日 15:00 - 15:30	茨城県労働福祉会館	横須賀様に講演会を断念したことの報告と代 替案の提案をした	木村、津田、松本	0:30
31	2019年 11月16日 10:30 - 13:00	マチノイズミ	動画制作のための撮影	木村、佐久間、津田	2:30
32	2019年 11月19日 14:50 - 18:30	人文社会科学部棟 C401	動画作成	稲野遼、木村、佐久間、津田、松 本、小池	3:40
33	2019年 11月26日 16:00 - 18:30	人文社会科学部棟 C402	動画作成	稲野遼、木村、佐久間、津田、松 本、小池	2:30
34	2019年 12月3日 16:00 - 17:10	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	報告会の役割分担・打ち合わせ	木村、佐久間、津田、小池	1:10
35	2019年 12月7日 10:30 - 11:30	人文社会科学部講義棟 12番	報告会の練習	木村、佐久間、津田、小池	1:00
36	2019年 12月10日 16:00 - 17:30	人文社会科学部講義棟 11番	報告会の打ち合わせ、案内状の封入作業	稲野遼、木村、佐久間、小池	1:30
37	2020年 1月7日 16:00 - 17:20	茨城大学図書館一階 ラーニングコモンズ	2月のお菓子作りイベントについて	稲野遼、木村、佐久間	1:20
38	2020年 1月29日 12:30 - 14:30	茨城県労働福祉会館	イベントのチラシの受け取り、小学校へのチ ラシ配布	稲野遼、木村、小池	2:00
39	2020年 2月10日 13:00 - 15:30	マチノイズミ	イベントの試作・買い出しの打ち合わせ	稲野遼、木村、佐久間、小池	2:30
40	2020年 2月16日 11:00 - 17:30	食と農のギャラリー葵、 マチノイズミ	企画したイベント「バレンタインお菓子作り」 の運営、その後反省会	稲野遼、木村、佐久間、津田、小池	6:30
				合計	74:55

4：活動トピック

(1)10月親子参加型イベント（ハロウィンお菓子作り）の開催

松本真奈

<日時>2019年10月19日(土)

<場所>マチノイズミ、食と農のギャラリー葵

<活動内容>

310 食堂開催後に「10月親子参加型イベント（ハロウィンお菓子作り）」を開催した。今回は季節に合わせてサツマイモの茶巾づくりを学生ボランティアや参加者と共に行った。イベントには多くの子もたちと保護者の方、さらに飛び入り参加の高校生も参加し、茶巾づくりを通して交流を深めた。

このイベントは、普段310 食堂に「食べる」側として参加している子どもたちに今度は「作る」側として参加してもらいたいという目的のもと私たちが企画した。そして、310 食堂の運営母体であるセカンドリーグ茨城の横須賀様と中村様に提案して開催が決まったものである。そのため、学生ボランティアと参加者の募集、会場設営においては、セカンドリーグ茨城の皆様のお力をお借りして行った。

当日は総勢約30名の参加者や学生ボランティアが集まり、共に茶巾づくりを行った。さつまいもをつぶす作業がうまくいかず苦戦したが、保護者の方々と知恵を出し合うなど思わぬ形で交流を深めることができた。参加した子どもたちは終始元気いっぱい楽しそうに茶巾を作っており、保護者の方々もその姿を見て嬉しそうであった。セカンドリーグ茨城の皆様、そして学生ボランティアの方々の協力のもと、初めてのイベントを無事に終えることができた。

イベントの後には学生ボランティアや参加者から感想をいただいた。学生ボランティアからは「参加者もボランティアも楽しそうだった」「普段子どもと触れ合う機会が少ないため、新鮮でとても楽しかった」という声が多かった。参加者からも、「楽しかった」「娘が喜んでいた」という感想をいただき、とても嬉しく感じた。同時にイベントを行うやりがいも感じる事が出来た。今回のイベントを通じて、通常は子どもたちにとって「食べる場所」であった310 食堂が「作る場所」としても機能し、310 食堂の新たな可能性を見つけることが出来たと思う。

一方でイベントの準備不足といった改善点も上がった。私たちは事前の準備の際、チラシ（図3）を自分たちでデザインして配布をするなど広報に力を入れていた。しかしメンバー全員での試作や会場設備の確認を怠っていたため、進行がもたつく場面も見られた。このような改善点を解消し、2月にはよりよいイベントを行いたいと考えた。



図1：企画提案



図2：イベント当日（マチノイズミの様子）

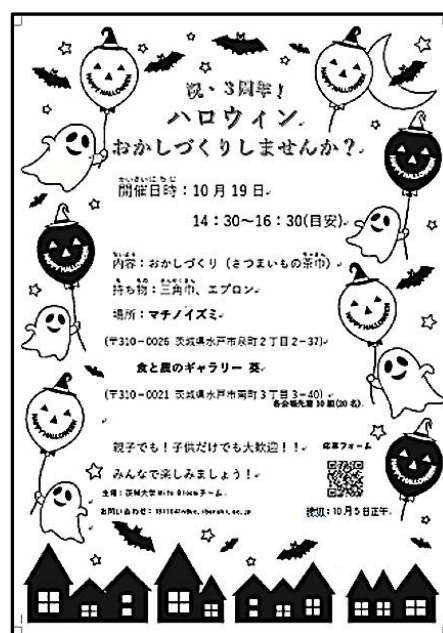


図3：チラシ原稿

(2)310 食堂 PR 動画作成・公開

稲野邊優香・松本真奈

310 食堂の知名度 UP と学生ボランティアの募集を呼びかけるため、PR 動画の作成を行った。茨城大学人文社会科学部の学生を対象に上映するための 1 分半程度の動画と、SNS で公開し多くの人に気軽に見てもらうための 30 秒程度の動画の、計 2 種類を 11 月末から 12 月初めにかけて作成した。作成にあたって 2019 年 11 月 16 日(土)に開催された 310 食堂の様子を撮影し、1 分半動画作成班を佐久間・津田・松本の 3 人、30 秒動画作成班を木村・小池・稲野邊の 3 人として編集を進めた。制作にかかった時間は約 16 時間である。なお、完成した動画の上映は以下の日時で行った。

①2019 年 12 月 3 日(火) 12:10~12:30

茨城大学人文社会科学部講義棟 10 番教室にて実施。

主に人文社会科学部 1 年次の学生に向けて上映。

②2019 年 12 月 6 日(金) 12:10~12:30

茨城大学人文社会科学部講義棟 13 番教室にて実施。

主に人文社会科学部 2 年次の学生に向けて上映。

2 日間の実施で、約 60 名に対して 310 食堂の PR をすることができた。上映の際には事前に作成した 310 食堂の認知度に関するアンケートを配布し、計 33 名より回答いただいた。アンケート結果は次ページで紹介する。また、SNS 上で公開用に作成した 30 秒程度の動画は Mito Bloom チームの Facebook と Twitter にて公開中である。



図 4 : 10 番教室での上映①



図 5 : 10 番教室での上映②



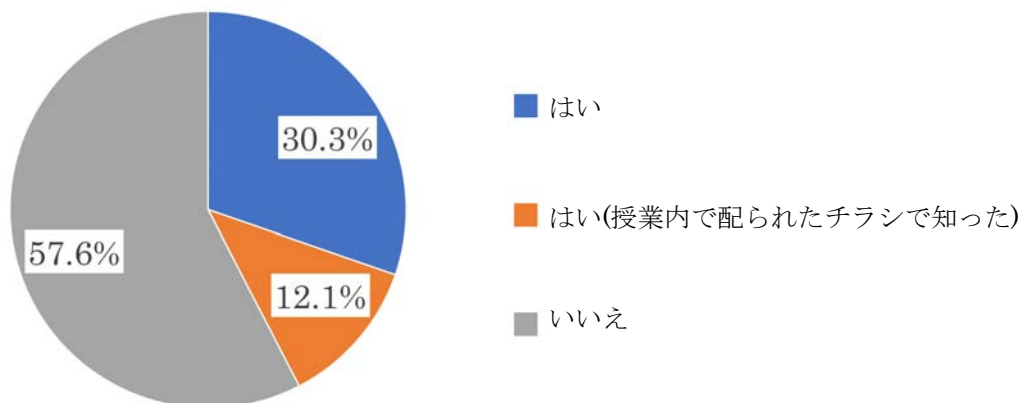
図 6 : 13 番教室での上映



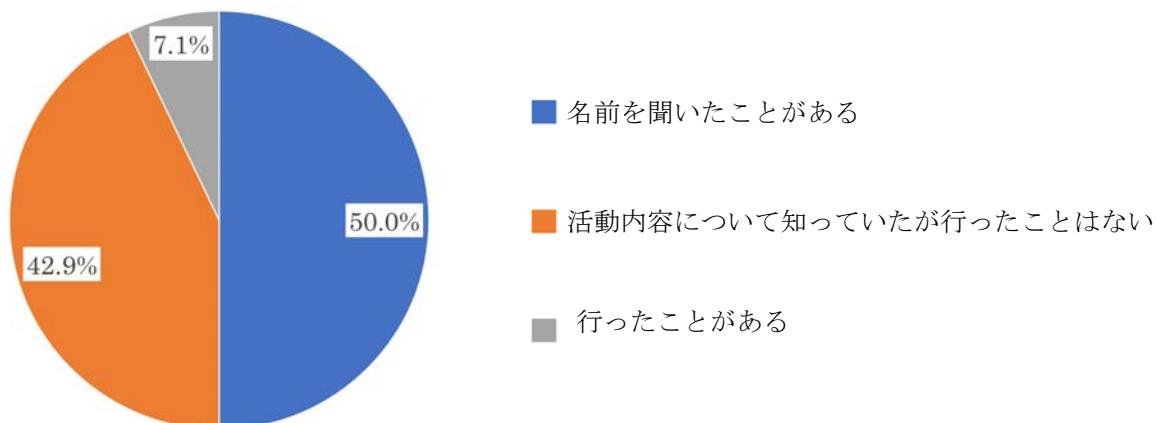
図 7 : 動画制作

<アンケート結果>

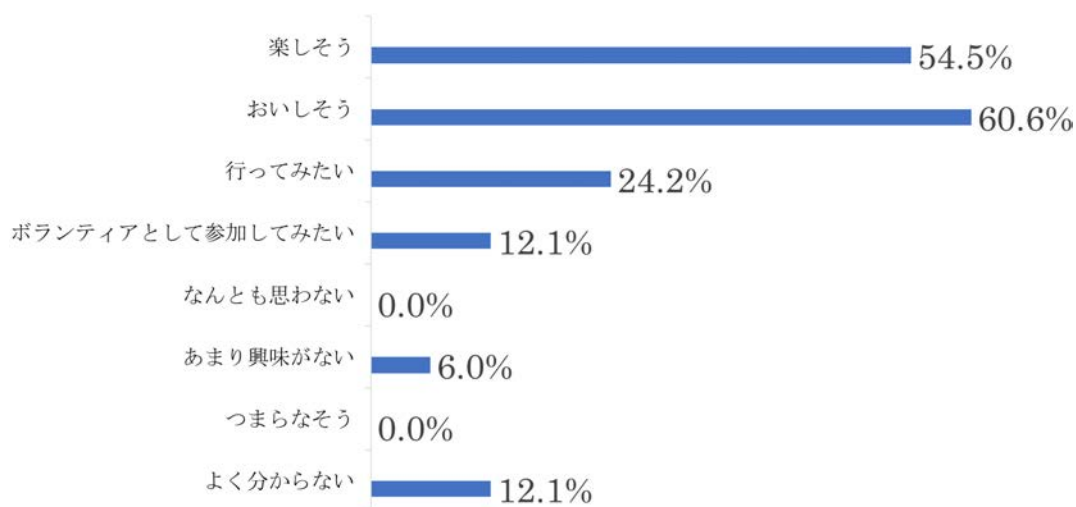
問1 以前から310食堂を知っていましたか？



問2 (問1で「はい」と答えた方に質問です。)どの程度知っていましたか？



問3 動画を見てどう感じましたか？(複数回答可)



主に問1の回答より、「いいえ」と回答した約6割の学生に310食堂の存在を認知してもらうことができたため、動画制作及び上映は成功であったとする。

(3)2月親子参加型イベント(バレンタインお菓子作り)の開催

稲野邊優香

<日時>2020年2月16日(日)

<場所>マチノイズミ、食と農のギャラリー葵

<活動内容>

10月に行ったイベントの第二弾として、「2月親子参加型イベント(バレンタインお菓子作り)」を開催した。今回のイベントでは、たこ焼き器を使った鈴カステラ作りを行った。当日の天気は雨であったが、両会場合わせて約30名の方々にご参加いただき、学生ボランティアの方も交えて交流をすることができた。

イベントは14:00開始であったが、メンバーは11:00から各会場にて準備を始めた。テーブルごとにたこ焼き器を1台置き、子供たちも簡単に作れるように必要な材料の分量は事前に量ってテーブルの上に用意しておいた。イベント開始後メンバーが鈴カステラの作り方を実際にやって見せ、その後はメンバーや学生ボランティアが所々手伝いながらも、子供たちが中心となってたくさん鈴カステラを作った。チョコレートシロップやアラザン等で自由にトッピングをしてもらい、「自分で最初から最後まで作る」という達成感を参加してくれた子供たちに強く感じてもらうことができたと思う。また、10月のイベントよりも共同作業が多かったため、子供同士・親同士の会話も弾んでいる様子だった。保護者の方からは、「普段は家で鈴カステラを作ることがないので、こういう機会を設けてもらえて良かった」、「これを機に家でも作ってみたい」といった感想をいただき、今回のイベントを企画・運営できたことを非常に嬉しく思う。

当日に至るまでは、今回もセカンドリーグ茨城の皆様にご協力いただきながら、チラシ(図8)の作成や配布、当日用いる材料の調達など多岐にわたって自分たちで行った。10月に行った第1回親子参加型イベントの際に見つかった「道具の準備不足によるイベント進行の不順」などといった改善点を考慮し、2月10日にはマチノイズミをお借りして試作を行った。前回よりも入念な準備と確認をした甲斐もあり、今回のイベントは大きな問題なく順調に終わることができた。私たちにとって今年度のプロジェクトの最後の活動となるイベントであったため、成功を収めることができてほっとした。一方で、イベント中にテーブルごとの進行状況に差が出てしまった際の対応など、より柔軟な対応が今後の課題としてあがった。また、多世代交流を狙って応募対象を広げたものの中高生の参加は叶わず、彼らに対するイベントの広報不足といった反省点も見つかった。今後またイベントを開催する際にはこういった点を意識し、より良いものとなるよう努力したい。



図8: チラシ原稿



図9: イベント当日(食と農のギャラリー葵の様子)



図10: イベント終了後の集合写真

6：おわりに

佐久間秀斗

今年度、6名のメンバーによって Mito Bloom チームが始動した。突然の課題取り下げなど予期せぬことにも遭遇したが、自分たちで課題を模索しながら活動を続けていった。そして他のチームに遅れを取りながらも無事に活動を遂行することができ、達成感を感じている。

結成直後はチームの活動方針に大きく悩み、自分たちが望むように進まないこともあった。しかし、「必ずしも思うように活動が進んでいくわけではない」という貴重な学びとして受け止め、活動の糧にすることができた。その後の活動においても自分たちで一から企画を考えたため終始奔走したが、どんなことも経験として学び得ることができた。

例えば2度の親子参加型イベントの開催を通し、事前準備の大切さを学んだ。10月に開催した親子参加型イベントの茶巾作りでは多くの親子や学生に楽しんでもらうことができた一方で、初めてのイベント開催ということもあり準備不足の面もぬぐえなかった。そのため2月に同様のイベントを開催した際は、事前に会場でリハーサルを行うなど反省点の改善に努めた。その結果、当日はもたつくこともなくスムーズにイベントを進めることができ、イベントとしての完成度をぐっと上げることができた。このようにイベントを通して得た知識やスキルは、他にもスケジュール管理の重要性など多岐にわたり、今後様々な場面において役立つものになると確信している。

さらにイベントの運営を通して参加者同士の交流を間近で体験できたことは、地域コミュニティの実態をよりリアルに感じることにもつながった。予想外の参加者同士の交流が生まれるなど、コミュニティの中身は複雑で実際に現場にいないと体感できないものだった。地域コミュニティの希薄化が問題視されている世の中であるが、交流イベントの需要はまだまだ健在だ。イベントの集客力や参加者の声から、地域での交流イベントに参加したいと思っている人が多く存在することが分かり、継続的にイベントを実施して交流のきっかけをつくることが重要であると実感した。また、こういったイベントを多くの方に認知してもらうことも大切であり、私たちが作成・配布したチラシや310 食堂 PR 動画は、広報媒体として効果を発揮できたと考えている。特にPR動画に関しては今後も様々な用途で活躍できるのではないだろうか。以上の点から今回の私たちのプロジェクトは、自分たちのスキル向上だけではなく地域コミュニティにとっても意味のあるものになったと実感している。

今後については、引き続き地域コミュニティを強化するために活動を続けていきたい。次年度以降も Mito Bloom チームの活動を続けていけるよう、新たにプロジェクト演習を履修する学生たちに積極的に声かけをしていきたいと思う。そして310 食堂の皆様と協力し、より一層の310 食堂の充実化と継続を目標に活動していきたい。また、現在のメンバーもそれぞれボランティアとして参加したり、SNSを活用して310 食堂の活動を学生の間で広めたりするなど、個人単位でできることを実践していきたいと思う。

末尾になりますが、私たちの活動にあたり多大なる支援をいただきました水戸市内の皆様、そして鈴木敦先生をはじめとする諸先生方に厚く御礼申し上げます。

4 : KoriNa チーム

リーダー	: 松山 実玖	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
副リーダー	: 中山 瑠伽	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	: 金子 友香	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
書記	: 相島優里香	茨城大学教育学部学校教育教員養成課程	2年
会計	: 安藤 未羽	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
渉外	: 比氣 梓	茨城大学教育学部学校教育教員養成課程	2年

主担当教員 : 神田 大吾 茨城大学人文社会科学部准教授
副担当教員 : 鈴木 敦 茨城大学人文社会科学部 教授

チーム KoriNa

1 : はじめに

松山実玖

私たちチーム KoriNa は、茨城への地域貢献と自らの語学力向上を主な目的として活動する学生提案のプロジェクトチームである。2019 年度に新規に成立したチームで、人文社会科学部 4 名と教育学部 2 名で構成されている。チーム名の KoriNa は Korea と China を組み合わせて名付けた。

具体的な活動として、当初は観光地での多言語ガイドを提案していた。しかし、学生の語学力の不足と目標到達度が分かりにくいという問題が生じた。そこで、既にある日本語・英語のリーフレットを翻訳し、中国語版・韓国語版のリーフレットを一から作成することへ方針を転換した。実際に、五浦美術文化研究所のリーフレットを翻訳し、然る人物に確認していただき、現物を納品した。五浦美術文化研究所を訪れた観光客の方々が、私たちの作成したリーフレットを手にとっていただけたら大変うれしく思う。

プロジェクトの進行にあたり、さまざまな課題にぶつかったが、多くの方々の力をお借りし、またチームで助け合い、無事にプロジェクトを終えることができた。

これから、1 年間の私たちの成長と活動の成果を記していく。この報告が茨城の地域貢献に興味を持つきっかけになることを期待している。

(<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/archive.html>)

2 : 活動概要

金子友香・相島優里香

(1)活動目標

①チーム目標

- (i)各メンバーの中国語・韓国語のスキルアップ
- (ii)外部機関等との連絡・連携を通して得られるコミュニケーション能力の向上
- (iii)中国語・韓国語版リーフレット作成

②プロジェクト目標

上記①の(i)~(iii)を達成することによって、茨城県の観光資源の PR に貢献することである。

(2)主な活動と概要

私たちチーム KoriNa は、中国語担当 3 人、韓国語担当 3 人によって構成された 6 人チームである。メンバーはそれぞれ、初修外国語にて中国語・韓国語を履修し、その力を生かす・向上させるためにチームを結成した。以下、私たちの主な活動とその概要について述べる。

①当初の目標

期間：2019 年 5 月 9 日～5 月 29 日

概要：

私たちのチームは(上記(1)-①-(iii)に該当)、茨城県の観光施設にてボランティアガイドを行うことを目標としていた。したがって、現地にてガイド活動を行える施設やイベントの模索を行っていた。

②目標の転換

期間：2019年5月29日～6月16日

概要：

①に引き続きボランティアガイド活動を行える施設等を模索するべく、2019年5月29日に茨城大学社会連携センターの職員の方とミーティングを行った。その際に、「初修外国語にて学んだレベルでは、現地ガイドを遂行することは能力的に困難ではないか。」という貴重なご意見を頂戴してメンバーの能力不足を実感し、目標を変更することとなった。これを受けて、授業担当教員も交えたミーティングにより、既存のリーフレットを翻訳することで、確実に語学能力を身につけられ、成果物として残る翻訳版リーフレットの作成へと目標を転換した。基とする既存リーフレットは、茨城大学に管轄のある「茨城大学五浦美術文化研究所」と「茨城県北ジオパーク構想」の2つとした。

③ネイティブチェック

期間：2019年6月17日～7月11日

概要：

翻訳版リーフレットを作成するにあたって、学生のみで翻訳するだけでは、印刷物として内容の質を十分に確保できないという問題点があった。そこで、中国語・韓国語を母語とするネイティブの方に内容をチェックしてもらう「ネイティブチェック」が必要であり、その依頼先を模索していた。その中で、赤岩先生より特別に依頼先をご紹介いただき、メンバーが作成した文章をチェックしていただけることとなった。

④翻訳作業

期間：2019年7月18日～9月18日

概要：

ネイティブチェック依頼先に提出するまで、中国語班・韓国語班にわかれ、各班翻訳作業を行った。

⑤問題点

期間：2019年11月13日～11月27日

概要：

実際に「茨城大学五浦美術文化研究所」と「茨城県北ジオパーク構想」の2つを今年度中に印刷することは困難であると判断し、「茨城大学五浦美術文化研究所」のみの印刷とした。その矢先、中国語・韓国語のそれぞれ基とした日本語の原文が異なっていることが発覚した。「茨城大学五浦美術文化研究所」の既存リーフレットは日本語と英語で構成されているが、私たちは各班に分かれて作業していたため、それぞれの部分を利用して翻訳するかの連携が取れていなかった。印刷物作成や翻訳作業の経験が無かったメンバーでは、原文を統一することの重要性に気づくことができず、問題発覚に遅れが生じた。しかし、担当教員や茨城大学の留学生などの協力を得て、日本語統一作業と再度の翻訳作業を終え、無事印刷会社への入稿が完了し、12月6日に納品していただいた。

⑥広報活動

期間：2019年12月13日～12月14日

概要：

完成した「茨城大学五浦美術文化研究所」の中国語・韓国語版リーフレットは、12月13日にメンバーが現地へ行き、「中国語・韓国語リーフレットの取扱いがある」旨のポップとともに設置していただいただけでなく、「茨城大学五浦美術文化研究所」の広報活動としても茨城県庁国際観光課、教育長文化課にも配布した。

3 : 議事録・活動記録

金子友香・相島優里香

表 1 : 議事録・活動記録

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 5月9日 11:00 - 12:30	茨城大学図書館 学習室S1	今後の方針について、語学班の確認	松山、中山、安藤、金子、相島、比氣	1:30
2	2019年 5月14日 11:50 - 12:30	茨城大学図書館 学習室S1	構想書の内容確認、名刺・チラシ作成について	松山、中山、安藤、金子、相島	0:40
3	2019年 5月17日 14:30 - 16:00	茨城大学図書館 学習室S1	尾崎さんとの打ち合わせ報告、実習場所の調査、アポイント先の確認	松山、中山、安藤、金子、比氣	1:30
4	2019年 5月22日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館 ラーニングcommons	韓国語文法の学習	安藤、金子、相島、	1:30
5	2019年 5月24日 14:20 - 16:00	茨城大学図書館 学習室S1	アポイント先について、翻訳オーディオガイドの作成について	松山、安藤、金子、相島、比氣	1:40
6	2019年 5月29日 10:00 - 11:30	茨城大学 社会連携センター	アポイント先のニーズと自分たちの技術、アポイント先について	松山、金子、比氣	1:30
7	2019年 5月29日 11:30 - 12:30	茨城大学 国際交流室	中国語班学習 文法	松山、比氣	1:00
8	2019年 5月29日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館 ラーニングcommons	韓国語文法の学習	金子、相島	1:30
9	2019年 5月30日 11:30 - 12:30	茨城大学図書館 ラーニングcommons	中国語班学習 文法	松山、中山	1:00
10	2019年 5月31日 11:30 - 12:30	各自宅	中国語班学習 文法	松山、中山、比氣	1:00
11	2019年 5月31日 14:00 - 16:00	茨城大学図書館 学習室S1	社連との打ち合わせ報告、翻訳パンフレット作成について、	松山、中山、安藤、金子、相島、比氣	2:00
12	2019年 6月6日 14:00 - 14:20	保和苑	現地調査、パンフレットの有無	安藤	0:20
13	2019年 6月6日 14:30 - 17:00	県立歴史博物館	現地調査、パンフレットの有無	安藤	2:30
14	2019年 6月11日 17:30 - 18:50	人文学部 ラーニングcommons	赤岩先生との話し合いのための事前ミーティング	中山、安藤	1:20
15	2019年 6月12日 11:40 - 12:40	人文学部13	6/11のミーティング内容の情報共有	松山、安藤、金子、	1:00
16	2019年 6月14日 12:00 - 12:40	茨城大学図書館 ラーニングcommons	6/11のミーティング内容の情報共有	松山、中山、安藤、金子、相島、比氣	0:40
17	2019年 6月14日 14:20 - 15:50	社会連携センター、 ジオパーク推進室	パンフレットの印刷業者、設置場所、作成方法などを調査	中山、相島	1:30
18	2019年 6月17日 9:00 - 10:00	茨城大学図書館 学習室S1	赤岩先生とのミーティング	松山、中山、安藤、金子	1:00
19	2019年 6月18日 12:10 - 12:30	茨城大学図書館 ラーニングcommons	赤岩先生とのミーティング内容確認、現地調査班を設定	松山、中山、安藤、相島、比氣	0:20
20	2019年 6月19日 11:30 - 12:30	各自宅	中国語班学習 文法	松山、中山、比氣	1:00
21	2019年 6月21日 12:00 - 12:40	人文学部10	ネイティブチェックの問い合わせ内容確認	松山、金子、相島、比氣	0:40

22	2019年 6月25日 12:10 - 12:40	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	現状の情報確認、ジオパークへの正式なプロジェクト協力の依頼	中山、安藤、金子、相島、比氣	0:30
23	2019年 6月28日 12:00 - 12:40	人文学部10	補助金、五浦・ジオパークに問い合わせること項目の確認	松山、中山、金子、比氣	0:40
24	2019年 7月1日 17:40 - 18:00	ジオパーク推進室	パンフレット部数、著作権料、前向きな印刷経費の支援	松山、安藤	0:20
25	2019年 7月4日 11:30 - 12:30	iop情報室	中国語班学習 翻訳	松山、中山、比氣	1:00
26	2019年 7月5日 11:50 - 12:40	人文学部10	7/11の訪問のことについて、事前ミーティングを行いたい、原稿完成目標	松山、中山、安藤、金子、相島、	0:50
27	2019年 7月8日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	五浦パンフレット英文を日本語へ翻訳	安藤、金子、相島、	0:30
28	2019年 7月10日 12:40 - 13:40	茨城大学図書館 学習室S1	7/11の三の丸でのミーティングに向けた事前打ち合わせ	松山、安藤、金子	1:00
29	2019年 7月11日 10:00 - 10:30	水戸市三の丸庁舎	ネイティブチェック受け入れのお礼、チームの活動・今後の方針	松山、中山、金子	0:30
30	2019年 7月12日 11:50 - 12:40	人文学部10	三の丸ミーティング内容報告、中間報告会準備、	松山、安藤、金子、相島	0:50
31	2019年 7月15日 15:00 - 17:00	各々自宅でグループ 通話	中間報告会PPT内容	松屋、中山、安藤、金子	2:00
32	2019年 7月16日 11:50 - 12:30	人文学部10	構想書・PPT修正、藤原先生研究室訪問の内容確認、印刷代	松山、安藤、中山、金子、相島、比氣	0:40
33	2019年 7月18日 11:30 - 12:30	各自宅	中国語班学習 文法	松山、中山、比氣	1:00
34	2019年 7月18日 11:50 - 12:30	人文学部10	五浦パンフレット課題にした日本語訳かた韓国語へ翻訳	安藤、金子、相島、	0:40
35	2019年 7月22日 11:30 - 12:30	各自宅	中国語班学習 文法	松山、中山、比氣	1:00
36	2019年 7月25日 11:30 - 12:30	各自宅	中国語班学習 文法	松山、中山、比氣	1:00
37	2019年 7月25日 16:00 - 16:40	人文学部B棟204	藤原先生とのミーティング、五浦パンフレットの判型・印刷部数について	安藤、相島	0:40
38	2019年 7月26日 12:00 - 12:40	人文学部10	藤原先生との内容報告、期末レポート	松山、中山、安藤、金子、相島、比氣	0:40
39	2019年 7月30日 11:50 - 12:20	人文学部10	チーム活動記録簿訂正	松山、中山、安藤、相島、比氣	0:30
40	2019年 8月9日 12:00 - 12:30	人文学部10	フィールドワーク日程決め、課外活動申請書提出	松山、中山、安藤	0:30
41	2019年 8月10日 10:30 - 12:15	カスミ2階 イートインスペース	韓国語班 翻訳	安藤、金子、相島	1:45
42	2019年 8月13日 10:20 - 12:00	茨城大学 国際交流会館	中国語班 翻訳	松山、比氣	1:40
43	2019年 8月22日 10:20 - 12:00	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	ジオ推進室メール内容確認、翻訳の進捗状況確認、五浦現地調査について	松山、中山、安藤、金子、比氣	1:40
44	2019年 8月22日 15:30 - 19:30	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	韓国語班 翻訳	安藤、相島	4:00
45	2019年 8月23日 10:00 - 12:00	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	韓国語班 翻訳	安藤、金子、相島	2:00
46	2019年 8月24日 10:30 - 15:00	カスミ2階 イートインスペース	韓国語班 翻訳	安藤、金子、相島	4:30
47	2019年 8月24日 15:30 - 18:00	カスミ2階 イートインスペース	韓国語班 翻訳	金子、相島	2:30

48	2019年 8月26日 10:00 - 14:00	水戸市千波湖	ジオパーク千波湖周辺のフィールドワーク	松山、安藤、相島、比氣	4:00
49	2019年 8月27日 10:00 - 12:00	カスミ2階 イートインスペース	韓国語班 翻訳	安藤、相島	2:00
50	2019年 8月29日 10:00 - 14:00	各自宅	韓国語班 翻訳	金子、相島	4:00
51	2019年 8月30日 10:00 - 10:30	茨城大学図書館 ラーニングcommons	社連との打ち合わせに向けた事前ミーティング	安藤、金子、相島	0:30
52	2019年 8月30日 10:30 - 12:10	茨城大学図書館 ラーニングcommons	韓国語班 翻訳	安藤、金子、相島	1:40
53	2019年 8月30日 13:00 - 14:50	茨城大学図書館 ラーニングcommons	韓国語班 翻訳	金子、相島	1:50
54	2019年 8月30日 15:00 - 15:50	社会連携センターM3	五浦パンフレットについて社連の方とミーティング	金子、相島	0:50
55	2019年 8月31日 10:00 - 16:00	茨城大学 五浦美術文化研究所	五浦にてフィールドワーク	中山、安藤、金子、比氣	6:00
56	2019年 9月1日 11:00 - 12:00	茨城大学図書館 ラーニングcommons	ジオパーク記載内容について	松山、安藤、比氣	1:00
57	2019年 9月3日 11:00 - 12:00	茨城大学図書館 ラーニングcommons	中国語班 翻訳	松山、比氣	1:00
58	2019年 9月4日 18:00 - 20:00	各自宅	中国語班 翻訳	松山、中山、比氣	2:00
59	2019年 9月5日 13:00 - 14:00	各自宅	中国語班 翻訳	中山	1:00
60	2019年 9月5日 14:00 - 15:00	各自宅	中国語班 翻訳	松山	1:00
61	2019年 9月5日 13:00 - 15:00	各自宅	中国語班 翻訳	比氣	2:00
62	2019年 9月9日 10:00 - 12:00	各自宅	韓国語班 翻訳	安藤、相島	2:00
63	2019年 9月10日 10:20 - 16:00	茨城大学教育学部B 棟1階ラウンジ	韓国語班 翻訳	安藤、相島	5:40
64	2019年 9月10日 18:00 - 20:00	石岡市 ココス	中国語班 翻訳	松山、中山	2:00
65	2019年 9月11日 10:00 - 16:00	茨城大学教育学部B 棟1階ラウンジ	韓国語班 翻訳	安藤、相島	6:00
66	2019年 9月12日 11:00 - 12:00	茨城大学ジオパーク 推進室	翻訳内容について確認	松山、安藤	1:00
67	2019年 9月12日 17:00 - 19:00	各自宅	中国語班 翻訳	松山、中山	2:00
68	2019年 9月14日 12:00 - 14:00	安藤家宅	韓国語班 翻訳	安藤、相島	2:00
69	2019年 9月14日 17:00 - 19:00	各自宅	中国語班 翻訳	松山、中山	2:00
70	2019年 9月17日 11:00 - 12:15	藤原先生研究室	藤原先生とのミーティング、翻訳文確認	安藤、相島	1:15
71	2019年 9月18日 10:20 - 12:00	各自宅	韓国語班 翻訳	安藤、相島	1:40
72	2019年 9月18日 12:00 - 14:00	茨城大学図書館ラー ニングcommons	中国語班 翻訳	松山、中山	2:00
73	2019年 10月1日 17:40 - 18:10	茨城大学図書館ラー ニングcommons	後期キックオフ報告会原稿作成(1)	松山、安藤	0:30

74	2019年 10月2日 18:30 - 20:00	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	後期キックオフ報告会原稿作成(2)	松山、金子、相島	1:30
75	2019年 10月7日 17:30 - 18:30	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	11日のミーティング事前準備	松山、金子、比氣	1:00
76	2019年 10月11日 9:00 - 10:00	茨城大学人文社会科 学部C棟406教室	神田先生と鈴木先生と軌道修正	松山、中山、安藤	1:00
77	2019年 10月18日 9:00 - 10:00	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	先生方とのミーティングに向けて準備	中山、安藤、金子	1:00
78	2019年 10月21日 17:30 - 18:20	茨城大学図書館2階 S1	神田先生、赤岩先生とのミーティング	松山、金子	0:50
79	2019年 10月25日 8:40 - 10:10	茨城大学人文社会科 学部C棟406教室	ミーティング兼神田先生とのミーティング	松山、中山、安藤、金子、相島	1:30
80	2019年 11月1日 8:40 - 10:10	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	ネイティブチェック返却、新しい翻訳作 業	松山、中山、安藤、金子	1:30
81	2019年 11月8日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	ポスターセッションの内容について	中山、安藤、金子、相島	1:10
82	2019年 11月11日 17:30 - 18:40	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	初校の修正作業	松山、安藤、金子	1:10
83	2019年 11月14日 8:40 - 10:00	茨城大学人文社会科 学部C棟306教室	翻訳原文の日本語不一致発覚	中山、安藤	1:20
84	2019年 11月15日 16:00 - 19:00	茨城大学人文社会科 学部C棟305教室	日本語統一作業	中山、安藤	3:00
85	2019年 11月21日 14:30 - 19:00	茨城大学人文社会科 学部C棟305教室	初稿戻り赤入れ	中山、安藤	4:30
86	2019年 11月22日 8:40 - 10:00	茨城大学図書館2階 S2	ミーティング兼先生との赤入れ確認	松山、中山、安藤、金子	1:20
87	2019年 11月26日 10:00 - 11:00	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	中国語班ミーティング 初稿チェック	松山、中山	1:00
88	2019年 12月6日 8:40 - 10:00	茨城大学図書館2階S 2	最終報告会リハーサルについて	松山、中山、安藤、金子、相島	1:20
89	2019年 12月13日 9:40 - 11:00	茨城県庁	県庁訪問、リーフレット配布	金子、相島	1:20
90	2019年 12月14日 9:00 - 15:30	茨城大学五浦美術文 化研究所	リーフレット配布	松山、安藤、金子	6:30
91	2019年 12月20日 9:00 - 10:00	茨城大学図書館ラー ニングコモンズ	最終報告会リハーサル、原稿確認	中山、安藤、金子、相島	1:00
92	2019年 12月26日 9:00 - 10:10	インフォメーションラウ ンジ	ラジオ打ち合わせ	中山、安藤	1:10
93	2019年 12月28日 11:30 - 12:30	茨城放送	ラジオ出演	中山、安藤	1:00
				合計	149:10

4：活動トピック

安藤未羽

私たちチーム KoriNa は、五浦美術文化研究所の中韓版リーフレットを完成させることをプロジェクトの最終目的として活動した。その中でチームメンバーの語学力のスキルアップと、コミュニケーション能力向上を図り、そして完成したリーフレットによって茨城県の観光資源の PR に貢献できればと考えた。

(1) 翻訳作業

日時：夏休み期間中

場所：図書館・ラーニングcommons

中国語班と韓国語班に分かれて翻訳作業を行った。五浦美術文化研究所の既存リーフレットは日本語と英語で記されたものだった。英語文は日本語で書かれた内容よりも海外の観光客の方々向けに噛み砕いて書いてあったので、我々も基本的に英語文に従って翻訳作業をすることになった。まず英語文を日本語に訳してから、続いて中国語と韓国語に訳していくという手筈だ。日本語と細かいニュアンスが異なったり、日本語の単語を適切に言い換える単語を探すのに苦労したりした。

(2) 五浦美術文化研究所での現地調査

日時：2019年8月31日

場所：五浦美術文化研究所

実際に施設に出向いて現地調査を行った。翻訳中に疑問を感じた部分や、似た意味のある単語のどちらを使用するか迷っていた部分などについて、実際の施設を見ることで明らかになる部分が多かった。特に五浦美術文化研究所の敷地内の地形を説明している部分に関しては、実際に現地に足を運んだからこそより繊細なニュアンスを伝える翻訳文が書けたのではないかと自負する。



図1：五浦海岸を見つめる



図2：旧天津邸にて

(3) 校閲作業

日時：2019年11月11日～12月1日

場所：図書館・ラーニングcommons

ネイティブチェック（中国語、韓国語を母国語とする方々に翻訳文のチェックをしていただいた）を終えた翻訳文を印刷会社に送り、戻ってきた初稿の訂正作業を行った。元々送った文章と異なる部分はないかを細かくチェックしたのだが、中国語と韓国語、どちらの翻訳文に関してもその言語を学習したことのある人でなければ校正できない文であったため、大変苦労した。

(4) 日本語統一作業

日時：2019年11月15日

場所：人文社会科学部 C棟 4階教室

中国語班と韓国語班で別々に翻訳作業に取り組んでいたために、翻訳の元となった文章が双方で食い違っていたことが発覚した。翻訳し終えた文章には、既存日英版リーフレットの、

- ・日本語部分を直接翻訳した部分
- ・英語文部分を日本語訳してから中国語と韓国語に翻訳した部分
- ・英語文を直接翻訳した部分

が混在していた。一度翻訳し終えた文を改めて日本語に直し、それらを統一する作業を行った。

(5) 完成したリーフレットの受け渡し

日時：2019年12月4日

場所：五浦美術文化研究所

夏に続いてもう一度現地に出向き、職員の方に正式に完成したリーフレットの受け渡しを行った。既存の日英版リーフレットは入館者に配布することになっているが、今回制作した中韓版パンフレットに関しては、既存の日英版リーフレットと共に希望した人にお渡しすることとなった。



图3：完成したリーフレットの表紙面

图4：完成したリーフレットの本文面



5 : おわりに

中山瑠伽

ついに、リーフレット翻訳 KoriNa の活動に終止符が打たれた。私たちはこのプロジェクト演習において「リーフレット翻訳」を中心に活動してきた。本報告書内のチーム KoriNa、最後の項目である本文に、今回のプロジェクトを振り返っていきいたい。

私たちの結成のきっかけは、企業提案ではなく学生提案であった。「初修外国語」、つまり日本語と英語以外に学習した言語の能力を向上させたい、という人を集めて結成された。私は中でも、発案者から最初に誘われた初期のメンバーであった。「もし、メンバーがあつまらなかったら諦めよう。」、そのような気持ちで始めたはずだった。しかし、この初修外国語について考えれば考えるほどに、能力向上を目指したいと思うようになり、もともと4名集まっていたメンバーに、最終的に教育学部からの2名を追加して中国語3人、韓国語3人の6人でメンバーを決定した。

そんなチーム KoriNa は初め、初修外国語のスキルを上達させ茨城県内の観光施設においてボランティアガイドを実施する、という目的で活動を開始した。しかし、やはり半年や1年学んだだけのスキルではガイドする、つまり現地で生まれる質問などに答えることは難しいのではないかと、という判断によりガイドを断念することにした。では、何をするか。その時、私たちの中で「既存のリーフレットを初修外国語に翻訳するのはどうか」という意見が出た。チーム内ではやはりガイドをしたい、という意見もあった。だが、確実に力をつけ、また形として残るものにするすることで、チームの最終目的を達成できるのではないかとという話に落ち着き、リーフレット翻訳の方針転換をした。

私たちのチームの目標は「各メンバーの中国語・韓国語のスキルアップ」、「外部機関等との連絡・連携を通して得られるコミュニケーション能力の向上」、そして方針転換後に決めた目標である「中国語・韓国語版リーフレットの作成」の3つである。また、プロジェクトの目的は「茨城県の観光資源のPRに貢献すること」であった。

上記の通り、目標を立てて行ってきた活動であったが、様々な問題や衝突もあった。翻訳作業を各言語班で分けて行っていたことにより、元とした日本語の原稿に差ができたことや、当初予定していた2か所のリーフレット作成が時間の関係上不可能になったこと。多くの問題に直面するたびに、メンバー間での連携の大切さや先生方、並びにご協力者様のありがたみを感じ、また私たちの学びを深めてきた。

今回、私たちはチームの目標の3つを達成できたのではないかと考えている。実際に、検定合格や留学・留学生との交流にも積極的になり、またリーフレットも完成させることができた。しかし、プロジェクトの目的は、現地の五浦美術文化研究所の設置のみであり、効果を確認できていないため達成したとは言い難い。今後はリーフレットの効果を測ること、私たちのリーフレットを様々な場所に設置するなどの展望を持っている。

私たちは今回、様々な面で、このプロジェクト演習を通して学びを深めてきた。一口に言えばそれは、直面した課題への早期発見の大切さ、そしてその課題への解決力である。このプロジェクトでメンバー各々がその力を身に付けられたのではないだろうか。

今回のプロジェクトが成功を収められたのは、先生方やご協力者様、家族、友人など、様々な面で協力してくださった方々のお力添えがあったからこそである。メンバー一同、心より感謝している。最後ではあるが、このプロジェクト演習で学んだ多くのことは今後の学校生活はもちろんのこと、社会人生活にも存分に活かすことのできるスキルであると思う。このチーム KoriNa の活動はここで終了かもしれない。しかし、苦楽を共にしてきたメンバーは人生でそう簡単に巡り合うことのできない一種“戦友”のような存在であり、筆者である私は、このプロジェクトに協力してくださった方々と同様、メンバーにも大変感謝している。多くの方とのめぐり合わせがある。授業を聞くだけではできないような多くの経験ができる。私はこのプロジェクト演習に参加して良かったと思う。

この経験を活かし活躍できる、そんな道を歩んでいくことを目指し、本報告書内、チーム KoriNa の項目の結びとさせていただきます。

5:さとみ・あいチーム

リーダー	: 軍司 真奈	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
副リーダー	: 関口 佳恵	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	: 川和 里帆	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
書記	: 澤田由季乃	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
会計	: 池田 拓野	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
メンバー	: 江口 紗姫	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 大村みるほ	茨城大学教育学部情報文化課程	4年
メンバー	: 北野 友香	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 塩手菜々美	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 戸谷実花子	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 永田 典子	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 野平 知里	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 羽田野里菜	茨城大学人文社会科学部人文コミュニケーション学科	4年
メンバー	: 久利生秋華	常磐大学総合政策学部総合政策学科	3年
メンバー	: 寺元 彰徳	常磐大学総合政策学部総合政策学科	3年

主担当教員: 岩佐 淳一 茨城大学教育学部 教授
主担当教員: 鈴木 敦 茨城大学人文社会科学部教授

さとみ・あいチーム活動報告

1：はじめに

池田拓野

茨城大学人文社会科学部プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱでは、数々のフィールドワークにてその地域の知識を得て、ミーティングを行い、課題とその解決方法を見つけ出し、地域、そして社会に貢献する方法を模索していく。私たち「さとみ・あい」は、茨城県常陸太田市里美地区を拠点にして、様々な人と関わりながら活動している。

常陸太田市里美地区（以下、里美）は、茨城県最北端に位置し、中山間地域である。少子高齢化や過疎化が進んでおり、将来の日本の姿ではないかと、私たちに想像させる。この地区では、在来作物「里川カボチャ」の存在や、美しさに目を奪われる豊かな自然に囲まれながらも、その資源を有効に利用できず、里美の関係人口の取得につなげられていないことが課題である。

今年度のさとみ・あいは8年目であるが、去年から活動している茨城大学の3年生が在籍していない。つまり、常磐大学3年生と、茨城大学4年生は在籍しているものの、メインメンバーは全員2年生であるため、活動1年目でわからないことも多く、活動の方法の模索にかなり苦戦した年であった。里美の求めている活動・成果と、私たちの行っている活動・成果が合致しているのかわからず、かなり葛藤があった。

プロジェクトの目的は、段階的に遂行することとした。まず、「広報、販売などを通じて里美の情報を発信」することで「里美について知ってもらうきっかけを作る」。その結果「魅力を知ってもらい、関係人口増加を目指す」ことにした。

上記のことを達成するために、今年度のさとみ・あいは3つの柱の下で活動した。以前からご協力いただいている「里川カボチャ」の第一人者、荷見誠様、大中地区にて地域おこしを模索する、小林信房様。そして今年度から私たちの活動に関わってくださることとなった、オランダにて農業を学び、そこで得たノウハウを里美にて活用している、有機野菜農家の石川歩様。これら3名の方が私たちに課題を提示し、地域活性化の方針を定めてくださった。

私たちが活動を通じて養っていくべき能力は以下の4点である。まず、私たちが積極的に、能動的に課題と向き合っていく「主体性」。次に、里美の魅力を発信していくことで必要とされる「働きかけ力」、「コミュニケーション能力」。里美の持つ問題や魅力を知り、現状を分析し、解決のために行動することで培われる「課題解決能力」。これらを活動でのチームの目的として設定した。

上記で述べたように今年度から、有機野菜農家の石川様と提携した。若い世代という新たな力は、少子高齢化、過疎化という課題を持った里美地区において頼もしい存在である。ほとんどゼロからの状態で始まった新体制のさとみ・あいの今年度の活動をこれから記録していく。

2：活動概要

関口佳恵

(1) 活動目標

常陸太田市里美地区の魅力を広報、販売を通じて発信し、里美地区外の人々に里美地区について知ってもらい、さらに里美地区に関わってもらえるようなきっかけをつくることによって関係人口の創出に貢献する。

(2) 活動の概要

チームはプロジェクト演習（地域連携・地域貢献）のカテゴリーに属する。茨城大学のスタッフ編5名、メンター編9名、常磐大学の3年生2名の計16名で編成されている。本年度で、継続して8年目の活動となる。本年度は本学の2年生と常磐大学生を中心に1つのチームで在来作物「里川カボチャ」と里美地区のお米のPRを行った。さらに、今年度は新規入植者の石川様にもご協力いただいた。以下、主な活動とその概要について述べていく。

① 第2回里美訪問

2019年6月2日、大中町／荷見様宅にて実施。

今年度のさとみ・あいチームが本格的に里美地区で活動を開始した。里美地区でお世話になる方へのご挨拶に伺った。午前中は大中地区、午後から里川地区でカボチャの種まき、植え付けのお手伝いを行った。里美地区への理解、地域の方々との交流を深めた。

② 第3回里美訪問

2019年6月23日、大中町／荷見様宅にて実施。石川様の畑で野菜の収穫体験を行った。お昼は小林様のご厚意で採れた野菜を使ってバーベキューを行った。その後荷見様の畑で苗植えと藁敷きを行った。

③ 里美合宿

2019年7月13日／14日、大中町／里川町にて実施。

1日目は小林様と石川様とミーティング、荷見様宅で畑の藁敷きと除草を行った。夜は荷見様宅に宿泊させていただいた。2日目は里美地区の様々な観光スポットを視察した。また、折橋コミュニティーステーションにてそば打ち体験を行った。活動を通して里美地区への更なる理解が深まった。

④ 稲刈り・おだかけ体験

2019年9月15日、里美倶楽部様の水田にて実施。

最初に機械で刈れない部分を鎌で刈り取り、その後、おだかけを行った。里美地区のお米がどのように収穫されているか身をもって知る、貴重な機会だった。

④ さとみ 秋の味覚祭

2019年11月2日／3日、里美ふれあい館イベント広場にて実施。

里美地区で開催された「さとみ 秋の味覚祭」に参加した。「さとみ 秋の味覚祭」は毎年11月上旬に里美地区にて開催されているイベントであり、里美地区の特産物の即売会や芸能発表が行われた。自分たちが生産に携わったお米を、2つのブースに分けて販売し、完売させることができた。

⑤ 茨苑祭での出店

2019年11月16日／17日 茨城大学にて実施。

里川カボチャを使用したコロケの販売及び、活動紹介を行った。手作りのポップなどで広報にも工夫した。多くの方に里川カボチャのおいしさ、里川地区やさとみ・あいの存在を知ってもらう、良い機会となった。

3 : 議事録・活動記録

川和里帆

	日時(10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 5月9日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	去年の活動内容、今年の活動内容についての話し合い	江口、軍司、関口、池田	1:30
2	2019年 5月13日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	今後の活動内容についての話し合い、 構想報告書の内容検討	川和、軍司、関口、池田	1:30
3	2019年 5月13日 12:40 - 14:00	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	今後の活動内容についての話し合い、 構想報告書の内容検討	川和、軍司、関口、池田	1:20
4	2019年 5月16日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	構想報告書の内容検討	川和、軍司、関口、池田	1:30
5	2019年 5月16日 12:40 - 14:00	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	構想報告書の内容検討	川和、軍司、関口、池田	1:20
6	2019年 5月20日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	構想報告書の内容検討、第2回里美訪問、 茨苑祭の出店について話し合い	川和、軍司、関口	1:30
7	2019年 5月23日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	顔合わせ、自己紹介、 昨年度までの活動のレクチャー	江口、大貫、北野、野平、川和、 軍司、関口、池田	1:30
8	2019年 5月30日 10:20 - 12:00	茨城大学人文棟 A319	茨苑祭の出店、第2回里美訪問での 議題について話し合い	大貫、川和、軍司、関口、池田、 澤田	1:40
9	2019年 6月2日 10:00 - 17:00	茨城県常陸太田市 里美地区	小林様・石川様とのMTG、カボチャの種 まき、荷見様とのMTG	江口、塩手、久利生、寺元、川和、 軍司、関口、澤田	7:00
10	2019年 6月6日 10:30 - 12:00	茨城大学共通教育棟 1Fラーニングcommons	第2回里美訪問の振り返り、 クリアーフについて話し合い	大貫、北野、大村、川和、軍司、 関口、池田	1:30
11	2019年 6月14日 14:20 - 16:00	茨城大学人文棟 A319	第3回里美訪問、助成金の申請、茨苑 祭の出店について話し合い	戸谷、永田、野平、大村、川和、 軍司、関口、池田、澤田	1:40
12	2019年 6月19日 14:20 - 15:45	茨城大学人文棟 A319	企画するイベント、 里美合宿について話し合い	川和、軍司、関口	1:25
13	2019年 6月23日 10:00 - 17:00	茨城県常陸太田市 里美地区	小林様・石川様とのMTG、マルチシート 設置と藁敷き、荷見様とのMTG	江口、久利生、寺元、軍司、関口、 池田、澤田	7:00
14	2019年 6月27日 11:00 - 11:50	茨城大学人文棟 A319	里美合宿のスケジュール、 農泊について話し合い	軍司、関口、池田	0:50
15	2019年 7月3日 14:20 - 15:45	茨城大学共通教育棟 1Fラーニングcommons	SATOMI会議のレクチャー、 第4回里美訪問について話し合い	川和、軍司、関口、池田、澤田	1:25
16	2019年 7月10日 14:25 - 15:30	茨城大学共通教育棟 1Fラーニングcommons	第4回里美訪問の小林様・石川様との 議題について話し合い	川和、軍司、関口、池田	1:05
17	2019年 7月13日 10:00 - 23:00	茨城県常陸太田市 里美地区	小林様・石川様とのMTG、カボチャの草 抜き・藁敷き、荷見様とのMTG	川和、軍司、関口、澤田	13:00
18	2019年 7月14日 7:00 - 17:00	茨城県常陸太田市 里美地区	里美の各所見学・そば打ち体験	川和、軍司、関口、澤田	10:00
19	2019年 7月17日 14:20 - 15:50	茨城大学共通教育棟 1Fラーニングcommons	前期末報告会の練習	川和、軍司、関口、池田、澤田	1:30
20	2019年 7月24日 15:00 - 16:00	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	今後のフィールドワークの予定、 必要予算の検討	関口、池田、澤田	1:00
21	2019年 8月7日 14:40 - 16:00	茨城大学人文棟 13番教室	イベント、第5回里美訪問についての ミーティング	川和、軍司、関口、池田	1:20
22	2019年 8月21日 10:00 - 12:00	茨城大学図書館 1Fラーニングcommons	里川カボチャの凶作に対しての活動、 Openday、イベントに関してのMTG	川和、関口、池田	2:00

23	2019年 8月26日 14:00 - 16:30	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	里川カボチャの凶作に対する活動、 第5回里美訪問についてのMTG	大村、川和、関口、池田	2:30
24	2019年 8月30日 10:30 - 18:00	茨城県常陸太田市 里美地区	小林様・石川様とのMTG、荷見様との MTG、茨苑祭の書類提出	川和、軍司、関口、池田	7:30
25	2019年 9月14日 13:00 - 16:40	茨城県常陸太田市 里美地区	荷見様とのMTG	川和、軍司、池田	3:40
26	2019年 9月15日 10:30 - 13:30	茨城県常陸太田市 里美地区	米のおだかけ、稲刈り	川和、軍司、関口、池田	3:00
27	2019年 9月29日 10:15 - 13:00	茨城県常陸太田市 里美地区	米の脱穀	久利生、軍司	2:45
28	2019年 9月30日 11:50 - 12:30	茨城大学人文棟 12番教室	第9回里美訪問のスケジュールについ てのMTG	川和、軍司、池田、澤田	0:40
29	2019年 10月5日 10:30 - 16:30	茨城大学常陸太田市 里美地区	小豆の収穫、石川様とのMTG、 荷見様とのMTG	大貫、川和、関口、池田、澤田	6:00
30	2019年 10月9日 9:20 - 10:05	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	後期のミーティングの日程、茨苑祭のビ ラやポスターについてのMTG	川和、軍司、関口、池田、澤田	0:45
31	2019年 10月25日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	味覚祭でのお米販売について	川和、関口、池田	1:10
32	2019年 10月28日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	味覚祭に向けての物品準備、売り上げ 目標について、ポップづくり	川和、軍司、関口、池田、澤田	1:30
33	2019年 11月1日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	味覚祭のスケジュール、役割分担、物 品の分担について	川和、軍司、関口、池田	1:10
34	2019年 11月1日 10:20 - 11:50	茨城大学人文棟	味覚祭で広報に用いるパネルの貼り付 け	川和、軍司	1:30
35	2019年 11月2日 8:10 - 16:00	茨城県常陸太田市 里美地区	お米の販売と広報	川和、軍司、関口、澤田	7:50
36	2019年 11月3日 8:30 - 15:30	茨城県常陸太田市 里美地区	お米の販売と広報	永田、羽田野、川和、軍司、池 田、澤田	7:00
37	2019年 11月8日 9:00 - 10:20	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	茨苑祭で使用する物品の準備、準備日 と当日のスケジュールについて	川和、軍司、関口	1:20
38	2019年 11月13日 9:00 - 10:20	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	茨苑祭で使用する物品準備の分担に ついて	川和、関口、池田	1:20
39	2019年 11月15日 9:00 - 16:00	茨城大学	茨苑祭のポップづくり、会場準備、スケ ジュール確認	大貫、川和、軍司、関口、池 田、澤田	7:00
40	2019年 11月16日 8:00 - 17:30	茨城大学	茨苑祭で里川カボチャコロケの販売と 広報	大貫、川和、軍司、池田、澤田	9:30
41	2019年 11月17日 8:30 - 18:00	茨城大学	茨苑祭で里川カボチャコロケの販売と 広報	大貫、久利生、寺元、川和、軍 司、関口、池田、澤田	9:30
42	2019年 11月29日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	活動報告会に向けて、今年度の活動内 容の整理	川和、軍司、池田	1:10
43	2019年 12月6日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 1Fラーニングコモンズ	活動報告会リハーサルに向けての練習	川和、軍司、関口	1:10
44	2019年 12月7日 10:30 - 12:20	茨城大学人文棟 人文14番教室	活動報告会リハーサルの発表練習	川和、軍司、関口、池田	1:50
45	2019年 12月11日 10:20 - 11:50	茨城大学人文棟	活動報告会ポスターセッションで使用す るパネルの貼り付け	川和、軍司	1:30
46	2019年 12月16日 14:20 - 15:50	茨城大学人文棟 人文12番教室	活動報告会の原稿作成、発表練習	軍司、関口、池田	1:30
47	2019年 12月19日 10:20 - 11:10	茨城大学人文棟 人文13番教室	活動報告会の発表練習	川和、軍司、池田	0:50
48	2019年 12月20日 16:00 - 18:00	茨城大学人文棟	活動報告会の事前準備	関口、池田	2:00

5：活動トピック

(1) 稲刈り・おだかけ体験

関口佳恵

<日時>2019年9月29日(日) 10:15~13:00

<場所>常陸太田市里美地区 里美倶楽部様水田

<活動内容>

さとみ・あいでは、2016年度から里美倶楽部の皆様の稲作に加わらせていただいていた。里美倶楽部とは、稲作を中心に十数年前から里美地区で活動してこられた地域外の方々のグループであり、さとみ・あいにとっては大先輩である。今年度は米の生産に焦点を当てて活動した。

作業手順は以下の3工程である。まず、日ごろから里美倶楽部の水田を管理なさっている小林信房様、豊田紀雄様に「バインダー」という小型機械を使って、稲の刈り取りとおだかけに適したサイズの束にまとめる作業をしていただく。次に、稲の束を集めて竿に干す(おだかけ)、最後に、雨から稲わらを守るために、束の根元にビニールをかける(図2)というものである。また、今回の稲刈りは田んぼがぬかるんでいてコンバインで刈れないところの稲を手作業で刈る作業(図1)も行い、それも束にしておだかけした。

自分たちにとっては初めての経験だったため、鎌の使い方に慣れなかったり、ぬかるんだ田んぼに足をとられたりしながらも、楽しく活動できた。また、お米を生産する大変さや、おだかけをした達成感も味わうことができた。



図1：稲刈りをするメンバー



図2：稲にビニールをかけるメンバー



図3：おだかけした稲

(2) さとみ 秋の味覚祭

川和里帆

<日時>2019年11月2日(土)・11月3日(日) 9:00~15:30

<場所>里美ふれあい館イベント広場

<活動内容>

多くの人に里美地区のお米のおいしさを知ってもらうため、「さとみ 秋の味覚祭」でお米を販売し、PRを行った。3合と約1升の2つのサイズを販売した(図4)(図5)。地域外からの来場者に加えて、地元の米農家の来場者が多く、買っていただくのは簡単ではなかった。しかし、積極的な声かけやポップを使ったPRを行い、2日間で約80kg分を約80名の方にご購入いただいたことができた。お米の販売とPRに加えて、ポップやクリアーフを用いて里川カボチャと里美地区のPRを行った。来場者にさとみ・あいの活動の紹介も行った。



図4：販売したお米



図5：ブース内の様子



図6：集合写真

(3) 茨苑祭

池田拓野

<日時>2019年11月16日(土)9:30~17:30、17日(日)9:30~17:00

<場所>茨城大学水戸キャンパス

<活動内容>

まず、「茨苑祭」とは茨城大学の文化祭である。私たちは今年度の茨苑祭で出店を行った。この出店では、里川カボチャを用いたコロッケを販売した。このコロッケの調理には、荷見誠様、カツ子様ご夫妻にご協力いただいた。1個100円で販売し、300個分を完売することができた。里川カボチャを販売するだけでなく、ポップを用いて、里美地区の魅力や、里美米、里川カボチャの紹介を行った。そして、里美の魅力はもちろん、さとみ・あいについての説明も含まれたクリアリーフの配布も行った。



図7：里川カボチャコロッケ



図8：茨苑祭での「さとみ・あい」の様子



図9：茨苑祭で使用したポップ



図10：茨苑祭でのブースの様子

7：おわりに

軍司真奈

今年度は1年目の2年生主体という新しい体制のもとで8年目の歴史が築かれた。他の多くのチームと違ってさとみ・あいには今まで先輩方が成し遂げてきた実績と、活動を支えてきてくださった方々との関係性がある。その中でさとみ・あいが今まで行ってきた活動・2年生がやりたい活動・地域の方が求めている活動の3つの視点から私たちはどんな活動をするか・出来るか苦戦した1年間であった。4年生の先輩方はメンターとしてさとみ・あいの今までの活動からのアドバイスなどのサポートをしてくださった。4年生の先輩方のさとみ・あいへの思い入れの強さや経験から、私たちのやりたいことや活動にはもどかしさを感じられたとも思う。しかし私たちの意見を尊重していただき、活動の方向性を任せてくださっていた。それはさとみ・あいとして良いことでもあり悪いことでもあった。デメリットとして先輩方が年間を通して気づいた改善点や、見出したより良い活動の展望を活かすことが出来ないことがある。そして長い歴史の中で築かれてきたことも、もし継承されないまま終わってしまえば簡単に潰えてしまうということに焦りを感じた。メンバーが変わり続けることはプロジェクトを継続する中で障壁となる。今年度の活動が終了して感じるのは、もっと歩み寄ることが必要だったということだ。全体として学年を超えての信頼関係を築くことが出来ていなかったのである。それが私の後悔の1つだ。しかしやはり先輩方から学ぶことは多くあった。1回目の里美訪問では先輩方と里美地区の方々との信頼関係が見えてとても心強く感じた。4年生の先輩方は新参者の私たちを温かく受け入れてくださり、親身で的確なアドバイスで活動をサポートしてくださった。常磐大学の3年生の先輩方は明るく楽しい雰囲気を作ることに長けていてチーム作りの参考になった。イベントでは先輩方の助け無しでは上手くいかなかったであろうことが多々あった。2年生が主体で活動するのは大変で苦しかった時もあったが、先輩方の関わり方は私たちに成長の機会をくださっていたのだと感じた。

私たちの今年度の活動の中では多くのハプニングが起こった。今まで例年申請してきた補助金の方向性が変わったことによってその活動資金を得ることが出来なかったことや、Open Day（私たちが小林様と計画していた農業体験イベント）の台風による中止、里川カボチャの大凶作など、想定外のことが多く起こり、それは私たちの目標達成への障壁となった。今年度の目標は里美地区の魅力を知ってもらうだけではなく、関係人口を創出することであった。その要であったOpen Dayの中止は目標の未達成を招く大きな原因になった。また、里川カボチャの大凶作によって予定していた里川カボチャの商標登録を発表する記者会見などができなくなってしまい、里川カボチャを大々的に広報する機会を失ってしまった。凶作は大変お世話になっている荷見様ご夫妻を思うと本当に残念な出来事であった。

活動の中で上手くいかないことは多かったものの、味覚祭や茨苑祭では里美地区の魅力の発信を行い、来場者の方から「里川カボチャを初めて知った」、「興味を持った」などの声をいただくこともできた。魅力発信の側面で私たちは里美地区に貢献できたと感じている。また、有機野菜農家の石川様との新しいつながりが出来た。そして、関係人口創出に貢献することは出来なかったが何度も里美地区を訪れ魅力を知り、地域の方々と関わった私たち自身が里美地区の関係人口になれた。このさとみ・あいの活動を通じて私たちは他の座学の授業では得られない経験、知識を得て、それぞれが確実に成長できた。正直、今年度の活動は里美地区への貢献の側面よりも私たちメンバーの成長の側面の方が大きかったのではないかと思う。来年度はその成長と気づいた反省点を活かして里美地区の地域活性化に繋がられるようにより効果的な魅力の発信と関係人口の創出に力を入れたいと考えている。長い歴史があり、メンバーが変わり続けているさとみ・あいが、活動の方向性である「里美地区での魅力発信、地域活性化」を見失わずに2019年度も継続できたことに誇りを感じている。4年生の先輩方は卒業されてしまうのでこれからは3年生になる2年生が来年度のさとみ・あいを支えていかななくてははいけない、と身の引き締まる思いである。

末尾になりましたが、今年度の活動にあたり、多大なるご支援を頂きました里美地区の皆様、先生方、また、さとみ・あいの活動にご協力くださったすべての方々に厚く御礼申し上げます。

6 : E-girls R チーム

リーダー兼会計	: 平山 花恋	茨城キリスト教大学文学部現代英語学科	3年
副リーダー兼書記	: 太田 妃香	茨城キリスト教大学文学部現代英語学科	3年
書記	: 矢野真佐子	茨城キリスト教大学文学部現代英語学科	4年

主担当教員	: 上野 尚美	茨城キリスト教大学文学部教授
主担当教員	: 長谷川安代	茨城キリスト教大学文学部講師
主担当教員	: ジャブコ ユリヤ	茨城キリスト教大学文学部助教
副担当教員	: 神田 大吾	茨城大学人文社会科学部准教授

E-girls R チーム

1 : はじめに

太田 妃香

今日、「グローバル化が進む現代社会に適応できる人材育成」が望まれて久しい中、私たちの大学がある茨城県日立市大みか町では、異文化理解と異文化交流があまり行われていない。そのため、上記のような人材が育成されるよう、私たちは2つのプロジェクトを通して、必要な機会を提供することを目指した。

(1) チーム設立の経緯

今年度は、茨城キリスト教大学の学生3名が“E-girls R”として活動した。私たちが行った活動の1つである「異文化交流プロジェクト」は、2011年度に茨城キリスト教大学の国際理解センターと茨城大学の留学生センターとの間で連携関係が結ばれたことに始まる。翌2012年度に結成された国際ショナルチームを基盤とし、2015年度のLinkチーム、2016年度のE-girlsチーム、2017年度のD-CEPチーム、2018年度のXCCチームといったように、前年度の活動を引き継ぎ活動してきた。毎年、「異文化交流会」の開催を活動の1つとして設定し、継続・発展させつつ、独自の新たな活動を企画し、行っている。

また、今年度は、「異文化交流プロジェクト」の活動に加え、2018年度のXCCチーム独自のプロジェクトである「大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクト」も“E-girls R”が引き継ぎ、プロジェクトの発展を目指した。

(2) 活動内容

茨城県教育委員会は、「国際理解教育の充実や英語によるコミュニケーション能力の育成が重要」と提言している。しかし、学生は国際的な場面でコミュニケーションをとる機会が少ないといった深刻な現状がある。また、私たちの大学がある大みか町に焦点を当てると、町を訪れる外国人の目的が通勤・通学に限られており、町自体への興味・関心が薄く、地域住民との交流が少ないことも併せて深刻な現状である。そこで、私たちはこれら2点の改善を目指し、図1に示す2つの目標を立て、それぞれに対応する活動を行った。

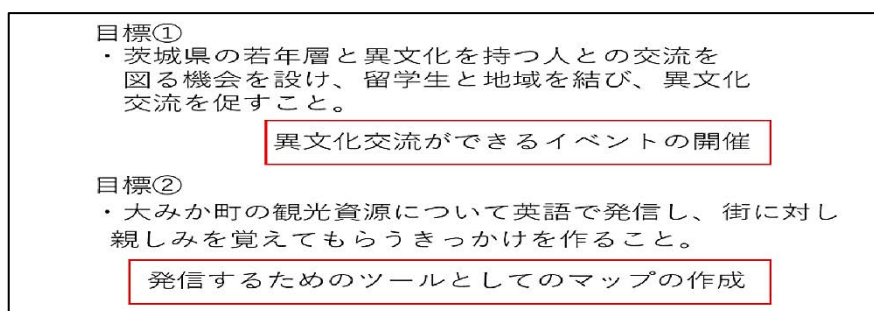


図1: 活動目標

行った2つの活動は次の通りである。

・異文化交流プロジェクト

茨城県の若年層が異文化を持つ人と交流する機会を設け、留学生と地域を結び、異文化交流を促すため本学のオープンキャンパスの日に留学生と高校生の交流イベントを開催した。

・大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクト

町を訪れる外国人が町に対し親しみを覚えるきっかけを作るため、大みか町の観光資源について英語で発信する大甕マップを作成し、印刷・配布を行った。

2：活動概要

太田 妃香

(1)異文化交流プロジェクト(図 2)

現代社会のグローバル化が進むと同時に、現代社会に生きる人はその社会に対応することが求められている。そのためには、共通言語である英語の語学力向上と異文化に対する知見を深めることは重要な学びの1つである。茨城県の若年層と留学生の学びに貢献したい、という思いから、異文化交流プロジェクトを企画・実施した。

日時：2019年7月15日 13:00~16:00

対象：茨城県内の高校生及び茨城県内の大学のインターン生・留学生

目標：茨城県の若年層が異文化も持つ人と交流する機会を設け、異文化交流を促す

(2) 大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクト(図 3)

私たちの大学がある茨城県日立市大みか町に位置する「大甕駅」を利用する外国人は少ない。しかし、彼らが大みか町を訪問する理由は通勤・通学に限られており、外国人と地域住民との交流は殆どない。外国人の大みか町への関心と地域住民との交流を促したい、という思いから、大甕マップ/Omika Map の作成と配布を行った。

対象：地域住民・大みか町を訪れる外国人

目標：大みか町の観光資源について英語で発信し、町に対し親しみを覚えてもらうきっかけを作る



図 2：異文化交流プロジェクトの様子



図 3：活動計画作成中の様子

3 : 議事録・活動録

太田 妃香

チーム活動記録簿

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 4月25日 9:00 - 10:00	茨城キリスト教大学 11号館学生ラウンジ	役職の割り振りと前期分の活動予定計画の策定とイベント企画の立案	平山、太田、矢野	1:00
2	2019年 4月25日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	プログラム内容の仮決定と招待高校の選定、電話の担当者の割り振り	平山、太田、矢野	1:30
3	2019年 5月9日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 11302教室	異文化交流プロジェクトの企画書、概要書、名簿、アンケート(日英)の作成	平山、太田、矢野	1:30
4	2019年 5月16日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	招待高校への連絡の進捗共有と企画書類の訂正	平山、太田、矢野	1:30
5	2019年 5月22日 12:50 - 13:00	茨城キリスト教大学 1号館 事務室前	学校を訪問し、今企画の趣旨を説明	太田、矢野	0:10
6	2019年 5月23日 12:40 - 14:00	茨城キリスト教大学 3号館入試広報部	招待高校へのメール・FAX送信状の作成	平山、太田、矢野	1:20
7	2019年 5月23日 14:10 - 14:20	茨城キリスト教大学 3号館入試広報部	入試広報部へイベントの企画書・概要書提出	太田	0:10
8	2019年 5月27日 15:30 - 15:50	湯本高等学校 進路指導室	学校を訪問し、企画の趣旨を説明	矢野	0:20
9	2019年 5月30日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	イベント内のゲームの実施方法と当日の軽食や手伝いの学生の人数を検討	平山、太田、矢野	1:30
10	2019年 6月6日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 シ209号室 3402号室	イベント会場となる教室の下見とプログラム内容の見直し	平山、太田、矢野	1:30
11	2019年 6月7日 12:20 - 12:30	茨城キリスト教大学 生協	当日の軽食の手配先として交渉するが断念、手配先をマルトへ変更	平山、太田	0:10
12	2019年 6月13日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	招待高校の参加者名簿・手伝いの学生の人数確認とメールの作成、当日の流れの確認	平山、太田、矢野	1:30
13	2019年 6月13日 15:50 - 16:00	茨城キリスト教大学 5100号室	インターン生にイベントの案内をし、その中でインターン生の参加者を決定	矢野	0:10
14	2019年 6月20日 12:40 - 14:10	マルト	当日の軽食(パン)の手配が可能か確認の上手配先に決定	平山、太田	1:30
15	2019年 6月20日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 国際交流課	留学生にイベントの案内	矢野	1:30
16	2019年 6月27日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	軽食の具体的な購入品の検討と留学生参加者の決定、備品の買い出しの割り振り	平山、太田、矢野	1:30
17	2019年 7月4日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	マルトへ軽食の予約と入試広報部へ貸出備品に関する連絡、保険提出用の名簿作成	平山、太田、矢野	1:30
18	2019年 7月11日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	当日に使用する備品作成及びグループ分け	平山、太田、矢野	1:30
19	2019年 7月11日 14:20 - 17:30	茨城キリスト教大学 上野研究室	当日に使用する備品作成及びグループ分け	平山、太田	3:10
20	2019年 7月12日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 3402号室・マルト	当日に使用する機器の動作確認・買い出し	太田	1:30
21	2019年 7月15日 9:00 - 16:00	茨城キリスト教大学 3402号室	異文化交流プロジェクト	平山、太田、矢野	7:00
22	2019年 7月23日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 上野研究室	反省会	平山、太田、矢野	1:30
23	2019年 9月19日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 シ209号室	オリエンテーションと大甕マップ作成の活動予定計画の策定	平山、太田	1:30

24	2019年 9月25日 10:10 - 12:10	大甕神社、泉神社	各神社の散策、取材	平山、太田	2:00
25	2019年 9月26日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 シ209号室	英語表記についての講義と活動予定計画の 策定	平山、太田	1:30
26	2019年 10月2日 12:40 - 14:10	大甕神社	大甕神社の散策、取材	平山、太田、Jordan、Speed、 Brandon(インターン)	1:30
27	2019年 10月3日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 図書館	マップの原稿と発表用PPT作成	平山、太田	1:30
28	2019年 10月17日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 11302号室	マップの原稿作成	平山、太田	1:30
29	2019年 10月24日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 11302号室	マップの原稿作成	平山、太田	1:30
30	2019年 11月13日 10:10 - 12:00	大甕駅周辺	マップに掲載予定の施設・店舗を訪問し、基 本情報の確認と掲載許可の取得	平山、太田	1:50
31	2019年 11月14日 11:30 - 12:50	大甕駅周辺	マップに掲載予定の施設・店舗を訪問し、基 本情報の確認と掲載許可の取得	平山、太田	1:20
32	2019年 11月14日 13:00 - 13:50	茨城キリスト教大学 シ209号室	報告会準備についての確認	平山、太田	0:50
33	2019年 11月14日 14:40 - 15:10	大甕神社	神社を訪問し、基本情報の確認と掲載許可 の取得	平山	0:30
34	2019年 11月15日 11:50 - 12:10	アンブロッシェ	基本情報の確認依頼を目的に店舗訪問、対 応得られず	平山、太田	0:20
35	2019年 11月21日 13:30 - 13:40	茨城キリスト教大学 11号館学生ラウンジ	アンブロッシェへ電話をするも掲載許可はな く、該当店舗の掲載を断念	平山、太田	0:10
36	2019年 11月28日 12:40 - 14:00	茨城キリスト教大学 シ209号室	発表練習	平山、太田	1:20
37	2019年 12月7日 12:40 - 17:00	茨城大学 人文10番教室	活動報告会のリハーサル	平山、太田	4:20
38	2019年 12月12日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 シ209号室	スライド・発表原稿の修正と発表練習	平山、太田	1:30
39	2019年 12月19日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 シ209号室	発表練習とポスターセッションで使用する備 品の準備	平山、太田	1:30
40	2019年 12月21日 10:40 - 16:50	茨城大学 人文10番教室	活動報告会の直前リハーサルと活動報告会	平山、太田	6:10
41	2020年 1月9日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学	反省会	平山、太田	1:30
42	2020年 1月9日 15:50 - 16:30	茨城キリスト教大学 11号館4階ラウンジ	大甕マップのデータを印刷会社へ入稿	太田	0:40
43	2020年 1月16日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 図書館	活動報告書の作成	平山、太田	1:30
44	2020年 1月23日 12:40 - 14:10	茨城キリスト教大学 図書館	活動報告書の作成	平山、太田	1:30
				合計	69:00

4 : 活動トピック

太田 妃香 平山 可恋

(1)異文化交流プロジェクト

茨城県の若年層と異文化を持つ人との交流を図る機会を設け、留学生と地域を結んだ上で、異文化交流を促すことを目標に企画した(図4)。

①当日プログラムと参加者

日時：2019年7月15日 13:00~16:00

場所：茨城キリスト教大学3号館3405教室

茨城キリスト教学園高校様、水戸啓明高等学校様、湯本高等学校様、日立第二高等学校様、太田第一高等学校様、水戸第三高等学校様、日立北高等学校様、大成女子高等学校様、いわき光洋高等学校様にお声がけをし、34名の高校生と、茨城大学の留学生3名、本学の留学生・インターン生12名にご参加いただいた。

2019年5月16日 異文化交流プロジェクト	
異文化交流プロジェクト 企画書	
① 日程	7月15日(月) 海の日
② 場所	茨城キリスト教大学
③ 対象	茨城キリスト教学園高等学校様、日立第二高等学校様、日立北高等学校様、水戸啓明高等学校様、水戸第三高等学校様、湯本高等学校様
④ スタッフ	茨城キリスト教大学(8人)、 茨城キリスト教大学・茨城大学の留学生(15人)
⑤ 目的	自分とは異なる文化を持つ人との交流を通して、異文化に触れ、貴重な経験、学びを得ること。相手との違いをみとめ、理解しあうことでコミュニケーション能力の向上を図ること。また、参加者同士がこのフォーラム後も関係が続き、豊かな人間関係を構築すること。
⑥ 内容	現時点での検討であるため、変更になる可能性があります。 *当日は、茨城キリスト教大学オープンキャンパスが開催されておりますので、講堂(10時受付の場合)または11号館2階(10時以降)で受付をしていただくと、無料の学食体験もできます。 13:00~13:10 受付、ネームカード配布 13:10~13:30 開会式 13:30~14:00 自己紹介 14:00~14:30 なんでもバスケット 14:30~15:00 アルファベットゲーム 15:00~15:30 文化交流ゲーム 15:30~16:00 閉会式
⑦ その他	参加費は無料 参加者には、全員当日に限り有効のイベント保険への加入をお願いしています。つきましては、参加者が決まり次第、必要な情報(学年、名前、性別)を事前にお知らせください。保険料は無料です。

図4：異文化交流プロジェクト企画書

当日は、学園内でのオープンキャンパスの開催日であった。ポスター(図5)を用いて告知を行い、会場前方位置にタイムテーブル(図6)を掲示した。



図5: イベント告知ポスター



図6: タイムテーブル

②当日の様子

(i) SELF-INTRODUCTION/自己紹介 (アイスブレイク) (図7)

7つのグループに分かれて、自己紹介を行った。この自己紹介では、まず参加者は配布された紙に4つのこと(自分のニックネーム・今楽しいと思っていること・将来したいこと・今日の目標)を記入した。そして、その紙を用いて自己紹介をし、関心を持った事柄に対して聞き手が質問する形で進んだ。このゲームを通して、高校生と留学生の緊張がほぐれ、次第に会話する様子が見られた。



図7: SELF-INTRODUCTION/自己紹介 (アイスブレイク)

(ii) FRUIT BASKET TURNOVER/なんでもバスケット(図8)

参加者全員で、椅子を用いて大きな円を作り、フルーツバスケットを行った。このゲームはすべて、英語で行われた。“the person who ~”の構文が用いられ、身体を動かしながらゲームと英語を楽しむ参加者が多く見られた。



図 8 : FRUIT BASKET TURNOVER/なんでもバスケット

(iii) JENGA QUESTIONS/ジェンガクエスチョン(図 9、図 10)

英語によるコミュニケーションの促進を試みたジェンガゲームを行った。一つ一つのジェンガに番号を振り、引いた本人が、番号に対応する質問に答えるという形で進められた。どのチームもジェンガを楽しみつつ、英語を積極的に使おうとする姿勢が見られた。



図 9 : JENGA QUESTIONS ジェンガクエスチョン

ジェンガ質問集

～ジェンガのルール Rules～

- 1 順番を決め、一人ずつブロックをとる。
Please decide the order and take a block of Jenga.
- 2 ブロックに書いてある番号を質問集から探し、質問に答える。
Each block of Jenga has a number. Please look for the same number and read a question.
- 3 質問に答えた後、
Answer the question and put the block on the top of the tower.

質問リスト

1. What is your favorite foreign food?
2. What is your favorite ice cream flavor?
3. Which do you like better, KFC or McDonald?
4. Take one more block.
5. If you could take only one thing with you to a desert island, what would it be?
6. If you get a large amount of money, what would you do?
7. Can you say "I love you" in three different languages?
8. Take one more block.
9. What snacks do you like?
10. What county do you want to go?
11. If you could use magic, what would you do?
12. What time is it now?
13. What is the weather today?

14. Are you having fun now?
15. What do you usually do on holidays?
16. What do you usually do after school?
17. How is your school life?
18. Do you have any pets?
19. What is the name of your best friend?
20. What is your dream?
21. Take one more block.
22. Skip your turn.
23. Reverse.
24. Take three blocks.
25. What did you do yesterday?
26. Do you play video games?
27. What time did you go to bed yesterday?
28. What time do you usually wake up?
29. What kind of food do you like?
30. Which do you like better, dogs or cats?
31. Do you have part-time job? What kind?
32. Reverse.
33. Who is your favorite actor or actress?
34. Please say "HELLO" in five different languages?
35. Which do you like better, rice or bread?
36. Do you like your family?
37. Try to say this tongue twister. "このすしはすこしすかきすぎた"×3.

図 10 : 質問集

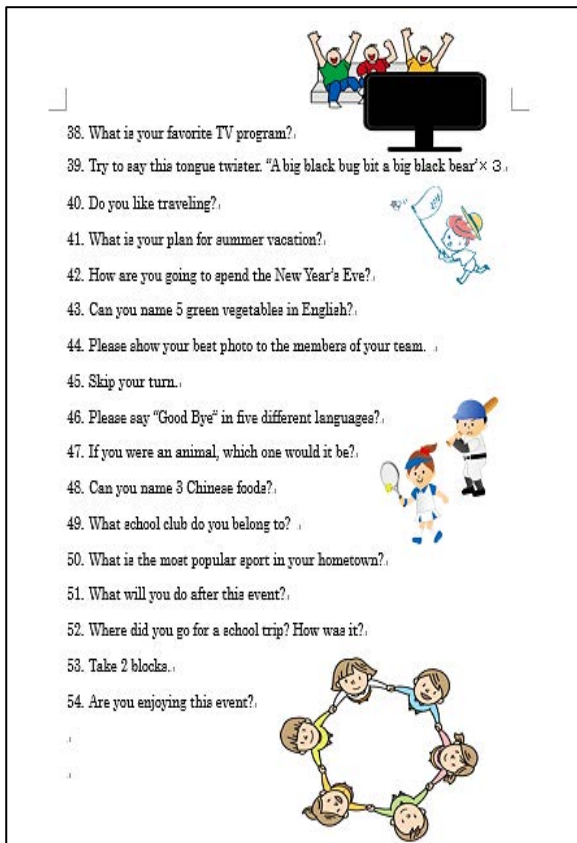


図 10 : 質問集(続き)

(iv) CULTURE EXCHANGE GAME/文化交流ゲーム(図 11、図 12)

6つのグループに分かれて、異文化理解の促進を試みたクイズを行った。会場前方に、あらゆる分野(食べ物の消費量や美容整形の経験人数など)の世界ランキングを示し、そのランキングの指定された順位の国をグループが回答札を用いて、回答するという形で行った。グループごとに回答札を用意して、広い会場内で回答が共有しやすいように工夫した。イベントの中で、一番の盛り上がりが見られ、国々の意外な側面に驚いている参加者が多かった。



図 11 : CULTURE EXCHANGE GAME/文化交流ゲーム



図 12 : 回答札



図 14 : 大甕神社訪問

(ii)10月 大甕マップ/Omika Map 作成

前年度のプロジェクトメンバーが作成した「大みかマップ/Omika Map」を元に、大甕マップの作成を進めた。大甕神社の情報と神社の作法を中心に、「大みかマップ」に記載してある大甕駅周辺の飲食店、および販売店の詳細情報も記載した。

大甕マップを見ながら観光できるように、店舗に番号を付けるなどして、わかりやすい観光マップを目指した。また、大甕マップは英語で作成し、わかりやすい文法と単語を使用した。どこの国からの外国人にも分かりやすいように努めた。

(iii)11月下旬 記載予定の店舗、施設の再訪問

大甕マップの完成にあたり、記載予定の店舗および施設を再び訪問し、記載情報の確認と掲載許可の再確認を行った。

掲載許可が下りなかった飲食店とすでに閉店していた飲食店の情報を修正し、新たな大甕マップと店舗紹介文の作成を進めた。

修正後、インターン生と留学生にマップを見せ、英文の添削をいただいたのち、大甕マップを完成させた(図 15、図 16)。

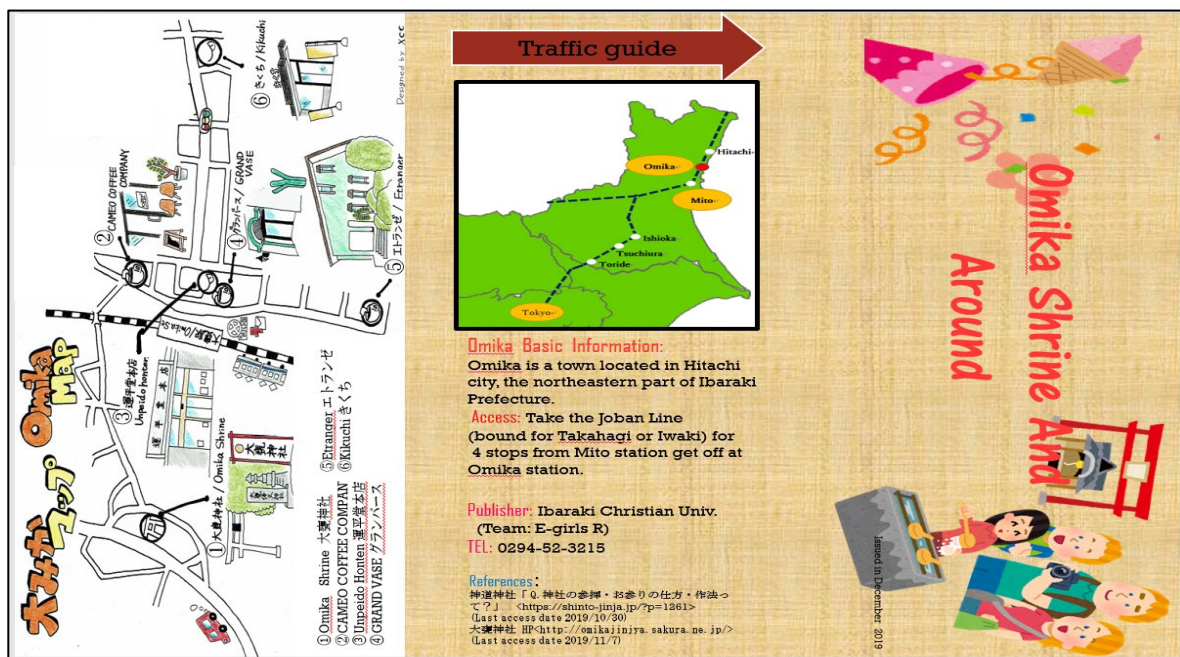


図 15 : 大甕マップ/Omika Map 表面

① Omika shrine



Address: 6-16-1, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-52-2047
●: Free
🕒: 9:00 ~ 18:00 [office]/open 365 days.
🚪: None
🚶: Access: about 15 minutes on foot from Omika station.

The main shrine is located on the mountain behind the main altar of the shrine. You need to climb the mountain to see the main shrine.

The Omika main shrine →



Basic information

Built in 600 B.C, the shrine has a long history. The enshrined deity are *Takehazumi no Mikoto*, the god of fabrics, and *Mikaboshi Kagaseo*, the god of stars.
Festival: "Shikinenasai"
 This festival is held once every 5 years to pray for the peace of Omika town, a good catch of fish, and a rich harvest.



Shrine Etiquette

First, wash your hands to purify your mind and body

- (1) Scoop up water in a ladle with your right hand and pour some water over your left hand.
- (2) Next, hold the ladle with your left hand and pour water over your right hand.
- (3) Then, pour water over your left hand again and rinse your mouth.
- (4) Finally, use the remaining water to rinse a handle of the ladle.



Second, go to the main altar of the shrine.

- (1) Put some money into the offertory box.
- (2) Bow twice, then clap your hands twice.
- (3) Pray in your mind and bow one more time.



② CAMEO COFFEE COMPANY

Address: 2-24-5, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-51-1367 🕒: 11:00~19:00
🚪: Closed: Sunday, Monday
🚶: Access: About 1 minute on foot from Omika station.
 This coffee shop is loved by many foreign visitors. You can try various delicious baked sweets and enjoy coffee with original latte art.

③ Unpeido Honten

Address: 1-6-7, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-52-3257 🕒: 8:30~18:00 Closed: None
🚶: Access: About 3 minutes on foot from Omika station.
 This shop is famous for sweets made with sweet bean paste. You can try Japanese traditional buns filled with sweet bean pastes called "MANJU".

④ GRAND VASE

Address: 1-6-7, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-54-1818 🕒: 8:30~19:00 (Sunday ~ 18:00)
🚪: Closed: Tuesday, the first and third Monday
🚶: Access: About 1 minute on foot from Omika station.
 This shop is one of the most popular cake shops in Omika town. You can enjoy a wide variety of cakes and drinks here.

⑤ Stranger

Address: 1-26-5, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-53-7274
🕒: Monday to Friday 7:30~20:00 Sunday 8:00~16:00
🚪: Closed: None
🚶: Access: About 15 minutes on foot from Omika station.
 Stranger is a traditional coffee shop. You can enjoy delicious coffee in a relaxed atmosphere.

⑥ Kikuchi

Address: 1-2-10, Omika, Hitachi, Ibaraki
☎: 0294-52-3166 🕒: 9:00~19:30
🚪: Closed: New Year's Day
🚶: Access: About 25 minutes on foot from Omika station.
 This shop is one of the most famous sweets shops in Ibaraki. You can buy unique Ibaraki sweets made with organic ingredients.

図 16 : 大甕マップ/Omika Map 裏面

② 今後の展望

2020年の1月にマップの印刷、2月に配布を予定している。大学校内に3か所、記載した店舗のうち1か所に配置し、留学生やインターン生をはじめとする大みか町を訪れる外国人が町を知るきっかけになることを目指している。

また、JR大甕駅に配置することも視野に入れており、今後はより多くの大みか町を訪れる外国人にもマップを配布したいと考えている。

大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクトは前年度から活動を開始し、今年で2年目を迎えた。今年度の活動では、マップを完成させることができたが、限定された場所での配布にとどまった。よって来年度からも引き続き活動していくことが望まれる。

来年度への引継ぎと展望は次の通りである。

- マップをより多くの施設・店舗に設置
- 掲載施設・店舗内の英語表記の充実化
- マップを利用した大甕駅周辺ツアーなどのイベントの開催

以上のことから観光客の呼び込み、外国人と地域住民の交流の増加が目指される。

5：個人レポート

学びと成長

茨城キリスト教大学 3年 平山 可恋

私は、この一年を通して多くのことを学び、今までの自分よりも大きく成長することができたと感じている。大学に入ったら、今までとは違う自分になりたいと思っていた。今までの私は、大変なことや辛いことに挑戦せず、楽な道ばかり探していた。そんな自分を変えるべく挑んだことがプロジェクト実習だった。課題も多く、学生が主体的に動く授業を受けることで、成長できると考えたからである。プロジェクト実習では本当に多くのことを学んだが、その中で印象に残っている学びが大きく3つある。

学びの1つ目は、社会人基礎力である。正しいビジネスメールの書き方やワード、パワーポイントの使い方について詳しく学ぶことができた。私は、パソコン操作が非常に苦手で、この授業に少し不安を感じていた。しかし、先生やメンバーに教えてもらい、少しずつできるようになっていった。細かい設定の仕方や適切な言葉使いなど今まで学んでいなかったことを習得し、個人のレポートやほかの授業での発表など様々な場面で生かすことができた。後期の活動では、一から大みか町の観光マップを作り上げ、先生や学生たちからたくさん良い評価をいただけた。このことは、私の大きな自信になっている。また、12月の活動報告会では、パワーポイントを作成し、試行錯誤しながら読みやすく、わかりやすいスライドを作ることができた。聞いている相手が理解しやすい文章量やスライドの色、発表時の姿勢や声の出し方など今まで知らなかった発表に必要なことも勉強することができた。他大学、高校の先生に向けたビジネスメールの作成にも挑戦した。件名の書き方から正しい文法・言葉使いまで丁寧に教えていただき、最初は不安だったメールも今では簡単に書けるようになった。これらのことは、社会人になってからも非常に必要になるので、学んだことを生かして、さらにスキルを高めていきたい。

学びの2つ目は、協調性を意識することの重要性である。何かのプロジェクトを複数人で立ち上げるとき、もっとも重要なものはチームワークだ。しかし、メンバー同士でお互いに認め合い、相手を尊重するということは非常に難しいと知った。意見を交換し合ううちに、意見が食い違うことや自分の意見を認めてくれないことに苛立ち、メンバーに強く言うてしまうことがあった。その結果、チームの関係が悪くなることや、チームにとって何が正しいのか判断がつかなくなることもあった。このことから、チームは一緒に頑張る仲間だという意識を持つこと、相手を理解し意見を認め合うこと、自分の意見を認めさせようとしなくていいことが重要であると学んだ。また、自分が感情に流されやすい人間であるということに気づいた。一時的な感情に左右されるのではなく、第三者からの視点に立って冷静に分析することが必要だと学んだ。

学びの3つ目は、計画通りに実行することの難しさである。計画を立てたものの、必要な活動が計画内に終わらなかつたり、先方からの急な変更があったりなど計画通りに活動を進めることが出来なかつた。また、計画が遅れた場合を予想しなかつたため、予定が過密になり、慌ただしく準備することになってしまった。このことから、計画を立てる際には計画通りに行かない場合も考えて、ある程度の余裕を持たせて早めの行動を意識することが必要であることを学んだ。また、次に何をすべきなのか、何が終わっていないのか確認するために、計画表を全員が見える位置に用意すべきだったと感じている。

この1年間を通して、先生方や地域住民の方々など様々な人たちと関わり、自分の知らなかつたことをたくさん学び、また自分の新たな可能性に気づくことができた。今までの自分は発表やディスカッションの場で自信が持てず、発言や意見を出すことが恥ずかしく参加できなかつた。しかし、プロジェクト実習を通して意見交換をする楽しさやプロジェクトを立ち上げることの面白さを知り、ほかの授業やインターンシップ先でも積極的に発言、参加できるまでに変わることができた。また、ビジネスメールやイベントの企画・運営など学生では経験できないような体験を通し、仕事の割り振りや仕事の指示など、上に立つ人の仕事も経験することができた。

これから社会に出て仕事をしていく中で、今回学んだことや気づいたことは自分の自信になり、仕事に発揮されると思う。学んだこと、悩んだことをばねに一步一步頑張っていきたい。プロジェクトを支えてくださった先生方、協力していただいた地域住民の方々、一緒に最後まで頑張ってくれたメンバーには言葉では言い表せないほど感謝している。一年間、ありがとうございました。

3つ目の挑戦

大学3年生で得た経験と学び

茨城キリスト教大学3年 太田 妃香

私には、大学入学時に立てた大学生活における目標がある。それは、年に1回は新しいことにチャレンジするというものである。目標の動機は、社会人になる前の最後の学生生活を意義のある4年間にしたいという思いからである。その目標に従って、これまでの大学生活では2つのことに挑戦し、挑戦の度に多くの学びや経験を得た。3回生の年にあたるこの年にプロジェクト実習にチャレンジしたのは、今までの挑戦以上の学びや経験を得られるのではないかと、そしてそれは、遅くとも来年には必要になるものになるだろうと考えたからだ。事実、この1年の経験はとても貴重で、苦しくて、しんどくて、それでも充実感を含んだ学びを私に与えてくれた。とても多くの学びを得たが、以下の3つの学びが特に印象に残っている。

1つは異文化交流プロジェクトと大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクトを通して得たメールの作成方法や、電話でのやりとりの仕方といった社会人基礎力の習得である。これまで私は、人とやりとりをするツールにおいて、少ない文章でやりとりをするSNSに甘えていた。しかし、ビジネスの場において必要とされるのは、分かりやすく要件を伝える電子メールや電話でのやりとりである。私はなにも知らなかったため、本文の前に宛名をつけること、メール内のマナーがあることを知った時はとても驚いた。特に驚いたのは、本文の中で名前を述べた上で署名を付けるという点だ。これまでのSNSのやりとりでは、発信者の名前を述べることがあまりないので、活動初期は署名を忘れてしまうこともあり慣れるまで苦労した。しかし、電子メールの形式を考えれば、これは当然のマナーでありこのような習慣を学生時代に身につけることが出来たのは、私にとってはとても意味のある学びであった。

次の学びは、計画性と想像力は同時に発揮されてこそその力であり、片方だけでは上手くいかない場合があることである。私たちは昨年度のチームの反省を踏まえ計画的に活動を進めるよう試みた。しかし、特に後期の大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクトでは、序盤に立てた計画を守ろうとするあまり、チームメンバーに対する思いやりや作業の完成度が低いといった問題が生じた。プロジェクトを期限内に成功させるために、それぞれの作業がおざなりになり本末転倒の事態になった。原因は計画が余裕を持って策定されたものではなく、1つの計画が遅れるとすぐに全体の計画に支障がでるものであったことである。計画とは、余裕を持ったスケジュールにすることで初めて、スムーズな活動の指針になるものと学んだ。私は、余裕を持ったスケジュールを策定するために必要とされる力が想像力だと考える。私たちは、プロジェクトの活動計画ではない私生活・学校生活の予定などの予定をもっと具体的に考慮した上で、一つの作業にどれほどの工程・時間が必要になるのか想像してプロジェクトの活動計画を策定させるべきだった。この気づきはプロジェクト実習のような長期間のグループワークでこそ得られる学びだと実感している。

最後の学びは、チームワークを維持させることの難しさと重要性である。グループワークにおいてチームワークが重要であることは明確だが、チームが結束する機会に比べるとチームワークが乱れる機会の方が多いのではないかと考える。前者はプロジェクトの成功が見えてくる終盤に感じられることが多く、後者は、活動序盤や中盤などに感じられることが多い。私は、メンバー一人一人のタスクや締め切りに対する姿勢が異なることが原因で、メンバー同士の意見のぶつかり合いが起きやすいからだと推測する。このように活動の序盤・中盤においてチームワークが乱れる機会が多く発生することが、チームワークの維持を難しいものにしてしまうと感じた。この経験から、チームワークの維持のために自分の価値観を相手に押し付けないことを意識したい。私の当たり前はメンバーの当たり前ではないということを理解し、メンバーのタスクに対する姿勢や意識を否定せず、それらを受け入れた上でこちらの考えを相手に理解してもらうように努める姿勢がチームワークの維持のために必要な考えだと学んだ。また、チームワークが良い関係ならば、意見を交わしやすいし、適材適所の役割の振り分けを行うことも容易い。言い換えると、チームワークの良好はグループワークのやり易さに直結することを身に染みて実感した。

社会人1年生としての人生がもうすぐ始まる私にとって、やはりプロジェクト実習へのチャレンジは、今までの挑戦以上の経験と学びを得るものであった。苦しくて、しんどかった思い出もあるが、それを超える達成感を感じているし、非常に貴重な機会だったとも理解している。最後にこのプロジェクト実習をサポートし続けて下さった先生方やイベント実施・大甕マップ作成にご協力頂いた方々、そして共にプロジェクト実習をやり通したメンバーに謝意を示したい。本当にありがとうございました。

6：終わりに

平山 可恋

今年度の活動で、私たちのチームは前期に異文化交流プロジェクトの開催を、後期に大甕マップ/Omika Mapの作成を行った。今までのプロジェクトチームの中で、3人という1番少ないメンバーで活動を開始した。そして、後期の活動からはメンバーの事情により、2人で活動することになった。そのため、ひとり一人の仕事量、負担が非常に大きく、大変であった。メンバー同士の意見のすれ違いや活動内容の変更など様々なトラブルが発生し、そのたびにくじけそうになった。しかし、チームメンバー同士で励まし合い、助け合いながら一步一步前進し、2つの活動どちらも目標を達成することができた。この経験を通して、私たちは大きく3つのことを学んだ。

1つ目はゆとりをもった計画を立てることの重要性である。計画を立てたものの、計画を過密に設定してしまい、焦りが生まれてしまった。その結果、チームの関係悪化を招いてしまった。また、想像していた作業量よりも多く、必要な時に終わっていないなどの問題も発生してしまった。これらのことから、ある程度のゆとりをもたせて計画をたてることの重要性や活動の優先順位を決めることの必要性を学んだ。

2つ目はチームワークの大切さである。私たちは前期の活動中、必要最低限の連絡しか取っていなかった。その結果、メンバーの得意不得意を把握しきれず、困っているときに助けられなかった。また必要な作業がまだ終わっていないことにも気が付けなかった。このことから、ひとりで作業せず、全員で協力して作業すること、そして困っていることや疑問があれば、チームのみんなに聞くことが、自分にも、みんなにも大切であると学んだ。

3つ目は社会人基礎力である。正しいビジネスメール作成方法や電話の取次ぎ方、パワーポイントやワードの使用法など社会人として求められる基礎知識について学ぶことができた。また、仕事の依頼の仕方やリーダーとしての務め、自らの活動を紹介する広報の方法など普段の学生生活では味わうことのできない体験を得ることができた。

プロジェクト実習では大変なこともあったが、様々な学びと大きな達成感、そして自信を得ることができた。この振り返りを通し、改めてこの授業の面白さとありがたさを確認することができた。ここで学んだことを生かし、これからの未来に役立てていきたい。

最後に、このプロジェクト実習を支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。茨城キリスト教学園高等学校教諭杉本先生・関係者の皆様、水戸第三高等学校鴨志田先生・関係者の皆様、日立第二高等学校川上先生・関係者の皆様、水戸啓明高校泉澤先生・生田目先生・関係者の皆様、日立北高等学校小峰先生・関係者の皆様、湯本高等学校大森先生・関係者の皆様、大みか町の地域住民の皆様、そして担当教員の上野先生、ジャブコ先生、長谷川先生、本当にありがとうございました。

7 : 公共交通 KoMiKo チーム

リーダー	：海老根弘人	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
副リーダー	：伊藤 玲美	茨城大学理学部地球環境科学コース	2年
書記	：匂阪 浩聡	茨城大学人文社会科学部法律経済学科	2年
書記	：山形 賢志	茨城大学人文社会科学部法律経済学科	2年
会計	：荒川 祐太	茨城大学人文社会科学部法律経済学科	2年

主担当教員：鈴木 敦 茨城大学人文社会科学部 教授

副担当教員：神田 大吾 茨城大学人文社会科学部准教授

公共交通 KoMiKo チーム

1 : はじめに

山形賢志

(1) プロジェクト立案の経緯

このチームは、水戸市役所交通政策課の須藤文彦様にいただいた、「水戸市の公共交通機関の活性化と維持」という課題を解決するために結成された。また、水戸市役所様より「水戸市におけるバス利用者数を増やしたい」というご意見と、茨城交通様より「地域間幹線系統の利用を促進したい」というご意見を頂いた。そこで私たちは、「地域間幹線系統を利用した、水戸市内発のバスツアーを作成する」という目標を立て、課題を解決することにした。

(2) プロジェクトの目的

茨城交通様が運営する路線バスの利用者数を増やす。

目的達成のための具体的な手段は、茨城交通様の路線バスのバス路線のうち、地域間幹線系統を用いた「路線バスの旅」を作成し、同路線の利用者数の増加を図るものである。

(3) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、上述した目的を達成するために、以下のような方法で「路線バスの旅」の作成及び茨城交通様によるツアーの採用を目指した。

(i)メンバー自身の現地調査により、ツアーの候補路線を決定し、茨城大学の学生にモニタリング調査への協力を依頼する。これに基づき、「学生、若者目線で魅力的な新たなツアー」を複数作成する。

(ii)ツアー先の店舗や公共交通機関と交渉し、「価格」や「コンテンツ」において魅力的な「参加者特典」を準備する。

(iii)茨城交通様と交渉し、「運賃」等、バス会社の裁量に基づく魅力的な特典を準備する。

(iv)完成したツアープランを茨城交通様に提案し、採用を目指す。

(v)採用された際、学生主体の宣伝と利用状況調査を実施する。

(4) 成果の検証方法・「成功」の基準

ツアーに用いた路線の利用者数の増加を、プロジェクトの「成功」を判断する基準とした。

(5) 予算の調達

授業の開始に際し、各チームに活動費が支給されたが、本プロジェクトの性質上複数回のフィールドワークとそれに伴う出費が予想されたため、地域公共交通利用促進活動助成事業より予算を調達した。

2：活動概要

山形賢志

KoMiKo は目標達成のために、たくさんの方々のお力添えを頂きながら様々な活動を行ってきた。それらの活動の中で、主なものを以下に述べる。

(1)第1回現地調査

日程：7月28日 9:00～15:30

場所：大洗町、水戸市

ツアーに組み込む予定の候補地を実際に訪れたり、バス停から候補地までの経路の状況を確認したりするために現地調査を行った。プロジェクト演習の担当教員である鈴木敦先生に送迎をしていただき、安全かつ効率的な調査ができた。初のチーム全員でのフィールドワークであり、事前の準備や当日行動を共にすることで連帯感を深められた。

(2)第2回現地調査

日程：8月3日 9:30～17:00

場所：水戸市

第1回と同じく、実際の体験と経路の確認のために現地調査を行った。バスの本数がそれほど多くない路線を調査したため、予想より調査は難航したが、その分得られた収穫も大きかった。

(3)大洗コースモニターテスト

日程：11月3日 10:00～16:00

場所：大洗町

作成したツアーをメインターゲットである学生に実際に体験していただき、率直な意見や感想をもとにさらにツアーを改善する目的で実施した。4人の学生に参加していただき、終了後にアンケートを取ることで、貴重な第三者の視点から見た評価を得ることができた。

(4)御前山コースモニターテスト

日程：11月2日 10:00～15:00

11月3日 9:00～17:00

場所：御前山

大洗コースのモニターテストと同様の目的でモニターテストを実施した。2種類の登山コースに合わせて2日に分けて行った。計9人の学生に参加していただき、実際の登山道や道の駅を巡った。

(5)茨城交通様へのツアー提案

日程：12月13日 9:00～10:00

場所：茨城交通様本社

現地調査やモニターテスト、関係者の皆様とのミーティングの末に、完成したツアーを茨城交通様に提案した。ツアーの成功を左右するため、チーム一同緊張しつつも、可能な限りの準備を整えて提案に臨んだ。現在茨城交通様にツアーの採否を検討していただいております、採用された場合の宣伝方法を準備している。

3 : 議事録・活動記録

山形賢志

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 5月13日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 ラーニングコモンズ	プロジェクト構想立案、市役所訪問の日時検討	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	1:30
2	2019年 5月15日 12:00 - 12:30	茨城大学人文講義棟	構想書の内容確認、茨城交通様のメリット考案	荒川、海老根、匂阪、山形	0:30
3	2019年 5月20日 10:30 - 11:45	水戸市役所 4回小会議室	水戸交通課の須藤様、根本様と挨拶、今後の方針を話し合った	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	1:15
4	2019年 5月21日 12:00 - 12:40	茨城大学人文講義棟 24番教室	いただいた指摘と現行のバスツアーをもとに構想を再検討	荒川、伊藤、海老根、匂阪	0:40
5	2019年 5月22日 17:30 - 20:30	茨城大学図書館 2回グループ学習室S2	5/24の構想発表会にたパワーポイント作成、リハーサル	伊藤、海老根	3:00
6	2019年 5月23日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 2回グループ学習室S3	5/24の構想発表会に向け準備 新しいチーム名・プロジェクト名の考案	荒川、伊藤、海老根、匂阪	1:10
7	2019年 5月24日 8:00 - 8:30	茨城大学理学部棟 第6講義室	5/24の構想発表会に向けた最終リハーサル	伊藤、海老根	0:30
8	2019年 5月27日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨城交通様へ提案するツアーを考えた	荒川、伊藤、山形	1:30
9	2019年 5月28日 12:00 - 12:30	茨城大学人文講義棟 23番教室	茨城交通様訪問の日程調整	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:30
10	2019年 5月28日 12:30 - 14:00	茨城大学人文講義棟 23番教室	ツアーの候補地と今後の活動について	荒川、伊藤、海老根、山形	1:30
11	2019年 6月3日 10:00 - 12:00	茨城大学図書館2階 グループ学習室S1	ツアーの候補地を考えた	荒川、伊藤、海老根、匂阪	2:00
12	2019年 6月10日 10:30 - 12:30	茨城大学図書館2階 グループ学習室S3	茨城交通様とのmtgの議題表の確認	荒川、伊藤、海老根、匂阪	2:00
13	2019年 6月12日 11:50 - 12:30	茨城大学人文講義棟 2階26番教室	茨城交通様とのmtgに向けた最終チェック	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:40
14	2019年 6月13日 8:30 - 10:00	茨城交通本社 2階会議室	ツアー一般、KoMiKoのツアー、補助金などについて	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	1:30
15	2019年 6月17日 10:30 - 12:30	茨城大学図書館2階 グループ学習室S2	今後のスケジュールと活動、疑問点について	伊藤、海老根、海老根、匂阪	2:00
16	2019年 6月18日 11:50 - 12:30	茨城大学人文講義棟 23番教室	今後のスケジュールと茨城交通様とのmtgの振り返り	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:40
17	2019年 6月19日 11:50 - 12:30	茨城大学人文講義棟 23番教室	市役所様訪問の日程、その議題表について	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:40
18	2019年 6月24日 10:30 - 12:00	茨城大学図書館2階 グループ学習室S3	鈴木先生とのmtgの議題表確認、コースピックアップ	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	1:30
19	2019年 6月25日 12:40 - 13:30	茨城大学人文社会科学部棟C305	鈴木先生とmtg	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:50
20	2019年 6月26日 12:00 - 12:30	茨城大学人文社会科学部棟22番教室	市役所様とのmtgの議題確認、スケジュールについて	荒川、伊藤、匂阪、山形	0:30
21	2019年 7月1日 10:30 - 11:30	水戸市役所本庁舎 4階小会議室	市役所様とmtg	伊藤、海老根、匂阪	1:00
22	2019年 7月1日 9:00 - 9:40	水戸市役所本庁舎8階 休憩場所	市役所様とのmtgの確認	伊藤、海老根、匂阪	0:40
23	2019年 7月2日 12:00 - 12:25	茨城大学人文講義棟2 階23番教室	今後の活動について	荒川、伊藤、海老根、匂阪	0:25
24	2019年 7月3日 12:00 - 12:30	茨城大学人文講義棟 2階23番教室	今後の活動について	荒川、伊藤、海老根、匂阪	0:30

25	2019年 7月4日 12:00 - 12:30	茨城大学人文講義棟 2階22番教室	市役所インターンシップ等について	荒川、伊藤、海老根、匂阪	0:30
26	2019年 7月5日 12:00 - 18:00	茨城大学共通教育棟1 号館ラーニングコモンズ	補助金路線の候補地ピックアップ	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	6:00
27	2019年 7月9日 12:00 - 14:00	茨城大学人文講義棟 2階23番教室	市役所インターンシップ、今後の活動について	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	2:00
28	2019年 7月12日 12:00 - 12:30	茨城大学共通教育棟1 号館ラーニングコモンズ	補助金路線の候補地共有	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:30
29	2019年 7月12日 14:00 - 16:30	茨城大学共通教育棟2 号館ラーニングコモンズ	時刻表リサーチ、今後の活動について	荒川、伊藤、海老根、山形	2:30
30	2019年 7月16日 12:00 - 12:30	茨城大学人文講義棟2 階22番教室	18日の中間報告会に向けて、発表内容及び 質問について	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:30
31	2019年 7月19日 12:00 - 12:30	茨城大学共通教育棟 ラーニングコモンズ	前期の活動を反省と、それらの対応策を考 えた	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	0:30
32	2019年 7月19日 12:40 - 22:00	茨城大学共通教育棟 ラーニングコモンズ、 図書館ラーニングコモンズ	7月28日の現地調査のコース決め	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	9:20
33	2019年 7月22日 10:20 - 11:40	茨城大学図書館2階グ ループ学習室L2	前回のミーティングの共有と28日の現地調査 についての話し合い	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	1:20
34	2019年 7月23日 11:50 - 12:40	茨城大学人文社会科学部 講義室2階21番教室	ツアー候補の「水戸駅～水戸医療センター」 を巡る現地調査についての話し合い	荒川、匂阪、山形	0:50
35	2019年 7月26日 8:50 - 10:00	茨城大学図書館ラーニ ングコモンズ	水戸医療センターコースの現地調査につい て、候補地を選定	伊藤、匂阪、山形	1:10
36	2019年 7月28日 9:00 - 15:30	茨城県大洗町	大洗町で現地調査を行った	荒川、伊藤、海老根、匂阪、山形	6:30
37	2019年 7月29日 10:20 - 11:45	茨城大学2階グループ 学習室L2	28日の現地調査の振り返り(1回目)	海老根、匂阪、山形	1:25
38	2019年 7月30日 12:00 - 13:00	茨城大学人文社会科学部 講義棟24番教室	28日の振り返り(2回目)と今後の方針につ いて	伊藤、海老根、匂阪、山形	1:00
39	2019年 8月2日 9:00 - 12:00	茨城大学共通教育棟1 号館ラーニングコモンズ	現地調査の振り返りと次回の予定について	海老根、匂阪	3:00
40	2019年 8月2日 12:00 - 14:00	茨城大学共通教育棟1 号館1階ラーニングコ モンズ	第2回現地調査の日程決め	海老根、伊藤	2:00
41	2019年 8月5日 10:30 - 12:00	茨城大学図書館2階共 同学習室L2	第2回現地調査の振り返り	海老根、匂阪、荒川、山形	1:30
42	2019年 8月9日 16:00 - 17:00	茨城大学図書館2階グ ループ学習室L3、S3	今後のツアーづくりと活動の方針決め	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:00
43	2019年 8月14日 13:00 - 16:30	ゲスト、御前山	鈴木先生とのミーティング	海老根、荒川	3:30
44	2019年 9月13日 10:00 - 11:00	水戸市役所4階交通政 策課	須藤様からのアドバイス	海老根、山形	1:00
45	2019年 9月20日 14:00 - 16:30	茨城交通本社	現在のツアー案の提示とアドバイスを頂いた	海老根、山形	2:30
46	2019年 9月25日 17:30 - 18:00	水戸市役所4階交通政 策課	現状報告とアドバイスを頂いた	匂阪、荒川	0:30
47	2019年 9月26日 11:00 - 12:00	水戸市役所5階交通政 策課	同上	匂阪、荒川	1:00
48	2019年 9月30日 14:00 - 16:00	茨城大学共通教育棟 ラーニングコモンズ	現状確認と今後の方針について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	2:00
49	2019年 10月10日 14:30 - 19:10	茨城大学共通教育棟 ラーニングコモンズ	これまでの振り返りと今後の方針について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	4:40
50	2019年 10月23日 12:40 - 14:10	茨城大学人文社会科学部 棟3階C305	補助金と今後の方針について	荒川、山形	1:30
51	2019年 10月28日 16:00 - 18:00	茨城大学共通教育棟1 号館1階ラーニングコ モンズ	これまでの振り返りと今後の方針について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	2:00

52	2019年 10月30日 14:35 - 15:40	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	ツアーのモニタリングと茨城交通様とのMTG議題について	海老根、伊藤、匂阪、荒川	1:05
53	2019年 10月31日 16:20 - 17:30	茨城大学共通教育棟1号館2階ラーニングコモンズ	大洗コースの運賃、モニタリング調査、予算の使い道等について	海老根、匂阪、荒川、山形	1:10
54	2019年 11月6日 14:30 - 15:50	茨城大学図書館2階グループ学習室L4	茨城交通様とのミーティング議題について	海老根、匂阪、荒川、山形	1:20
55	2019年 11月7日 14:30 - 15:40	茨城交通株式会社本社社屋2階会議室	茨城交通様とのミーティング	海老根、匂阪、荒川、山形	1:10
56	2019年 11月13日 14:20 - 15:30	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	今後の活動について	海老根、伊藤、匂阪、荒川	1:10
57	2019年 11月18日 17:00 - 18:00	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	茨城交通様への最終提案の準備とスライドの確認	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:00
58	2019年 11月19日 16:00 - 17:00	茨城大学図書館2階グループ学習室L3	最終提案のスライド準備	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:00
59	2019年 11月21日 16:30 - 17:30	茨城交通株式会社本社社屋2階会議室	茨城交通様への最終提案	海老根、伊藤、匂阪、荒川	1:00
60	2019年 11月21日 18:00 - 18:30	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	現状の確認と今後の方針決め	海老根、伊藤、匂阪、荒川	0:30
61	2019年 11月25日 16:00 - 18:00	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	最終報告会、鈴木先生とのミーティング、道の駅かつら様とのメール等について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	2:00
62	2019年 11月29日 12:05 - 12:20	茨城大学人文社会科学部C棟鈴木教員研究室	鈴木先生とのミーティング	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	0:15
63	2019年 12月2日 16:00 - 18:00	茨城大学図書館2階グループ学習室S4	ポスターセッションの内容確認、スライドの確認、小林様への変身について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	2:00
64	2019年 12月3日 16:00 - 17:30	茨城交通株式会社本社社屋2階	路線バスの旅のコンセプト、道の駅かつらでの得点、大洗コースについて	海老根	1:30
65	2019年 12月4日 9:00 - 10:00	茨城大学図書館2階共同学習室L4	茨城交通様とのミーティングの共有と、今後の活動予定について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:00
66	2019年 12月5日 16:00 - 19:00	茨城大学図書館二階グループ学習室S3	最終提案と最終報告会の準備	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	3:00
67	2019年 12月7日 12:40 - 17:30	茨城大学人文社会科学部講義棟1階10番教室	活動報告会のリハーサル	海老根、伊藤、匂阪、荒川	4:50
68	2019年 12月9日 16:00 - 17:30	茨城交通株式会社本社社屋2階小会議室	飛田様とのミーティング	海老根、伊藤、匂阪、荒川	1:30
69	2019年 12月11日 12:00 - 12:30	茨城大学人文社会科学部講義棟	最終提案と今後の活動について	海老根、伊藤、荒川、山形	0:30
70	2019年 12月12日 16:10 - 17:30	茨城大学共通教育棟ラーニングコモンズ	茨城交通様への最終提案について	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:20
71	2019年 12月13日 9:00 - 10:00	茨城交通株式会社本社社屋2階大会議室	茨城交通様へのツアー提案	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	1:00
72	2019年 12月16日 17:30 - 19:30	茨城大学図書館2回共同学習室S4	活動報告会の練習と今後の活動について	海老根、伊藤、匂阪、山形	2:00
73	2019年 12月19日 16:00 - 18:00	茨城大学理学部棟1階教室	活動報告会の発表練習と作成したコースの名称決め	海老根、伊藤、匂阪、荒川、山形	2:00
74	2020年 1月7日 14:20 - 16:00	茨城大学図書館2階グループ学習室S3	赤岩先生とのミーティング	荒川、山形	1:40
75	2020年 1月9日 16:00 - 16:30	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	赤岩先生とのミーティング結果の共有と、チラシの費用について	海老根、伊藤、匂阪、荒川	0:30
76	2020年 1月16日 16:00 - 17:00	茨城大学共通教育棟1号館1階ラーニングコモンズ	今後の活動について	海老根、伊藤、匂阪、山形	1:00
				合計	122:45

4：活動トピック

海老根弘人、山形賢志

(1)外部補助金の獲得

<活動内容>

プロジェクト演習では、1チーム20,000円を上限に予算を宛がって戴いているが、私たちのプロジェクトの貫徹には不十分であると予想された。そこで課題ご提案者の須藤様のご教示により、7月4日に茨城県公共交通活性化会議様 (<http://www.koutsu-ibaraki.jp/>) の「令和元年度地域公共交通利用促進活動助成金」 (<http://www.koutsu-ibaraki.jp/kasseika/jyosei.html>) に申請書を提出し、幸いにし満額(100,000円)で採択して戴くことができた。

これにより、後述のツアー案に対するモニターテストやチケット発売時の販促チラシ作成費等を賄うことができるようになり、活動の幅が大きく広がった。ご支援に感謝申し上げます。

(2)第1回現地調査

<日程>7月28日 9:00~15:30

<場所>大洗町、水戸市

<活動内容>

私たちは、鈴木先生同行のもと、現地調査を行った(図1)。事前に視察するルートやスポットを選定し、葉も作成した。巡ったスポットは、大串貝塚ふれあい公園、ブロンズ、ume café WAON、大洗シーサイドステーション、大洗わくわく科学館、大洗サンビーチ海水浴場、六地藏寺の、以上7か所である。これらを調査するにあたり、客層、混雑度、バリアフリー、雰囲気などを重点的に調べたほか、飲食店であれば滞在時間やフリーwifiの有無といったことや、観光施設では貸出品や土産店等も合わせて調査した。また、私たちが作成する「路線バスの旅」はその性質上、バス停から各スポットまで歩く行程があるため、ツアーで使用するバス停からスポットまで実際に歩くという調査も行った。これは特にインターネットでの情報収集が困難なため、注意して観察する必要がある。スポットまでの徒歩での所要時間、交通量、歩道の広さ、整備の具合等、お客さんがツアーを利用したときに気落ち良く歩けるかを調べるため、ツアーを利用する人の視点で調査するよう努めた。



図1：第1回現地調査

実際に現地に赴くことで、ツアーの実用性に関する問題点や改善点を多く発見することができた。

(3)インターンシップ

<日程>9月4日~10日(第1班)

9月11日~18日(第2班)

9月19日~26日(第3班)

<場所>水戸市役所他

<活動内容>

私たちチームは、プロジェクト演習の授業の一環として、夏季休業中に、お世話になっている水戸市役所交通政策課様のもとで、インターンシップを行った(図2)。「交通政策課」では、水戸市内で事業を展開する各種交通事業者がなるべく競合せずに収益が上げられるよう調整したり、市民が気軽に交通機関を利用できるように活動したりしている部署である。ここでインターンシップを行うことにしたのは、市役所の職員の方々が日頃から、いかにして市民が暮らしやすい生活環境を整えているのかを理解するとともに、私たちチームが公共交通の利用促進を目標としてプロジェクトを進める中で、市役所職員の視点から水戸の交通について考えたいと思ったからである。



図2：インターンシップ

①業務内容

私たちがインターンシップ期間中に体験した業務内容をいくつか紹介する。

(i)パソコン業務

私たちは、パソコンを貸与され、エクセルを用いた数値の入力作業や、報告書の作成を行った。水戸市内では、「茨城交通」、「関鉄バス」、「関鉄グリーンバス」、「JRバス関東」の4種類のバス事業者が事業を展開している。これら各バス会社それぞれの利用者数の多い系統順に並べていく作業をした。また、プロジェクトでお世話になっている「茨城交通」様に特に焦点を当てて、各系統の利用者の多寡や増減数から、その理由を考察し、報告書にまとめた。この業務を通して、数値を読み解く力、日頃から大学の授業で培ってきた思考力を大いに生かすことができた。

(ii)庁舎外業務

街に出て行った業務である。「交通政策課」では、バリアフリーの推進にも力を入れている。あるメンバーは市内の小中学校で、茨城交通様や国土交通省の職員の方々と共同で開かれた「バリアフリー教室」の補助業務を行った。また、あるメンバーは市内の公共施設を訪れ、身体障害者のためにエレベーターへの誘導をしたり、会場への案内などを行ったりした。この業務は、私たち健常者が当たり前のようにできることが、彼らにとっては難しく、社会の設備にはまだまだ障害を持つ人にとっては不便なものがたくさんあり、それらを少しずつ取り払って、少しでも人並みに生活が営めるような環境を整備していくことが必要であることを考えるきっかけとなった。

②インターンシップを通して学んだこと・考えたこと

インターンシップ期間中には、上記の他にも様々な業務を体験した。それらすべての業務体験から分かったことは、市の職員が市民のことを常に第一に考え、市民が安心して快適に生活ができるように尽力していることである。「交通政策課」においては、市民がスムーズにバスを乗り降りできるように、バス事業者などと協力して乗り方講座を行ったり、広報をしたりしてわかりやすく伝えている。また、市内の様々な施設へのアクセスの仕方がわかるように、見やすいマップを作成している。バス事業者に対しては、より多くの人々にバスを利用してもらえるよう、様々な施策を行って支援したり、同様の事業者通しの競合を抑え、なるべくどの事業者にも一定の収益が上げられるように調整したりして、市民の足となる公共交通機関の安定的な運営を図っている。そして、障がい者のためには、健常者と同等の暮らしが営めるように環境の整備を進めている。

以上のように、交通機関の利用者や運営者など、市内のすべての人々が等しく利益を享受できるように日々尽力している。これは、私たちが業務体験をしている中や、職員の方々の仕事ぶりを見ている中で感じられたものである。市役所は市民との距離が最も近い期間で、住民の意見が最も反映されやすいところである。インターンシップ期間中に、市民の厳しい意見が寄せられている光景を目の当たりにしたが、いずれの職員もそれを真摯に受け止め、穏やかに丁寧に対応していた。いかなる意見であろうともしっかり受け止め、それを行政運営に生かす。これも、市民のことを第一に考え、よりよいまちづくりを目指すためと考えられる。そんな前向きな姿勢に大変感銘を受け、私たちもいずれ社会に出たときに、このような仕事の仕方をしたいと強く思った。

(4)御前山モニターテスト

<日程>11月2日 10:00~15:00

11月3日 9:00~17:00

<場所>御前山

<活動内容>

私たちは作成したツアーを実際に体験し、フィードバックをもらうためにモニターテストを実施した。(図3)フィードバックを受け取ることで、第三者からの客観的な視点を受け取り、ツアーをより良いものとするを旨とした。御前山のモニターテストでは、1日目に3.7kmの登山コースを、2日目に10.2kmのコースを実際に歩いた。実際にツアーを売り出した際にお客様がツアーを利用することを意識して行うことで、様々な有益な意見を吸い上げることができた。

モニターから挙げられた意見の例として、値段設定やツアーの内容についての改善点があった。一方で、ツアーのウリ出し方についてのアドバイスもあった。モニターテストの結果をツアーに反映することで、お客様の目線により寄り添ったツアー内容を実現できた。



図3：御前山モニターテスト

(5)茨城交通様へのツアー提案

<日程>12月13日 9:00~10:00

<場所>茨城交通様本社

<活動内容>

茨城交通様へ、私たちが作成したツアーを提案した(図4)。ツアーを採用していただくために、ツアーの集客の見込みや、ツアーを採用していただいた場合の茨城交通様のメリットを示した。

ツアーの提案までに、たくさんの関係者の方々のお力添えがあった。ツアー作成段階からご厚意で協力してくださった各店舗の皆様、調査の方法からプレゼンの工夫までご指導くださった先生方がいらっしゃったからこそ、ツアーの提案を実現できた。

また、チーム一丸となって行った準備もあった。簡潔で分かりやすい提案を目指し、スライドの作成やプレゼンテーションの練習に力を入れた(図5)。細かい情報は別途資料を作成し、個別に説明した。ツアーの提案を通じて学んだことは、プレゼンテーションを受け取る側の目線を持つことの重要性である。相手にとって関心がある内容とは何かを考えることによって、より有益なプレゼンテーションができるということに気づくことができた。



図4：茨城交通様へのツアー提案



図5：プレゼンテーション練習

5：インターンシップレポート（水戸市役所 市長公室交通政策課）

実習を通して気づいた市役所での働き方

海老根 弘人（現代社会学科・2年）

1. 参加の動機

私は今回のインターンシップに「プロジェクト演習」という授業の一環として参加しました。この授業では、学外の方々あるいは履修学生自身から提案された課題に、学生がチームを組んで一年を通じて取り組みます。私たちのチームが取り組んでいる課題は、水戸市役所交通政策課から提案された「水戸の公共交通をより良いものにしてほしい」というものです。一年を通して水戸市役所交通政策課と連携しプロジェクトを進めていくのですが、加えて夏休み期間に一週間のインターンシップをさせていただくという授業内容となっています。実際に学生がプロジェクトの連携先へインターンシップに参加することで、実際の現場で経験を積み臨機応変に考える力を養い、プロジェクトをより良いものとすることができます。

2. 派遣先の概要と業務内容

水戸市役所市長公室交通政策課は、交通政策の企画及び調整に関する業務や、高齢者・障がい者の方々の移動などの円滑化の促進に関する法律に関する業務、また、自転車走行空間整備の企画及び調整に関する業務を行っています。私が行った業務内容としてはまず、水戸市内を走るバス会社の各系統の年間利用者の数の整理・分析を行いました。それぞれのバス会社ごとに前年度比が大きく増加している系統と減少している系統を調べ、その原因を分析しました。また、水戸市が抱える課題に対しての簡単な企画の立案をしました。将来的な人口減少問題を解決するための「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた取り組みを考え、提案させていただきました。加えて、大洗鹿島線の利用促進に有効な中吊り広告のデザインや車両を活用したイベントを提案しました。水戸市役所交通政策課では、水戸市内の小学校で「交通バリアフリー教室」というイベントを開催しているのですが、そこで高齢者体験用の装備の装着の手伝いなどを行いました。

3. インターンシップを通して修得したこと

今回のインターンシップの経験を通して学んだことは、市役所という立場での地域とのかかわり方です。市役所は県庁と比べると現場レベルの仕事の割合が高く、地域の人々と触れ合うことや地域の問題に直接取り組むことが多いということを実感しました。私もインターンシップ期間中に実際に市内の小学校に行き、バリアフリーの重要性を子供たちに直接教える教室の補助をし、市役所の仕事の市民との距離の小ささを感じました。私はこの市役所の仕事の現場レベルでの取り組みができるという点が面白いと感じました。国や県のような規模の大きな取り組みをすることは難しいかもしれませんが、地域の住民の声に耳を傾け、地域が抱えている問題を丁寧に把握して適切な取り組みをすることが可能なことは、地域との距離が小さい市役所の長所だと考えます。しかし、この市役所の市民との距離の小ささは時に働くうえで難しさもあるということを実感し、市役所職員の方から教えていただきました。市役所の仕事はいつも市民に感謝される仕事とは限りません。例えば、市民税課などでは市民から税金に関する不満や仕事に関するクレームなども聞かなければなりません。自治体を運営していくには、そのような仕事は必要不可欠です。しかしながら、地域のために働いているにも関わらず住民から感謝の言葉ではなく、クレームを受けることがあるということは、市民との距離が近い市役所で働くうえで考慮しなければいけないことであると感じました。今後は、市役所だけでなく県庁や、企業の地域とのかかわり方も調べていきたいと考えています。市役所のように、それぞれの立場によって地域とのかかわり方の特徴やできることが違ってくると思います。サイトなどで情報を収集することや、職員の方のお話を聞くだけでなく、実際にインターンシップに行き自分に合った地域とのかかわり方や働き方を探していきたいです。

4. 後輩へのアドバイス

インターンシップの良い点は職場の雰囲気を実際に体験できることです。その雰囲気の中で業務を体験することで、本当に自分にその職種が適したものなのか掴めるかもしれません。もし、インターンシップを通してその職種が自分には合わないと感じとしても落ち込む必要はありません。インターンシップの経験から、将来自分が就く職業とのミスマッチを防ぐことができます。就職した後に後悔しないためにも積極的にインターンシップをすることをお勧めします。

水戸の公共交通を守る

伊藤 玲美（理学部地球環境科学コース・2年）

1. 参加の動機

私は現在、履修中の「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」において、公共交通の利用促進を目標としたプロジェクトを進めています。これに際して市役所職員の視点から水戸の交通について考えたいと思い、交通政策課に応募致しました。

2. 派遣先の概要と業務内容

交通政策課では、主に水戸市の公共交通機関の利用を促進することを目的とした政策を立て、実施しています。また、取り扱う公共交通機関は、路線バスやタクシー、電車、さらには自転車などといった車両を幅広く対象とし、市民の足を守っています。そのため、現在運行中の電車の利用者を増やすための広告の作成や、新たな交通手段の開拓を行なっています。さらには交通機関のバリアフリー化にも力を注いでおり、体験期間中には市内の小学校で茨城交通さんや国土交通省の方々と共同で開かれた「バリアフリー教室」の補助業務まで行うことができました。

3. インターンシップを通して修得したこと

今回の派遣で、『1000円タクシー』という企画の職務の視察をさせて頂きました。これは水戸市内でも、駅やバス停がなく交通の便が良くない地域で運用されているタクシーで、国土交通省の実証実験として現在(2019年4月1日～2020年3月31日)試用運転されています。交通課の方に伺ったお話によると、このプロジェクトが発足したのは数年前で、現在の試用運転の段階に至るまでは長い時間がかかったと仰っていました。膨大な時間をかけていること、またそれが最終的なゴールではなく、持続可能なものにするための継続的なケアを行なっていることから仕事の責任の重さを知りました。それに加えて、そのようなプロジェクトを一つ企画するだけでも、様々な方面からの協力者が非常に多いことに驚きました。また、派遣期間中に市役所の新庁舎の見学とご説明を頂きました。これにより、水戸市の防災対策やバリアフリーへの意識を感じることが出来たと同時に、最新の設備を備えた施設であるとわかったため、市民としての安心感を抱きました。そして1時間の昼休憩では、職員の方から公務員試験の相談に乗って頂いたり、ワークライフバランスの助言を頂いたり、常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

4. 後輩へのアドバイス

理学部で市役所の交通政策課にインターンシップに行くという人はあまりいないと思います。しかし、2年生のうちに別の分野が関わる職場へ体験に行くことは、将来を考える上で大いに役立ちます。別の視点から追求していきたい分野を見つめ直せることに加え、そこで新たに探究心の芽生えるものとの出会いがあるかもしれません。今のうちに色々な世界を見ておくことをお勧めします。

市民に寄り添って働くということ

匂阪 浩聡 (法律経済学科・2年)

1. 参加の動機

私は、将来公務員への就職を考えています。公務員といっても色々ありますが、今回は市民にとって身近な存在である市役所でインターンシップを行うことを考えました。また、私のチームは、水戸市の公共交通の利用活性化に向けた活動を行っています。その関係で水戸市役所交通政策課には大変お世話になっています。そこで業務体験をさせていただくことで、職員の皆様が、いかにして様々な交通事業者と連携して活動しているか、また、交通や道路の整備、交通指導などを通して、市民や観光客が、快適に過ごせるよう尽力している姿を間近で見ることができ、業務内容を学ぶに適切な場所と考えたからです。また、市がどれほど市民に寄り添っているかを間近で見られることも動機の一つです。

2. 派遣先の概要と業務内容

水戸市役所交通政策課は、水戸市の公共交通を多くの人に快適に利用してもらうために、交通事業者にサービスの向上を働きかけたり、様々な事業者が皆一定の売り上げが出せるように調整したりする業務を行っています。また、自転車マナーの向上のための交通指導やバリアフリーの推進といった業務も行っていきます。

業務内容は以下の通りです。

・パソコンの入力作業と考察

茨城交通から提供された、2017年度と2018年度の全運行系統の売り上げが記されたデータをもとに、2018年度の前年度比利用者増加系統と減少系統を1位から10位までエクセルに書き並べ、全体での利用者の増減を調べました。そして、それをもとに、増減理由につながる要素を挙げ考察しました。

・各種作業

資料のホチキス止め、封筒に宛名と住所が書かれたシールを張る作業、書類を封筒に入れる作業などを行いました。

・庁舎外業務

アダストリアみとアリーナで行いました。新たに建設される立体駐車場に設置予定のエレベーターと同規模のものについて担当者から説明を行ったうえで、車いすの方に実際に試乗して動き、感想等を語って戴くことで改善につなげようというものでした。

私たちは、市民を説明会場やエレベーターに案内する仕事や、発言者にマイクをお渡しする仕事を行いました。

3. インターンシップを通して修得したこと

職員が市民に対応している場面が多々見られました。市民がどんなに苦情を言ってきたとしても、真正面から丁寧に対応することの大切さを学びました。やはり、市民と接する機会が多い分、対応するすべをしっかり身に付けていることが見てわかりました。

また、様々な作業を通して、効率的な仕事のこなし方を考え、身に付けられました。資料のホチキス止めを例に挙げます。この作業は、パソコン作業の合間の単純作業です。この期間、二人でインターンシップを行いました。ホチキス止めには、用紙をきれいに重ねて整える作業と、それを止める作業の二つがあります。私たちは、前者の作業と後者の作業とで分業することにしました。このほうが、一つの作業に専念でき、その分スピードを上げることができます。

以上のように、限られた時間で、より多くの作業を短い時間でできるように考え、努めました。

4. 後輩へのアドバイス

挨拶は大きな声で堂々とできるように身に付けておきましょう。出勤時、退勤時はもちろん、外で市民とあった際にも挨拶をすることが大事です。また、パソコン業務が大半を占めるので、ワード・エクセルを使いこなせるようにしておくことをお勧めします。ホチキス止めといった作業は、簡単ですが多いので効率が重視されます。パソコン業務の合間に気分転換に行うとよいでしょう。複数人で行う際には得意不得意で分担するとよいでしょう。

市役所での働き方を体験して

山形 賢志 (法律経済学科・2年)

1. 参加の動機

私はプロジェクト演習を履修し、水戸市の公共交通を改善するプロジェクト課題を選択しました。この課題を進める中で、交通会社だけでなく、行政とのミーティングや調整が必要となり、水戸市役所の市長公室交通政策課様でインターンシップをさせていただくことになりました。

2. 派遣先の概要と業務内容

水戸市役所市長公室交通政策課様は、以下のような業務を行っておられます。

- ・公共交通の企画及び調整に関すること
- ・広域交通体系に関すること
- ・高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に関すること
- ・自転車走行空間整備の企画及び調整に関すること など

(出典：<https://www.city.mito.lg.jp/soshiki/01000/koutsu/index.html>)

インターンシップでは、水戸市役所庁舎内において、鹿島臨海鉄道のさらなる発展のために利用者増加を目標に、効果的な宣伝方法を考案しました。案としましては、現実の車両を使ったりリアル脱出ゲームや、現地の高校生に出演してもらうPVの作成などを考案しました。また、水戸市の路線バス利用者数の増減をデータより計算し、水戸市の冬季の気候が変化したためにバス利用者が増えたのではないかと、といった推測を立てました。

また、渡里小学校において、高齢者・障がい者体験の補助をしました。約40人の小学4年生を対象に、体の動きを抑制したり、重りを付けたりする器具を装着して高齢者の方の動きづらさを体験したり、車いすでバスに乗車することで、障がい者の方の気持ちを理解したりするという催しで、器具の装着などをお手伝いしました。

3. インターンシップを通して修得したこと

交通政策課の須藤文彦様に水戸駅方面を案内してもらい、水戸駅の交通の問題を教えていただきました。そこで、路線バスの発着が北口に偏っていること、行政としてはこれを解決したいが、バス会社も営利目的でありボランティアではないため交渉が難しいこと、南口のバスターミナルの回収も必要だが難しいということを知りました。

また、私たち学生チームKoMiKoのツアー案(公共交通改善のため)を市役所の方々に紹介し、アドバイスを頂いた時、須藤様や同じ課の根本浩徳様以外の方にチームKoMiKoのツアー案をご説明するのが初めてであったため、プロジェクトを1から理解してもらう必要があり、相手が正確に理解できるように、情報の取舍選択が必要でしたが、これはかなり準備をしないとその場で戸惑ってしまうとわかりました。また、同じ日程でインターンシップに参加したチームメイトの海老根弘人が主に説明する場では、自分の話すことがなくなり、思考が停止しているように感じるがありました。主体的な活動をしていないと、自分の意見を持つてなくなるようです。

4. 後輩へのアドバイス

市役所の方とは普段お話しする機会はないと思います。当然、インターンシップに参加する前は緊張することだと思います。僕もそうでした。しかし、案ずることはありませんでした。市役所の皆さんは好意的に受け入れてくれますし、まじめに業務をしていれば、まず不安なことはないと思います。ただ、市役所の運営は税金で賄われており、たとえインターンシップ生といえども市役所の運営を妨げるようなことはしないよう注意してください。挨拶をし、時間を守り、積極的に活動し、創意工夫を忘れない。先方に迷惑をかけないよう意識しつつ、先方の役に立つこと、それがひいては自分のためにもなることを忘れず実践するようにしてください。

交通政策課の仕事を体験して

荒川 祐太 (法律経済学科・2年)

1. 参加の動機

プロジェクト演習の授業の中で、水戸市の交通に関することをさらに知りたいと思ったからです。また将来の就職先として公務員を希望しており、どのような仕事をしているか興味があったからです。市役所の業務は窓口業務以外に普段目にするのがないため、特に興味を持っていました。交通政策課をインターンシップ先として希望したのは、どの自治体であっても交通政策は重要だと考えたからです。交通の利便性が低いことは、流通や市民の生活に大きく影響を及ぼすからです。

2. 派遣先の概要と業務内容

私は水戸市の交通政策課という部署で5日間インターンシップに参加させていただきました。水戸市交通政策課は、市民が安心して移動できる交通体系を実現することを基本理念として業務を行っています。業務内容は自転車の事故防止のための専用レーンの設置、バス路線の再編やバリアフリー化そしてユニバーサルデザインの導入などです。

インターンシップでは、初日に水戸市交通政策課が行っている業務の大まかな説明を受けました。その後は、バス利用に関する宣伝ポスターの折り込みや10月から増税による運賃の変更を交通政策課で作成したマップに張り付ける作業などを行いました。また、バス利用者の増加に関する考察や調査部会での委員の誘導などを行いました。バス利用者の増加に関する考察では、分析の難しさや報告文書を作る難しさを体感できました。

3. インターンシップを通して修得したこと

まずインターンシップを通して、単純な作業をどれだけ丁寧に早く行っていけるかが大切だと感じました。普段は職員の方々が前述の宣伝ポスターの折り込みやマップへの貼り付け作業を行います。これに加えて、交通政策課には、一日何十本もの電話対応があります。さらに進めている施策の業務があります。職員の方々は多忙な中で、深く考える必要のない作業と考える必要のある作業を交互にはさみながら効率的に作業を終わらせていました。単純な作業を丁寧に早く終わらせることが優先度の高い仕事を進められる要素の一つだと感じました。そのため、単純な作業でも効率的に終わらせられるように工夫することが以前より意識的にできるようになりました。

次に、報・連・相の重要さに気づけました。報・連・相は重要であると言葉では理解していましたが、しかし、実際に業務を行ってみて、仕事を任せられると、どれも初めての仕事で細かなことが分かりません。そして、自身が予測して仕事を行うと間違いを犯します。私は宛名の貼り付け作業の際に、途中で偶々相談できたため、ミスをしませんでした。その時、相談をしなければ、再度宛名を印刷してもらうことになり職員の方々に迷惑をかけます。なぜ報・連・相が重要なのか身に染みて理解できました。

最後に、挨拶や言葉遣い、礼儀作法などの常識的なことが自分にまだ足りていないと気づけました。職員の方々と5日間仕事を間近で行っていて気づきました。当たり前のことを当たり前に行っていたらいいと思います。これからの大学生活の中で、今回のインターンシップで得た様々な気づきをもとに、勉学等に励んでいこうと思います。

4. 後輩へのアドバイス

5日間のインターンシップに行くことに不安を感じる学生もいると思います。私も短期のインターンシップにさえ行ったことがなかったため、今回が初めてのインターンシップなこともあり、不安が尽きませんでした。しかし、職員の方々は終始丁寧に業務内容を説明してくださり、またこちらが緊張していることを見て、優しい言葉をかけていただきました。5日間の中で不安は消えていきました。「不安だから行かない」といったことはお勧めしません。不安は杞憂に終わると思うのでぜひ参加してみてください。インターンシップで得られたことは多く、なによりも新しいことに挑戦することに対する自信も持てました。不安を理由に行かないといったことはとても損だと感じました。大事なことなのでもう一度、言いましょう。ぜひ参加してみてください。

6：個人レポート

プロジェクトを通じて身に着けた能力

茨城大学 2年 海老根弘人

プロジェクト演習の授業を通じて、今後社会人として働いていくうえで重要となる、さまざまな能力を身に着けることができた。私が、プロジェクトに取り組んでいくにあたって、社会人の基礎力ルーブリックから目標として設定した三つのゴールは、「主体性」「計画力」「状況把握能力」である。一年を通じて、与えられた課題の解決に向けてプロジェクトに取り組んできた。多くの失敗を犯し、さまざまな困難に直面したが、同時にたくさんの気づきや学びのあった、非常に有意義な経験であったと考える。今レポートでは、先述した三つのゴールに関し、私が何を学んだか述べる。

一つ目のゴールに「主体性」を設定した理由は、自分自身が何事においても受け身の姿勢であることを感じ、改善したいと考えたからである。授業を履修するにあたって、自分のことを振り返ってみたところ、私は、親や先生といった他人からの意見を受けて行動すること多く、自分自身の考えに基づいた行動はあまり多くなかった。しかしながら、大学を卒業し、社会人として生きていくにあたって、どんな職業に就き、どんな生活をしていくかということを決めるのは自分自身である。自分の決断・行動に責任を持ち、自立した大人となるためには、「主体性」が必要不可欠であると考えた。

プロジェクトを通じて私は、「主体性」を身に着けることができたと考える。私は、リーダーとして積極的にプロジェクトに取り組んだ。チームのプロジェクトに対する姿勢は、リーダーの影響を強く受けると感じたため、率先して働き、チームの士気が上がるように心掛けた。プロジェクト発足当初は、どんなことに取り組めばよいかわからず、先生の指示を受けて行動することも多かったが、時間がたつにつれて自主的にプロジェクトに取り組む姿勢が身に付き始め、先生に自主的にプロジェクトに関する相談を持ち掛けることも多々あった。

二つ目のゴールに「計画力」を設定した理由は、私が計画を立てて行動し、その計画に沿って決めたことをこなしていくということに関して、苦手意識を持っていたからである。大学の課題や部活の練習といった場面で、これまで何度か計画を立てたことがあったが、最後までその計画に沿って行動し、目標を達成した経験は少ない。また、「計画力」は社会人基礎力として、身につけなければならない能力であるとも感じた。今後所属する会社や自治体の中では、プロジェクトに沿って計画に基づいた仕事をする場面も多いと感じる。また、自分の仕事をこなしていくうえでも、目標の達成に向けた計画を設定し、その計画に沿って行動をできるようになることは、重要であると考えた。

プロジェクトを通じて私は、「計画力」をある程度身に着けることができたと考える。この授業では、12月の最終報告会をゴールとして、定期的に報告会があったため、一年を通じてスケジュールを確認し、計画を立てていく習慣がついてように感じる。最初に設定した計画を、状況に応じて変更することも多々あった。この経験によって、チームが置かれている現状を分析し、ゴールに向けた計画を立てる能力を身に着けることができたと考える。しかしながら、計画を立てるにあたって、期間内に「何ができ、何ができないか」という判断をすることが上手にできなかった。仕事に集中して取り組むためにも、期間内に自分がやらなければならない仕事は何か見極める能力を身に着ける必要があると感じた。

三つ目のゴールに「状況把握力」を設定した理由は、自分自身の役割ということに関して、それまで深く考える機会が少なかったように感じたからである。周囲の人々との関係性を考慮し、自分がその集団の中で何を求められているのか理解することは、大きな意味を持つと考えた。射会の一員として働いていく上では、何らかの形で人とかわることとなる。相手との関係性について分析し、自分の置かれている状況を理解することによって、良好な関係性を作り出すことが可能であり、より強固なチームワークにつながると考えた。

プロジェクトを通じて私は、「状況把握能力」を向上させることができたが、同時に課題も感じる結果となった。チーム設立当初は、リーダーとした自分が中心となって発言をすることが多かったように感じる。しかしながら、メンバーそれぞれが自由に意見を出し合える環境が望ましいと考えたため、メンバーに対して積極的にプロジェクトに関する意見を聞くことや、決定した事項への確認をとることを心掛けた。プロジェクトを通じての反省点は、特定に人に仕事が集中してしまったことである。メンバーに対してただ仕事を割り振るだけでなく、仕事の進捗状況や手伝いが必要かどうか積極的に確認すべきだった。

プロジェクト演習で得たこと

茨城大学 2年 伊藤玲美

私は茨城大学の理学部理学科地球環境科学コースに所属している。そんな理系人の私が、実習がメインで忙しく、しかも通年で2単位しかもらえないこの授業を履修して1年間続けたのには、ここでしかできない経験があったからだと思う。

初めは、自分の根力を付けたいと考えて履修した。社会では実行力、思考力、発信力が大切であるが、理学部でこれらの力を鍛えることは難しい。現状を踏まえた目標を設定し、ゴールから逆算して道筋を立てるという工程には、今後何度も出会うと思う。こうした行動力を身につけるために学部をまたいで新しいことに挑戦したことは、自分の大きな自信につながると感じた。実際に1年間の活動を経て、たくさんの外部の方々から協力して頂く際には、自分たち自身のアピールをしなければならず、発信力が養われた。次第に私自身の中で、自分たちのプロジェクトを成功させ、実現させたいという思いが強くなっていった。当初は誘われた先がたまたま公共交通チームで、本気で交通機関の向上をしたいとは考えていなかった。しかし、水戸市役所様や茨城交通様といった方々とミーティングを重ねるうちに、公共交通機関維持の重要性に気づくことができた。また、私たちのチームには大学生として大学生らしくこの地域の交通機関維持に貢献しようという考えがあり、路線バスを用いたモデルコースを作成するというプロジェクトを計画した。始めはスケジュールを組んで広く宣伝すればよい、と安易に考えていたが、活動を進めていくと、ダイヤが上手く合わなかったり、初めての本格的なチラシ作りの依頼に戸惑ったりと、幾つもの壁に向き合った。しかしメンバー5人で助け合いながら、一つ一つを何とか乗り切り、チラシの入稿まで辿り着くことができた。こうしたメンバー同士の絆があったことが、この実現化への気持ちが強くなった理由の一つである。

この授業を通して、話して交渉する力が身についたと思う。この力は理学部で勉強するだけでは得ることはとても難しい。どんなにいい資格をもった技術者でも、社会で生きるにはやはりコミュニケーションが重要である。その力を得るために大学生活のうちに実践的に学ぶことができ、本当に良かったと思う。理学部の学習との両立は本当に大変だったが、乗り越えた先に得られるものは大きく、貴重な1年となった。

このチームでは副リーダーとして活動に取り組んできた。副リーダーというのはリーダー、会計、書記よりも仕事内容が曖昧なところがあったため、プロジェクトが発足して間もない頃は、誰の役職にも当たらない件については全て自分が処理しようとして無理をしてしまったことがよくあった。しかしそれは間違いで、返って非効率な作業になっていた。このことから、役職にとらわれず、全員で均等に分担して活動することが大事だと気づくことができた。それからは、自分だけで背負わず、メンバーを頼りながら、またメンバーを気遣いながら取り組むことができた。

また、モデルコースを作成に着手するまでも大変苦労した。私たちは本来、水戸市役所様から「水戸の公共交通機関の利用促進ができるようなプロジェクトを計画して欲しい」という以来のもとで成立している。それに基づき、茨城交通様の「路線バスの旅」に、学生目線の新たなコースを作成し、若年層をターゲットとした利用者の確保を目指した。「路線バスの旅」とは、既存の路線を利用して、特典付きのチケットでバスを乗り降りするというものである。そこで目を付けたのが、地域間幹線系統の1つである御前山と大洗へ向かう2本の路線だった。いずれも観光スポットを持ち、十分に路線バスの旅に組み込む見込みがあった。しかし一方で、「路線バスの旅」は特典をつけることが条件で、新たな協力者を探す必要があり、新たなミッションが課せられた。最終的に御前山のコースは、停留所付近の道の駅のどら焼き1個を特典としてつけることができるようになったが、大洗のコースは乗り降りが自由にできるチケットを製作し、路線バスとは別枠のコースで販売することになった。このように、難しい条件をいくつもクリアしていくことは大変であったが、最善な手段を考えるという力は確実にここで養われた。

この1年間で、様々な経験を積むことができた。ここでの学びを生かし、これからも成長していきたいと思う。最後に、KoMiKoの活動でお世話になった先生や、協力してくださった関係者の皆様、そしてチームKoMiKoのメンバーに御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。

プロジェクトを通して養った力 ある人の言葉から

茨城大学 2年 匂阪浩聡

友人が「公共交通機関の利用促進のための活動をしよう。」と声をかけてくれた。私は公共交通に関心がある。私は快諾し、「茨城大学人文社会科学部プロジェクト演習」を履修することとなった。

メンバーが集まり、公共交通 KoMiKo チームを結成した。私たちのチームは茨城県の公共交通の利用促進を大きな目標として掲げ、とりわけ茨城交通の路線バスの利用者数を増やすため、活動を始めた。それは、茨城交通は、水戸市とその周辺でバス事業を展開する地元企業である。その中でも、路線バスは地元住民の足となる重要な交通手段である。水戸市では茨城交通の路線バスの本数が大変多く、利用者数も多い。茨城交通の路線バスの利用者数を増やすことが、水戸市、ひいては茨城県の公共交通の利用促進につながると考えたからだ。チームとして活動を始めるにあたり、プロジェクトの提供者である、水戸市役所交通政策課にご挨拶に伺った。そこで課長の須藤文彦様より、「現在、茨城交通で実施されている既存の路線バスを使ってお客様が自由に街を散策できるツアー、『茨城交通の路線バスの旅』を利用し、新しいツアーを作って提案してはどうか」とのご意見を頂いた。明確な課題内容をご提案いただき、チームはこれをプロジェクトとして遂行することとなった。

私たちは、まずツアーに使用する路線として、利用者数が極端に少なく、国からの補助金を得て維持している「地域間幹線系統」を選択した。これは茨城交通からご紹介いただき、水戸市としては利用者数の少ない路線の利用を活性化してほしいとのことだったからである。そして、その沿線にどのような観光スポットがあるか調べ、ツアーに組み込んだら面白そうと思われるものをピックアップしていった。それができたら、バス時刻を調べスポットを 2,3 個選んで組み込み、大まかにタイムスケジュールを組んだ。

次に、暫定的なタイムスケジュールに沿って、現地調査を行った。タイムスケジュール通りにバスに乗れるか、スポットはお客様に満足していただけるものであるかなどを調べ、改善点があれば調整した。

その後、何度か調整を経て茨城交通にコースをご提案した。現在その採否の結果待ちである。

提案後、活動報告会でこれまでの活動内容と成果を報告し、提案したコースを紹介した。今後、コースが採用されれば、ツアー周知のためのチラシを作成し配布する作業を行っていく。

私はこうした活動を通して、他人の意見を受け入れることと、自らの意見をはっきり表明することの大切さを学んだ。プロジェクトを行う過程で、私たちは水戸市役所や茨城交通から様々なご意見やご要望を頂いた。「水戸市の公共交通の利用を促進したい」という水戸市や、「路線バスの利用者を増やしたい」という茨城交通の要望を受けて、私たちはコースを作成し提案するわけであるから、先方はクライアントである。当然彼らの要望を受け期待に応える必要がある。こちらの都合で勝手に要望を突っぱねるわけにはいかない。チームメンバーは皆そのことを念頭に置き活動してきた。

当初は頂いた意見や要望をすべて飲んでコースづくりを行っていた。しかし、時には自分たちのプロジェクト内容とそぐわない条件が出てくることもある。そうしてすべての条件を飲んでいるうち、自分たちのやらんとしていることができず目標を見失い、本筋がずれかけていることがあった。そんな時私たちは、須藤様から「言われたことをみんな受け入れるんじゃなくて、できないと判断したらきっぱり切り捨てることも時には大事だよ。」と教わった。その言葉を受けて、チームでは目標をしっかり持ち、自分たちにできることを取捨選択し、本筋を保ちながらプロジェクトを進めるようにしていった。

様々な意見を鵜呑みにし、すべて受け入れようとしていたら、きっと今のような結果にはならなかっただろうし、できないことが山積みになってプロジェクトが破綻していたと思う。自分たちでプロジェクトを立案し、それを自分たちの力で実行していくわけであるから、それを貫き通すための強い意志が必要である。クライアントの意見によっては妥協しなければならない点も当然出てくるが、本筋から完全にずれてしまえば意味がない。本筋はしっかり認識し、途中クライアントの意見を聞いてしっかり取捨選択する。そしてより良い商品を作り、プロジェクトを成功させる、その大切さを学んだ。

茨城大学人文社会科学部プロジェクト演習では、社会人基礎力を身に付ける一環として、自分で考える力、立場の違いを意識し尊重する力を培ってきた。これらは、今後の大学生活やその後のビジネスでも大いに役立つはずである。この科目を通して、非常に多くの教訓や知識、技能を養うことができた。ここで学んだことを、今後大いに役立てていきたいと思う。

KoMiKoの一員としての10か月の活動を通して、私は自分に主体性がないことと、実行力も欠如していることを思い知った。そこで、このプロジェクトを通じて学んだことは主体性と実行力の重要性であると考えます。

まず述べたいのは、主体性の重要性についてである。主体性とは、「自分の意志、判断によって、自ら責任をもって行動する態度や性質」のことであるが、私にはこれがなかった。プロジェクトが始動したころ、活動の方向性を決めていく中で意見こそ出すが、そこに責任が伴うという自覚はなかった。また、自分が参加を表明した活動にも責任を感じていなかった。7月1日、チームで水戸市役所の須藤様を訪問することになっていた。そこで私は集合時間に遅れてしまい、無断で欠席してしまった。須藤様を訪問するからには、少しでもチームに利する行動をしなければならないが、その責任はおろか欠席の連絡義務まで怠った。それは、誰かが何とかしてくれる、自分の非を認めて謝りたくない、という甘えがあったからだ。その後チームで前期の反省会を行った際、メンバーは咎めこそしたが、厳しい指摘や叱責はなかった。これは呆れられたが故であり、信用を完全に失ったということだった。私は他者から信用を失うことの意味を思い知った。そこで、自分の行動に責任を感じない人間に信用はなく、信用されなければ居場所を失うという当然のことに気づいた。社会人となれば、責任と信用はより重要なものとなることと、それを養うためにこの授業があることを強く意識した。将来の自分のために、そして所属するチームのために、私は主体性を身につけることがとても重要であると気づくことができた。後期となり、プロジェクトも大詰めとなっていく中で、私はチームへの関与と責任のある行動を心掛けた。10月はリーダー、副リーダーともに多忙だったため、一時的にチームを率いることとなった。その期間は先生方や関係者の方々とのメール、ミーティングの開催から活動計画まで、それまでよりも積極的に行動できた。11月となりリーダーが復帰したことで私の役目はひと段落ついたが、その時にメンバーから感謝の言葉を言われた達成感と信用してもらえたことへの感動は忘れられない。主体性をもって行動したことで、自ら存在価値を生み出したのだ。私は改めて主体性の重要性を実感した。

次に述べるのは、実行力の重要性についてである。私は個人の達成目標ループリックの、根力の構成要素の一つとしてこの実行力を挙げていた。そこでは実行力は「目的を設定し確実に行動する力」とされており、生きていくうえで必要な能力であると考えます。これも私には欠如していた。チームで目的を達成するには、メンバーそれぞれが目的を設定し実行していくことが重要であるが、目的が明確でなかったり誤っていたりすると実行も困難になる。チームで1回目の現地調査を行ったとき、お客様の目線で実際に体験することや、バス停からスポットまでの状況を詳細に調査するという目的を設定して行ったのだが、調査がはじまると初のフィールドワークに舞い上がってしまった。現地の写真を撮ることはしたが、詳細な記録やメモを取ることを失念してしまっていた。他のメンバーの記録があったため調査自体は成功であったが、そこに満足に貢献できなかった。目的はただ設定すればいいというものではなく、適切であること、そしてそれを常に意識して実行することが必要であると気づいた。2回の現地調査が終了し、具体的なツアー案を作成する段階になった時、私はどのような目的でツアーを立てたらよいかわからなかった。考慮すべき点が多かったからだ。ツアーで巡るスポット、各スポットでの滞在時間、どの道を通っていくかなどをターゲットに合わせてツアーを作成する必要があったが、それらを明確にできずにいた。そこで、明確な目敵を設定せずにとりあえずツアーを作成してみることにした。案の定ツアーのちぐはぐなものが出来上がったが、学生をターゲットとするならばどこを修正すればよいのか、ということが具体的に見えてきたのだ。このことから私は、目的を設定できないときはとりあえず行動を起こしてみる。その結果浮かび上がってきた修正箇所を修正するなかで、目的も定まってくることに気づいたのだ。確かにこれは実行力の観点から見ると順序があべこべになっているが、チーム全体の目的を達成するための一つの方法として存在しても良いのではないだろうか。

プロジェクト演習は私に様々な気づきを与えてくれた。その中でも特に私が重要であると考えるのが主体性と実行力であり、この1年である程度は身につけられたと感じている。これらの能力と、自分に不足しているものに気づいてそれを身につけていく過程は、今後の私の人生に大いに役立つことだろう。

友人にプロジェクト演習のことを聞き、興味を持った。なぜかというプロジェクト演習が実際に地域の課題解決を行う授業だったからだ。常々大学に入学してから大学内での学習だけでは、成長できない部分があると考えていたからだ。プロジェクト演習の授業が始まり、まず伸ばしたい力を三つ定めた。課題発見能力、ストレスコントロール力、そして実行力の三つを成長させたい力として定めた。

まず、プロジェクト演習を通じて、課題発見能力の成長を感じた。課題発見能力は、現状を分析し、目的や課題を明らかにする力のことである。現状を分析し、目的や課題を明らかにすることで、課題について深く考えられ、アイデアが出しやすくなることを感じた。プロジェクト演習の中では、様々な問題が発生した。初めの頃は、現状分析に精一杯なうえに、時間制限の中で目的や課題を明確にすることができなかった。しかし、後半には、課題発見能力が伸びていると感じた茨城交通株式会社様へツアーの最終提案を行った際に、提案したツアーに特典となるモノがないと採択が厳しいということが知らされた。その時持ち帰って、検討する際に、茨城交通株式会社様がどのようなことを求めている、どの程度までの特典をつけたら満足いただけるかなどの状況を分析し、その時、解決すべき内容をはっきりさせることができた。そのおかげで、茨城交通株式会社様に納得いただけるアイデアをすぐにひらめくことができた。プロジェクト演習をはじめ前の自分にはできないことだったため、自身の成長を感じた。

次に、ストレスコントロール力をなぜ選んだのかという自身と自身がストレスに弱いことと、現代はストレス社会といわれるほどストレスが多い社会だからだ。プロジェクト演習は、通年でしかもチームとして活動するため普通の大学の授業よりもストレスを感じやすいと考えていた。そのため、これを機にストレスコントロール力を高めようと考えた。中間の振り返り時点では、あまりストレスコントロール力を高めることはできてなかった。表には出していなかったが、チーム内での会議の多さに不満を持っていた。中間の振り返りを行った後に、ストレスには、原因を排除できるものとストレスの原因を排除できないもの二つがあることを意識することでストレスコントロール力を高めることができた。ミーティングが多いことや、長いのなら自分が要点をあらかじめまとめて、チーム内に共有するだけでミーティングを短くできる。また、いいツアーを作ることができるか、や茨城交通株式会社様に採用されるかといった不安によるストレスは、すぐには原因を解決することのできないモノなため、不安に感じすぎないように意識した。プロジェクト演習が終わるころには、ストレス耐性は大きく変わっていなかったが、うまくストレスに対処できるようになっていた。これはプロジェクト演習ならではの課題解決に向けた様々な活動があったからこそ身につけられた力だと考える。

最後に、実行力について述べる。実行力を伸ばしたい力に選んだ理由は、自身が行動を起こす前に、考えすぎて行動に移せないことが課題だと感じていたからだ。プロジェクト演習では、事の大小を問わず様々な行動をしなければならない。適切な目標をたて、期限内に実行し物事を終わらせることは、仕事の量が多くないときは可能だった。しかし、茨城交通株式会社様と水戸市市長公室交通政策課様との連携が密になった時期や、テスト期間とプロジェクト演習の活動の忙しい時期が重なった時期などの仕事量が多いときや、時間が無いときには、実行力不足を感じた。仕事量が多いときや、時間が無いときは、現状を分析し、適切な目標をたてることが、仕事をやりきることに繋がった。隙間時間に一人でやれることは早めに終わらせておき、他のチームメンバーのフォローをすることが、期限内に仕事をやりきるには重要だということ学べた。

これら三つの能力以外にも様々な力を鍛えることができた。名刺の渡し方や、交渉の際に気を付けること、資料の作り方やチーム内での情報の共有の仕方、プロジェクト演習を行わなければ得られなかった知識や能力だった。最も三つの能力以外で重要だと思ったのは人間関係構築力だ。茨城交通株式会社様や水戸市市長公室交通政策課様と連携する際に、密にコミュニケーションをとれたことで、新しい連携先を紹介してもらったりすることができた。つながりがあることでチームでは行えなかったことや、知りえなかったことを知れた。それによって作ることでできた御前山トレッキングコースツアーがある。

プロジェクト演習を通じて、多くの学びを得られた。ここから得られた学びをさらに発展させることのできるようにこれからも実地で学ぶ機会をつくっていききたい。

私たち公共交通 KoMiKo チームのメンバーは、約1年間、水戸市の公共交通の利用促進のためにプロジェクトを立ち上げ、活動してきた。その過程で、私たちは社会人として必要な知識、技能などを多く学ぶことができた。その中で、①ビジネスでのメールのやり取り、②提携先とのアポイントメントの取り方、③プレゼンテーションのやり方の3つを下に記す。

- ① 大学生になってからメールを使う機会は多くなるが、普段の大学生活ではメールのやり取りを教わる機会はほとんどない。もちろんこのプロジェクト演習の時間においても、じっくり学ぶ時間は設けられていない。しかし、私たちは、プロジェクトを遂行するにあたって、茨城交通様や水戸市役所様、先生方などと連絡を取る手段としてメールを用いる。この1年間多岐にわたりメールのやり取りをした。その中で、相手の方に失礼のないようにと考えることで、自然とメールのやり取りが上達していった。
- ② 提携先の方とお会いする前に、アポイントメントを取ることは必須である。私たちもその重要性は、当初から認識していた。当初は、こちらから1日だけを指定してその回答を待つ、というようにしていた。しかし、それでは、相手の方の都合がつかない場合、再度提示しなければならず、逆に相手の方に都合の良い日を提示してもらうことになり、相手の方の手を煩わせることになってしまう。そこで、複数選択肢を用意し、その中から相手の都合の良い日を選んでいただくというようにしたほうがよいことを先生から教わった。以来、そのように努めてきた。
- ③ 最後にプレゼンテーションについてである。プレゼンテーションもメール同様、大学生になると行う機会が多くなる。しかし、やはり普段の生活では、見やすいスライドの作り方や発表の仕方を教わる機会はあまりない。プロジェクト演習では、中間報告会や活動報告会などで、たびたびプレゼンテーションを行う機会がある。スライドを作成したのち先生方に送ると、修正点を指示され返される。私たちはそれに沿って修正を行う。これを繰り返すうち、だんだん見やすいスライド、情報が伝わりやすいスライドづくりに努めるようになった。

また、プレゼンテーション前には、チームで集まり、何度も発表練習を重ね、本番でスムーズに説明ができるよう努めた。

上記のように、この授業を通して、先生方や提携先の方々の意見やアドバイスをもとに、様々なスキルを身に付けることができた。メールのやり取りやプレゼン発表など、多岐にわたる活動を繰り返し行ううちに、徐々に社会人としての基礎力を培うことができた。私たちがプロジェクト演習を履修して学んだことは本当に多いと思う。ここで学んだことを、その後の大学生活や卒業後の進路先においても大いに生かしていきたい。

授業としてのプロジェクト演習は、例年1月末前後に学期末レポートを提出して完了する。しかし2019年度のKoMiKoチームは、成果物であるツアープランの供用開始がコロナ禍により2020年度にずれ込んだこともあって、その後も「授業外での活動」が長く続くこととなった。

主な活動は随時FBにアップして来たが、今回、活動報告書をHPにアップするに当たり、「その後のKoMiKo」の活動を追記することとした。

1：チラシの作成

12月13日のプレゼン（本稿4-(5)）を経て、学生たちが作成した2種類のツアープランを茨城交通株式会社様に採用して戴けることとなった。これを受けて、かねてより計画していた広報チラシを作成した（図1-2）。

予算は茨城県公共交通活性化会議より戴いた「令和元年地域公共交通利用促進活動助成金」より拠出した。

茨大生から新提案！路線バスで新しいツアー旅行へ！

フリー切符で自由に散策！

大洗

ふらりバスの旅

茨大生が考案した、大洗をめいっぱい楽しむ路線バスの旅！
毎日運行で気軽に安くバスの旅を満喫できますよぜひご利用ください。

MAP

気楽にお散歩/街ぶらコース

- 茨大前営業所発
- バス...約20分
- 水戸駅発
- バス...約25分
- 常盤前(大洗)到着
- 曲がり松商店街 徒歩...45分
- ume café WAON到着
- ランチ...45分
- ume café WAON発
- 徒歩...5分

じっくり/歴史・芸術巡りコース

- 茨大前営業所発
- バス...約25分
- 水戸駅発
- バス...約35分
- 大洗神社前到着
- 大洗磯前神社 & 大洗美術館 見学...約2時間
- 大洗神社前発
- バス...約5分
- 幕末と明治の博物館前到着

幕末と明治の博物館 見学...約1時間

幕末と明治の博物館前発

バス...約10分

本町南到着

那珂湊おさかな市場 買い物...2時間

本町南発

バス...約45分

水戸駅到着

バス...約25分

茨大前営業所到着

大人一人 1,500yen (税込) こども一人 750yen (税込)

※道路状況により時間通り運行できない場合がございます ※28番 那珂湊駅経由茨大前営業所行きもご利用いただけます。

茨城交通 029・251・2335 HP http://www.ibako.co.jp

茨城県公共交通活性化会議 協 力 茨城県公共交通活性化会議 水戸市交通政策課 運の駅かつら 株 英誠大学人文社会科学部プロジェクト演習 企 業 公共交通チームKoMiKo チラシデザイン 伊藤 里菜

図1：チラシ(1) 大洗ふらりバスの旅

茨大生が考えた!

路線バスの旅 御前山 トレッキングコース

茨大生が考案した、御前山をめいっぱい楽しむ路線バスの旅!
貸切バスより断然おトクで団体のお客様にもオススメ! ぜひご利用ください!

お気軽に/3.7kmコース

水戸駅/北07番乗り場発 (45 御前山車庫行き)	道の駅かつら
バス...約20分	☕ 休憩・買い物
茨大前発	御前山発
バス...約45分	バス...約45分
御前山到着	茨大前到着
大 徒歩...5分	バス...約20分
道の駅かつら	水戸駅到着
大 徒歩...40分	

トレッキング / 1時間50分
御前山東登山口 ▶ 旧御前山城跡 ▶ 鐘つき堂 ▶
西登山口 ▶ 藤倉の滝 ▶ むじなの滝

満足/10.2kmコース

水戸駅/北07番乗り場発 (45 御前山車庫行き)	道の駅かつら
バス...約20分	☕ 休憩・買い物
茨大前発	御前山発
バス...約45分	バス...約45分
御前山到着	茨大前到着
大 徒歩...5分	バス...約20分
道の駅かつら	水戸駅到着
大 徒歩...40分	

トレッキング / 4時間
御前山東登山口 ▶ 旧御前山城跡 ▶ 鐘つき堂 ▶
展望台 ▶ 青少年旅行村

大人一人 **1,200yen** (税込) ひとり一人 **650yen** (税込)

道の駅かつら名物『かつどろ』ゲット!
「水戸駅」または「茨大前営業所」で購入したチケットに、
かつどろの引換券が含まれます。

※2コースともお乗換はありません。※途中「茨大前」を経由します。「茨大前」は「茨大前営業所」ではありません。※道路状況により時間通り運行できない場合がございます。

茨城交通株式会社 水戸オフィス運輸課

☎ 029・251・2335

HP <http://www.ibako.co.jp>

協力 茨城県公共交通活性化会議 様
水戸市交通政策課 様
道の駅かつら 様
企業 茨城大学 人文社会科学部プロジェクト演習
公共交通チームAKoMKo
チラシデザイン 伊藤 里菜

図 2 : チラシ(2) 御前山トレッキングコース

2 : ツアーチケット発売開始と HP 掲載

学生提案によるツアーチケットの発売はコロナ禍により延期されていたが、緊急事態宣言の解除を受けて、6月1日に晴れて発売開始となった。同時に茨城交通株式会社様の HP にもアップして載ることができた (図 3)

御前山トレッキングコース : <http://www.ibako.co.jp/rosenbusnotabi/A00009.html>

大洗ふらりバスの旅 : <http://www.ibako.co.jp/rosenbusnotabi/A00008.html>

これを受けて、本課題のご提案者である水戸市役所様でも、市の公式 HP に紹介記事をアップして下さった (<https://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000280/koutu/p022035.html> 図 4)。



図 3：茨城交通株式会社 HP の記載（部分）



図 4：水戸市 HP の記載（部分）

3：茨城放送出演

本学広報室の仲介により、7月18日にはIBS茨城放送様の「4Me（ふぉーミー）」（<https://www.ibs-radio.com/4me/>）という番組の「青春インタビュー ムービングなう！」コーナーに出演して活動報告をさせて戴きました（図5-6）。



図5：オンエア中



図6：制御室からの眺め

4：茨城新聞掲載

茨城交通株式会社様のご仲介により、7月22日に茨城新聞様の取材を受けました（図7-8）。記事は、「茨城大生発 路線バスの旅 茨城交通、乗車券2種発売」のタイトルで7月29日に掲載されました。



図7：インタビュー



図8：写真撮影

5：「茨城デザインセレクション」にエントリー

茨城県デザインセンター様（<https://idesign-c.jp/index.php?FrontPage>）からお声がけを戴き、同センターが主催する「いばらきデザインセレクション」にエントリーしました。（<http://id-selection.jp/index.php?FrontPage>）

書類による第一次審査を通過し、9月17日に第二次審査の会場であるひたちなかテクノセンター（<http://www.htc.co.jp/>）に資料を搬入、展示しました（図9-10）。

残念ながら受賞には至りませんでした。が、「学生の身でここまでやった」「プロジェクト演習の受講自体は半年以上前に終わっているのに、自分たちの企画がより有効に社会に受け入れられるよう、責任感を持って誠実に対処し続けた」のは、本当に立派です。お疲れ様でした。

8 : こみフェスチーム

リーダー	: 中崎 航汰	茨城大学人文社会科学部法律経済学科	3年
副リーダー	: 大塚 萌	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	3年
書記	: 田岡真美子	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	3年
書記	: 黒澤 卓矢	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	2年
会計	: 小野 嶺奈	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	3年
会計	: 庄司 果織	茨城大学人文社会科学部現代社会学科	3年

主担当教員 : 岩佐 淳一 茨城大学教育学部 教授
副担当教員 : 神田 大吾 茨城大学人文社会科学部准教授

こみフェスチーム

1 : はじめに

庄司果織

私たちこみフェスチームは、水戸市市民生活課様のご提案のもと、結成されたチームである。そもそも、こみっとフェスティバルとは、水戸市内で活動する NPO 法人やボランティア団体が、日ごろの活動の成果発表や展示・交流・物販を通して、ボランティアの魅力を多くの人に知ってもらうためのイベントだ。

そんなこみっとフェスティバルは今回で 8 回目を迎えた。しかし、まだまだ市民に認知されていないことが課題だ。そこで、私たちこみフェスチームは、広報担当としてこの活動に携わることになった。毎月 1 回水戸市役所で行われる実行委員会会議に参加し、本番に向けて話し合いを重ねてきた。その際に「若い人たちにボランティアの魅力を知ってほしい」という思いが、実行委員の皆様から伝わってきた。そのため、私たち学生の意見をたくさん取り入れて頂き、実際に採用された企画もあった。また、広報担当として、Twitter や Instagram など若者向けの SNS を通して情報発信を行った。さらにラジオ出演を通して、幅広い世代に宣伝することもできた。そして、今回の目玉は、水戸市制 130 周年を記念した動画とモザイクアート制作である。水戸市内に飛び出し、インタビュー。さらに 130 枚の笑顔の写真を集めた。

こみフェスチームのメンバーは、初めからボランティアに興味があった人もいれば、そうでない人もいる。様々な人が集まって結成されたチームだ。ボランティアの魅力を相手に伝えるためには、まず、自分たちが知らなければならない。そのような思いのもと、実行委員会で知り合ったボランティア団体の方々の協力を得て、さまざまなボランティア活動に参加させて頂いた。

恥ずかしながら、水戸市に住んでいながら市内で活動されている NPO 法人・ボランティア団体の存在を知らなかった。実際にボランティアを体験することにより、どのような想いでされているのかを知ることができた。ボランティアは、決して、ハードルの高いものではない。笑顔を届けてくれる素敵な存在だ。そのことをどのようにしたら伝えられるか。こみっとフェスティバルに来てもらうためにはどうすればよいか、試行錯誤しながら、1 年間努力してきた。このプロジェクトは、他のプロジェクトよりも長い。その分、人と人とのつながりも濃密なものとなっている。

2：活動概要

大塚萌

私たち「こみフェスチーム」は茨城大学における PBL 型授業の一環として、水戸市市民生活課様と連携して活動を行った。水戸市内の NPO 法人・ボランティア団体といった市民活動団体の存在を、より多くの人へ知ってもらうためのイベント『こみっとフェスティバル 2020』にて広報を主な活動とし、その中で私たち自身も水戸市内の市民活動についての理解を深めること、を目標とした。今年は特に、出展団体間の横のつながりを強化するという意見も取り入れて1年活動した。

この最大の目標である『こみっとフェスティバル 2020』の開催に向け、当イベントの実行委員会ミーティングに出席する中で、「いいね！でつながるパネル展」でのガチャガチャ抽選会の企画が通るなど、実際に企画・運営に携わった。また、実行委員会への参加だけでなく、実際に水戸市内で活動されている市民活動団体のもとでボランティア活動をさせていただいたり、水戸まちなかフェスティバルにて、参加団体の募集を行うなど、私たち自身がボランティア、そして市民活動への考えを深めることができた。

次に、広報について今回『こみっとフェスティバル 2020』では若者に来てもらいたい、興味を持ってもらいたい、という目的があった。そこで若者が馴染み深い Twitter と Instagram という 2 つの SNS を用いて、日頃よりこみフェスチームの活動を発信していった。また、茨城大学の学園祭である「茨苑祭」では、こみっとフェスティバルの宣伝を目的とし、タピオカジュースを販売することで周知を図った。同時にボランティアに関するアンケートも実施し、様々な世代のボランティアに対する考えも知ることができた。当日までラジオ出演など、多くの機会を通してこみっとフェスティバルを宣伝することができたと感じる。

さらに水戸市市民生活課様から「今年は水戸市制 130 周年ということで、記念に残るものを作って欲しい」という依頼を頂き、『130』にちなんだ動画や、水戸市民 130 人の笑顔の写真を集めて、『130』という文字を作るスマイルピクチャーズを作成した。

そして『こみっとフェスティバル 2020』開催日には、ステージ発表の総合司会やこみチーム公式 SNS にて、当日の様子をライブ配信した。幸い天候にも恵まれ、大きなトラブルもなかった。実行委員の方を始めとした、たくさんの方々のご協力のもと、無事にイベントを終えることができた。

3 : 議事録・活動記録

黒澤卓也

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 4月26日 14:00 - 15:00	茨城大学共通教育棟 共同学習エリア	自己紹介、役割分担、チーム名決定	中崎、大塚、黒澤、庄司	1:00
2	2019年 5月10日 14:20 - 15:50	茨城大学図書館 2階 S2教室	KJ法実習	中崎、大塚、小野、黒澤	1:30
3	2019年 5月17日 14:00 - 16:30	茨城大学図書館 共同学習エリア	構想報告会打ち合わせ SNSアカウント設立	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、 田岡	2:30
4	2019年 6月7日 15:00 - 16:00	水戸市役所 こみっとルーム	実行委員会、初顔合わせ/まちフェスの 出店/名刺について	中崎、大塚	1:00
5	2019年 6月14日 14:00 - 15:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	まちフェスの出店/ボランティア参加/名 刺/茨苑祭について	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、 田岡	1:00
6	2019年 6月19日 14:00 - 15:00	水戸市役所 こみっとルーム	実行委員会、初顔合わせ/昨年の実績 報告/今後の方針について	大塚、小野、庄司	1:00
7	2019年 6月28日 14:30 - 16:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	こみっとフェスティバルのテーマ検討 参加ボランティアの内容決め	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、 田岡	1:30
8	2019年 7月9日 13:30 - 14:10	茨城大学人文社会科学 学部棟15番教室	中間報告会パワーポイント作成	中崎、小野、黒澤	0:40
9	2019年 7月12日 15:00 - 15:20	茨城大学図書館 二階パソコン室	中間報告会パワーポイント作成	田岡	0:20
10	2019年 7月17日 16:00 - 17:30	茨城大学図書館 共同学習エリア	中間報告会発表練習	大塚、田岡	1:30
11	2019年 7月17日 14:00 - 15:00	水戸市役所 こみっとルーム	テーマ検討/会場の使い方 広報以外の活動	大塚	1:00
12	2019年 8月18日 9:50 - 17:00	茨城県総合福祉会館	イベント「ジョイントコンサート」の手伝い	大塚、黒澤、田岡	7:10
13	2019年 8月21日 10:00 - 11:50	赤塚駅ミオスビル2階	イベント「ハーバリウム製作体験」の手伝い	中崎、黒澤	1:50
14	2019年 8月21日 13:30 - 14:50	水戸市役所 こみっとルーム	メインテーマ・開催場所の決定	中崎、黒澤	1:20
15	2019年 9月10日 8:30 - 17:30	水戸市役所 市民生活課	消費生活センター手伝い 市政130周年記念イベントの検討	黒澤、庄司、田岡	9:00
16	2019年 9月11日 8:30 - 17:30	水戸市役所 市民生活課	事務作業 実行委員長との打ち合わせ	黒澤、庄司、田岡	9:00
17	2019年 9月16日 9:00 - 16:00	水戸市中心市街地	こみっとフェスティバルの周知 水道管理局手伝い	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、 田岡	7:00
18	2019年 9月17日 8:30 - 17:30	水戸市役所 市民生活課	花の絵コンクール準備 消費生活センター見学	中崎、大塚、小野	9:00
19	2019年 9月18日 8:30 - 17:30	水戸市役所 市民生活課	実行委員会準備 フェイスブック更新	中崎、大塚、小野	9:00
20	2019年 9月18日 13:00 - 15:00	水戸市役所 こみっとルーム	市政130周年記念イベント報告 広報活動について話し合い	中崎、大塚、小野、黒澤	2:00
21	2019年 10月9日 13:00 - 15:00	茨城大学共通教育棟 共同学習エリア	市政130周年記念イベントについて 市役所の方と相談	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、 田岡	2:00
22	2019年 10月15日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館 共同学習エリア	市政130周年記念イベント検討	大塚、庄司	1:30
23	2019年 10月16日 13:30 - 15:05	水戸市役所 こみっとルーム	市政130周年記念イベント追加報告 広報のための機器受け取り	中崎、黒澤、田岡	1:35

24	2019年 10月18日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨苑祭についての話し合い	大塚、小野、庄司、田岡	1:10
25	2019年 10月24日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨苑祭についての話し合い	大塚、小野、庄司、田岡	1:10
26	2019年 10月24日 12:40 - 14:00	人文社会科学部棟 共同学習エリア	茨苑祭・ラジオ収録についての話し合い	大塚、田岡	1:20
27	2019年 10月25日 9:00 - 10:10	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨苑祭についての話し合い	中崎、大塚、小野、庄司、田岡	1:10
28	2019年 10月25日 12:40 - 14:10	茨城大学図書館 2階グループ学習室	茨苑祭・ラジオ収録についての話し合い	大塚、田岡	1:30
29	2019年 11月12日 16:00 - 17:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨苑祭の準備	大塚、小野、庄司	1:00
30	2019年 11月15日 12:00 - 14:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	茨苑祭の準備	中崎、大塚、小野、庄司、田岡	2:00
31	2019年 11月16日 8:00 - 17:30	茨城大学	茨苑祭出店	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	9:30
32	2019年 11月17日 8:00 - 17:30	茨城大学	茨苑祭出店	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	9:30
33	2019年 11月20日 13:30 - 15:00	水戸市役所 こみっとルーム	市政130周年記念イベントの詳細決め	中崎、大塚、小野、庄司、田岡	1:30
34	2019年 11月27日 13:00 - 13:30	茨城大学図書館前	市政130周年記念イベント動画撮影	中崎、大塚、田岡	0:30
35	2019年 11月29日 13:30 - 15:00	人文社会科学部棟 共同学習エリア	活動報告会のPPT・ ポスターセッション用のポスター作成	大塚、田岡	1:30
36	2019年 12月6日 17:30 - 18:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	活動報告会リハーサルの準備	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	0:30
37	2019年 12月7日 18:00 - 0:00	ゲスト茨大前店	活動報告会PPTの修正	中崎、大塚、小野、庄司、田岡	6:00
38	2019年 12月16日 10:00 - 17:00	水戸市内	市政130周年記念イベント用 PR動画撮影	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	7:00
39	2019年 12月18日 10:00 - 12:00	水戸市内	市政130周年記念イベント用 PR動画撮影	中崎、大塚	2:00
40	2019年 12月18日 13:30 - 15:00	水戸市役所 こみっとルーム	実行委員会への参加	中崎、大塚	1:30
41	2019年 12月20日 17:00 - 18:00	茨城大学図書館 共同学習エリア	活動報告会の練習	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	1:00
42	2020年 1月15日 14:00 - 16:30	水戸市役所 こみっとルーム	実行委員会への参加 ボランティア団体交流会への参加	中崎、大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	2:30
43	2020年 1月22日 9:00 - 10:00	茨城大学図書館 2階グループ学習室	ラジオ収録	大塚、小野、黒澤、庄司、田岡	1:00
44	2020年 1月25日 11:00 - 12:15	茨城放送	生放送の番組への出演	大塚、田岡	1:15
45	2020年 2月7日 11:00 - 11:30	FMばるるん	生放送の番組への出演	小野・田岡	0:30
46	2020年 2月11日 14:00 - 16:00	大塚宅	130人の笑顔のパネル作成	大塚・小野・庄司・田岡	2:00
47	2020年 2月15日 9:00 - 17:00	イオンモール水戸 内原店	こみっとフェスティバル当日の運営	中崎・大塚・小野・黒澤・田岡	8:00

4：活動トピック

小野嶺奈・田岡真美子

(1). 実行委員会への参加（5月から3月）

日時：毎月第3水曜日

場所：水戸市役所

内容：毎月1回行われるこみっとフェスティバル実行委員会へ参加し、当日の運営や募集团体について話し合った。

(2). ボランティアへの参加（夏季休暇期間）

①みんなで手をつなごう♪ジョイントコンサート

日時：2019年8月18日（日）

場所：茨城県総合福祉会館

内容：水戸市のボランティア「子育て支援 BE-LIEF」が初めて主催したコンサートの裏方スタッフ。受付、ドアパーソンを担当。

②ペンギンくらぶ

日時：2019年8月21日（水）

場所：ミオス（赤塚駅）

内容：親子向けのイベント・ハーバリウム作り講習会のサポート

(3). インターンシップ（9月）

日時：2019年9月10日（火）、11日（水） / 9月17日（火）18日（水）（2チーム各2日間）

場所：水戸市役所市民生活課

内容：9月のこみっとフェスティバル実行委員会の準備
水戸市市制施行130周年記念事業の提案
同上の記念動画「あなたの感謝したい人は？」

(4). アンケートの作成、配布

日時：2019年9月10日（火）、11日（水）、17日（火）、18日（水）のインターンシップ内

場所：水戸市役所市民生活課

内容：水戸市民のボランティアへの意識、ボランティアイベントの認知などの実態を知るために既存のアンケート項目を改良。茨苑祭（茨城大学の学園祭）で配布したところ、130枚回収することができた。

(5). 水戸まちなかフェスティバル（9月）

日時：2019年9月16日（月）10：00～16：00

場所：水戸市中心市街地 国道50号水戸大工町交差点から水戸中央郵便局前交差点

内容：こみっとフェスティバルのチラシを配布し、出店団体へ出店依頼、お客さんへの告知



図1：水戸まちなかフェスティバルでのピラ配りの様子

(6).メディア活動

①FM ぱるるん「ほっと！HOT！スクウェア」

収録：2019年10月25日（水）12：45～13：30
収録内容：茨苑祭、こみっとフェスティバルの宣伝
放送：2019年11月2日（土）15：00～の番組内
場所：茨城大学図書館グループ学習室

②茨城放送「4Me 青春インタビュー ムービングなう」

生放送：2020年1月25日（土）12：00～12：15
収録内容：こみっとフェスティバルについての宣伝、自分たちの活動について等
場所：茨城放送

③FM ぱるるん「ほっと！HOT！スクウェア」

収録：2020年1月22日（水）9：00～10：00
収録内容：茨苑祭の宣伝
放送：2020年2月1日（土）15：00～の番組内
場所：茨城大学図書館グループ学習室

④FM ぱるるん週刊ミトノート

生放送：2019年2月7日（金）11：15～11：30
収録内容：こみっとフェスティバルの宣伝



図2：ラジオ収録

(7).SNS活動

①Twitter

アカウント：@CommitoW
内容：こみっとフェスティバルの宣伝、ボランティア活動に関するツイート、質問箱等

②Instagram

アカウント：@commito_wa
内容：こみっとフェスティバルの宣伝、チーム活動での写真の投稿

(8).茨苑祭（茨城大学の学園祭）

日時：2018年11月16日（土）9：00～17：30 / 11月17日（日）9：00～17：00
場所：茨城大学
活動内容：タピオカの販売
（カップにこみっとフェスティバル開催日とこみフェスチームのInstagramアカウントQRコードを掲載したシールを貼って宣伝）
インターンシップで作成したアンケートの配布（アンケート回答者にはタピオカ100円引き）

(9).こみっとフェスティバル2020

日時：2019年2月15日（土）10：00～16：00
場所：イオンモール水戸内原 こみフェスチームのピーク行事

①イベント内容：

水戸市内で活動するNPOやボランティア団体が日頃の活動や成果を発表するイベント。
ボランティア活動を多くの人に知ってもらうとともに、活動団体どうしのつながり作りのための場でもある。

(i)一階メインコート：各団体の出展、パネル展示（「いいね！」でつながるパネル展）

(ii)二階ホールステージ：各団体の演奏、ダンス等の発表

二階ホール体験・物販コーナー：体験ができるコーナーや、手作り品の販売

(iii)二階ホール相談・交流コーナー：市民活動についての相談や教育

(iv)二階ホール水戸市制施行130周年記念事業展示：

「スマイルピクチャーズ」…130枚の笑顔の写真を「130」の形に並べた。また当日来場者にメッセージを記入してもらい、数字の周りに貼って飾った。

「みとちゃんが行く！ありがとうを集めようの旅！」…水戸市内各所に回り、市民にインタビューを行い撮影した。その映像をまとめ、こみっとフェスティバルの宣伝にも用いた。

②活動内容

(i) SNS を使った情報の生配信

こみっとフェスティバルに参加している人にインタビューを行ったり、ステージの様子を撮影したりして、チームの SNS アカウントを用いて、生で情報を発信した。

(ii) 二階ステージの司会進行

二階ホールステージコーナーの司会進行を行った。



図3：参加者へのインタビュー



図4：スマイルピクチャーズ



図5：準備の様子



図6：こみフェスチームメンバーの集合写真

5 : おわりに

中崎航汰

「ボランティア団体間の横のつながりを強化したい」、そう言われた時は少し混乱した。今まで行ってきたこみっとフェスティバルは、一般の方々(特に若者)にボランティアについて知ってもらい、さらにそこから参加してもらおうということが、主な目的であったからだ。しかし、今回のこみフェスでは2つの目的を達成させたい。では、前年度からどうこみフェスへのアプローチ方法を変えていくのか、また変化に対応していくのかということが大きな課題となった。

そこで、横のつながりの強化という面では、本文でも挙げた通りステージ発表を二階のイオンホールで行った。出展団体のブースとステージを同じエリアにしたことから、イベント自体の統一感というものが増加したのではないだろうか。私たちも実際にステージ発表の総合司会として当日担当したが、発表の合間にブースに伺ってインタビューを行ったことなどは、ブースを出している団体の方々が他の団体の活動を知る良い機会になったのではないかと思う。また、こみフェス終了後にはイベント前までは交流がなかった団体同士が仲良く話している様子なども見られたため、横のつながりの強化という目的を大いに達成出来たのではないかと感じた。

元々の目的であるこみフェスの周知については、昨年行った SNS やラジオによるこみフェスチームの活動発信に加えて、茨苑祭でのタピオカドリンク販売による宣伝や、市制 130 周年記念の動画の配信なども行った。そのため、前年度よりも広報活動を増やすことができ、さらに多くの人がこみフェスを周知することに繋がったのではないかと思う。実際に、当日茨苑祭でタピオカドリンクを飲んだと言ってくれた人がいたことは、私たちが行った活動に意味があったんとリアルに感じる瞬間であり、とても嬉しかった。

しかしながら、ステージ発表を見に来てくれた方々は昨年と比べて減ったように感じた。これは、ステージ発表の場が一階のメインコートから二階のイオンホールに変わったことが原因だと考えられる。このことから、今後の課題としてボランティア団体間の横のつながりを強化することと、こみフェスの来客数の増加をどのように両立するかを考えていくことが必要ではないかと思う。

最後になりますが、支えてくださった水戸市役所市民生活課の皆様、またこみっとフェスティバル実行委員の皆様、そしてその他私たちの活動を支援してくださった皆様に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

9:IBADAI×ICT ラボチーム

リーダー	: 小笠原彩葉	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	3年
副リーダー	: 栗原 千怜	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
書記	: 生田 梨帆	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	3年
書記	: 小瀧 千尋	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年
会計	: 並木 舞香	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	3年
渉外	: 岸 朱里	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	3年
渉外	: 関澤 南	茨城大学人文社会科学部人間文化学科	2年

主担当教員 : 神田 大吾 茨城大学人文社会科学部准教授
副担当教員 : 岩佐 淳一 茨城大学教育学部 教授

IBADAI × ICT ラボチーム

1 : はじめに

岸 朱里

私たち IBADAI × ICT ラボチームは、NTT コミュニケーションズ株式会社の吉川様からいただいた2つのプロジェクト課題のもとに集まった7名で結成されたチームである。いただいた課題というのは、『インターネット検定の公式テキストである「.com Master BASIC」のカリキュラム改訂』と『インターネット検定の公式サイトの改訂案』の2つである。インターネット検定ドットコムマスターというのは、課題をいただいているNTT コミュニケーションズ株式会社が実施するICTスキル認定資格制度であり、インターネットの基礎知識からビジネスの最前線で活かせる実践的なICT知識を身に付けることができる検定である。(インターネット検定公式 web ページより) この検定はインターネットの基礎知識を学ぶことができる初級レベルの「.com Master BASIC」と、実践的なICT知識を身につけることができる「.com Master ADVANCE」の2種類ある。今回私たちがプロジェクト活動で改訂に携わったテキストは、「.com Master BASIC」の公式テキストである。

私たちはチームの目的を3つ立てて活動に取り組んだ。①自分の役職を全うすることに加え、お互いのフォローを心がけること、②課題達成に向けての過程を大切にすること、③曖昧な課題にも自分なりの糸口を見つけ最後まで取り組むことの3つである。特に②と③については課題に取り組むうえで重要な部分であった。②は公式テキストの改訂についてアンケートを2回実施したというところに現れており、③については公式サイト改訂にあたり「よりわかりやすいものにする」という曖昧な課題に一人ひとりが自分なりの糸口を見つけ最後まで取り組んできた。またこのように活動ができたのも、①のお互いのフォローを心がけるということがあったからである。

私たちのチームには、自分たちが改訂に携わったものが不特定多数の人の目に触れ、販売されるという特異な点がある。このような貴重な経験ができ、最後まで活動に取り組むことができたのは、先に述べたチームの3つの目的のもとに活動に取り組んできたことと、先生方、吉川様のお力添えがあったからだと感じている。これより先には、いただいた2つの課題に私たちがどのように取り組んできたか、活動の記録が記されている。活動報告書を通し、私たちの活動の軌跡をたどっていただければ幸いである。

2 : 活動概要

栗原 千怜

(1) 活動の目的・目標

このプロジェクトの目的は、NTT コミュニケーションズが実施しているインターネット検定「.com Master BASIC」のカリキュラム改訂とインターネット検定公式サイト改訂案を提案することである。そこで、本学学生を対象に、大学生のうちに身につけておきたいインターネットの知識を調査し、調査データから明らかになった結果を、改訂案に反映すること、また、公式サイトをより分かりやすくすることの2つをチームの目的として掲げる。

本活動においては、作成した改訂案がカリキュラム及び公式サイトに反映されることを目標とした。

(2) 主な活動

主な活動概要としては、5月にNTT コミュニケーションズの吉川様と顔合わせを行い、今後の活動の流れ等について話し合いをした。7月には、本学学生を対象にアンケートを実施し、大学生のうちに身につけておきたいインターネットの知識について調査を行った。8月は、アンケート結果をもとに分析を行い、カリキュラムの改訂案を作成した。また、公式サイトについても、他の検定サイトとの比較とともに改善提案を作成した。夏季休暇中には、2日間のインターンシップ・プログラムに参加し、作成した公式サイト改訂案について、吉川様とNTT レゾナント様との意見交換を行った。社会人の方々の仕事ぶりを間近に拝見することができ、多くの学びを得た経験となった。9月には、検定カリキュラムの最終改訂案の作成作業を行った。

活動目標については、公式サイトにおいて、BASIC と ADVANCE の色分けをする、サンプル問題や合格者の声を掲載するといった提案が採用されたため、達成したと考える。インターネット上で、我々の提案が反映された新しいホームページを実際に見ることが可能であるため、とてもやりがいのある活動となった。

3 : 議事録・活動記録

小瀧 千尋

No.	日時 (10分単位)	場所	活動内容	参加者	実働時間
1	2019年 5月7日 11:50 - 12:30	茨城大学図書館 共同学習エリア	自己紹介、役割決定	生田、小笠原、並木、栗原、小瀧、関澤	0:40
2	2019年 5月13日 12:00 - 13:00	茨城大学図書館 グループ学習室	神田先生と、今後の日程と活動内容についての打ち合わせ	生田、小笠原、並木、小瀧	1:00
3	2019年 5月14日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 グループ学習室	構想立案(KJ法を用いて)	生田、小笠原、並木、栗原、小瀧、関澤	0:30
4	2019年 5月20日 8:40 - 10:10	茨城大学図書館 グループ学習室	課題ご提案者の吉川様との顔合わせ、今後の作業の進め方に関する打合せ	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧、関澤	1:30
5	2019年 5月21日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 グループ学習室	打ち合わせを踏まえて、構想案練り直し	生田、小笠原、並木、栗原、小瀧、関澤	0:30
6	2019年 5月28日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 グループ学習室	インターネット検定HP改善点について意見出し	生田、小笠原、並木、栗原、小瀧、関澤	0:30
7	2019年 6月7日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 グループ学習室	改訂すべき点の意見出し	生田、小笠原、並木、岸、小瀧、関澤	0:30
8	2019年 6月14日 12:00 - 13:00	茨城大学図書館 グループ学習室	アンケート項目の意見出し	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧	1:00
9	2019年 6月21日 12:00 - 13:00	茨城大学図書館 グループ学習室	アンケート実施に向けた事前調査について	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧、関澤	1:00
10	2019年 6月28日 12:00 - 12:30	茨城大学図書館 グループ学習室	事前調査の結果、吉川さんとのミーティングに向けた話し合い	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧、関澤	0:30
11	2019年 7月3日 15:50 - 17:40	茨城大学図書館 グループ学習室	吉川さんとのミーティング(進捗状況、今後の活動のご相談、インターンシップ)	小笠原、並木、岸、栗原、小瀧、関澤	1:50
12	2019年 7月5日 12:00 - 14:00	茨城大学図書館 グループ学習室	アンケート項目案の共有、決定	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧、関澤	2:00
13	2019年 7月12日 12:00 - 14:30	茨城大学図書館 グループ学習室	選択枝案の検討、仮説の立て直し	生田、小笠原、並木、栗原、小瀧、関澤	2:30
14	2019年 7月14日 9:30 - 12:30	茨城大学茨苑会館 1階談話室	アンケートの完成作業	小笠原、並木、小瀧	3:00
15	2019年 7月18日 10:30 - 11:30	茨城大学生協 1階食堂	吉川さんから頂いた意見をもとにアンケート項目の訂正作業	生田、小笠原、栗原、小瀧、関澤	1:00
16	2019年 8月2日 12:00 - 15:00	茨城大学図書館 グループ学習室	吉川さんとのミーティングに向けた話し合い	生田、小笠原、並木、岸、栗原、小瀧	3:00
17	2019年 8月6日 13:00 - 14:00	茨城大学図書館 グループ学習室	吉川さんとのミーティング(HP改訂について)	生田、小笠原、小瀧、関澤	1:00
18	2019年 8月8日 10:30 - 12:00	茨城大学図書館 グループ学習室	HP改訂(メリット・伝え方)の練り直し	生田、小笠原、並木、小瀧、関澤	1:30
19	2019年 9月2日 13:00 - 15:30	茨城大学図書館 グループ学習室	インターンシップの感想まとめ	生田、小笠原、並木、岸	2:30
20	2019年 9月6日 13:00 - 15:00	茨城大学図書館 グループ学習室	NTTレゾナント様のWEBサイト改訂提案に対する意見	生田、岸、栗原、小瀧	2:00
21	2019年 9月27日 10:30 - 12:00	茨城大学図書館 グループ学習室	追加項目案検討	小笠原、並木、岸、関澤	1:30

22	2019年 12月2日 12:40 - 14:10	茨城大学生協 1階食堂	活動報告会準備	小笠原、並木	1:30
23	2019年 12月7日 12:40 - 17:30	茨城大学人文講義棟 10番教室	活動報告会リハーサル	小笠原、並木、岸、小瀧	4:50
24	2019年 12月11日 12:40 - 14:10	茨城大学人文棟 A208	ポスターセッションのパネル貼り	生田、小笠原	1:30
25	2019年 12月13日 10:20 - 11:50	茨城大学図書館 共同学習エリア	活動報告会準備	小笠原、並木	1:30
26	2019年 12月16日 12:40 - 14:10	茨城大学生協 1階食堂	活動報告会準備	小笠原、並木	1:30
27	2019年 12月21日 10:00 - 16:20	茨城大学人文講義棟 10番教室	活動報告会準備、本番、ポスターセッ ション	生田、小笠原、並木、岸、栗 原、小瀧、関澤	6:20

4：活動トピック

関澤 南

【インターンシップ】

2019年8月22、23日2日間にわたり、NTTコミュニケーションズ株式会社様のオフィスのある田町グランパークタワー、汐留ビル、大手町プレイスでインターンシップを行った。(図1・2)

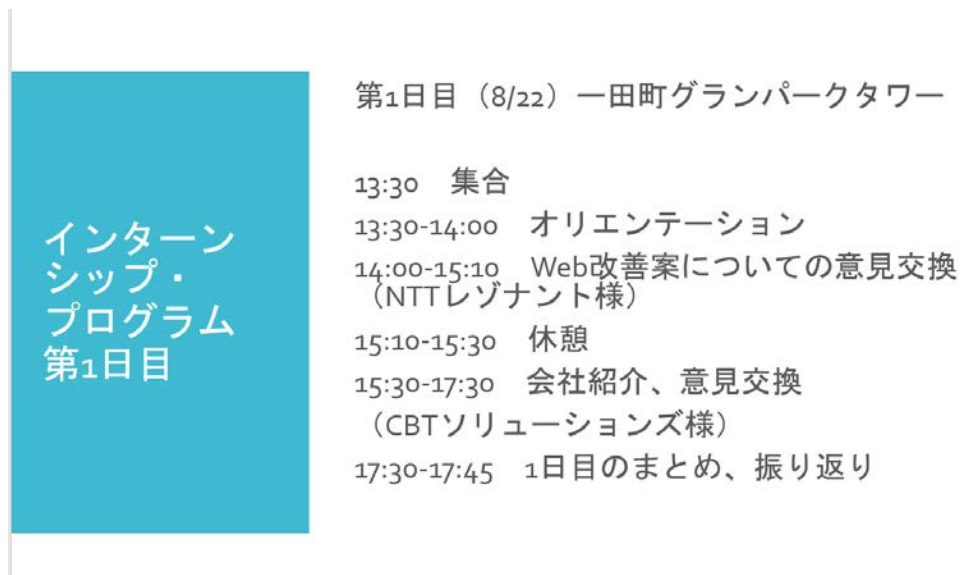


図1・インターンシップ1日目

1日目は、吉川様、NTTレゾナント株式会社様と公式サイト改訂案についての意見交換を行った(図3)。また、CBTソリューションズ様より、会社や業界についてのお話をして頂いた。



図2・インターンシップ2日目

2日目は、グループワークを行った(図4)。課題について考える時間をいただき、ホワイトボードや付箋などを使いながら、公式テキスト改訂、公式サイト改訂をどのように行っていくか、今後

の方針、また、それぞれの立ち位置についてチームメンバーで話し合いをした。話し合うことでチームの目的が明確になり、論理的な物事の進め方、考え方を学ぶことができ、今後の活動に役立てることができた。最後は、「将来の自分」について考え、チームのメンバーがそれぞれ発表し合った。

2日間のインターンシップを通して、今まで知らなかったことを学ぶことができ、また、吉川様とチームメンバーで今後の活動をどうしていくかなどを、アドバイスをいただきながら、話し合うことができ、貴重な時間を過ごすことができた。

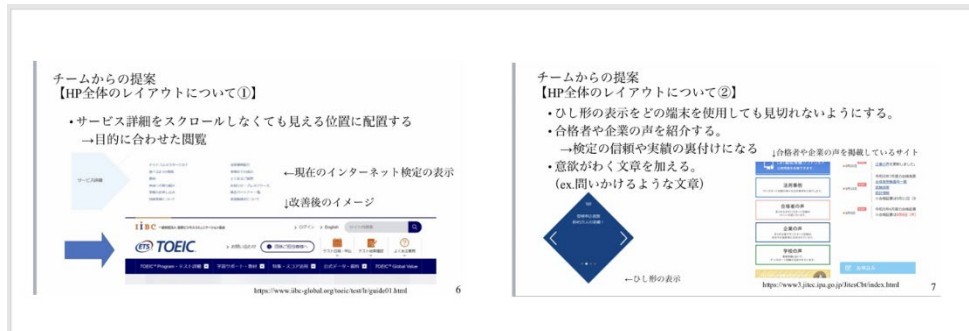


図3・NTT レゾナント株式会社様へ行った公式サイト改訂提案 資料



ビル内共創スペースを使用してグループワークを行いました

汐留ビル



図4・グループワークの様子と汐留ビル

5 : おわりに

生田 梨帆

IBADAI×ICT ラボチームには「インターネット検定のカリキュラム改訂案を提案する」という大きくて、抽象的な課題が課された。つまり、明確なゴールがなく、自分たちでゴールを設定しなければならないということである。自分たちなりに問題の解決の糸口を見つけるという力がこのプロジェクトを通して一番得られた力なのではないかと思う。

私たちは、どうしたらクライアント様が納得のいく改訂案を提案できるのか、データ分析のプロに対して私たちは何が提案できるのかをみんなで話し合ってきた。時にどこに向かえばいいのかわからなくなり、何が正解なのか悩み、行き詰ってしまうことも多々あった。

しかし、チームなりの解決の糸口として大学生目線で何か提案できないかということを考えてみた。

まず、どうしたらもっと大学生に検定を受験してもらえるのかというところからスタートした。検定のテキストを読んでみて、若い世代の人々の学んでおきたかった知識が記載されているのか疑問に感じた。そこで、情報教育をうけているものの、当時よりインターネットに触れる機会が増えた今、身に着けておきたかった知識や実際に合ったトラブルを大学内で調査することにした。そしてアンケートをもとに現行テキストに記載がないもの、または内容が薄いものを目次案に取り入れて提案することをチームのゴールとしたのである。

調査を行った結果、あまり大きな成果を出すことができなかったが、若い世代の人たちが足りないと思っている知識やトラブルの実情を反映した目次案を作成することができた。そして、私たちの提案は今度新しくなるテキストに取り入れていただけることになり、大きな達成感を得ることができた。

課題に対して、ゴールを設定し目標をもって、筋道をたてながら解決に取り組む力をこのプロジェクトを通して身に着けることができたと考える。

しかし、プロジェクトの中で課題も残った。それは、クライアント様と十分にコミュニケーションをとることができなかったことである。吉川様とインターネットで会議をするツールがあったにも関わらずうまく活用できなかった。もっと意見をすり合わせてプロジェクトを進めていくべきであった。分からないことや行き詰ったときに相談することが大切であるということ強く学んだ。

クライアント様である NTT コミュニケーションズ株式会社の吉川昌吾様をはじめ、インターンシップにてお世話になった NTT レゾナント株式会社、CBT ソリューションズの皆様に厚く感謝申し上げたい。そして、このプロジェクトで得たたくさんの学びを、私たちの今後にかきつけていきたい。

Ⅱ：年度末活動報告会

- 1：趣旨と経緯
- 2：プロジェクト演習を取り巻く環境の変化
- 3：2019年度活動報告会のテーマ設定
- 4：2019年度活動報告会の構成
- 5：ポスターセッション
- 6：活動報告会

Ⅱ：年度末活動報告会

鈴木 敦

1:趣旨と経緯

プロジェクト実習／プロジェクト演習では、2012年度の初開講以来、年度末に本学水戸キャンパスにおいて学外の方にもご参加戴く形で活動報告会を開催している。意図する所は、以下の4点である。

- ①履修生のリフレクションとプレゼンテーション実習
- ②教員による授業運営と授業改善の報告
- ③お世話になった方々への御礼
- ④学内と学外への情報発信（広報）

例年、会の前半は「履修学生がどんな活動を行い、そこから何を学んだか」の発表と質疑応答、後半は年ごとにテーマを設定してトークセッションや交流会等を行い、年度ごとの特色を出すことに努めてきた。2019年度も、この趣旨と大枠に沿った開催とした。

2:プロジェクト演習を取り巻く環境の変化

プロジェクト演習の前身であるプロジェクト実習は、本学が2010年度に文部科学省の就業力育成支援GP (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/shugyou/1292891.htm) に採択されて構築した「根力育成プログラム」の中核授業として設計された。

文部科学省の用語である「就業力」あるいは「学士力」と経済産業省の用語である「社会人基礎力」は、それぞれ微妙な差異を有しつつも「社会で活躍して行けるために必要なジェネリックスキル」として括ることができる概念であろう。本学の根力育成プログラムにおける「根力」とは、「茨城大学版学士力」として提唱されたものであり、「茨城大学版社会人基礎力」というべきものである。かくしてプロジェクト実習は、「学科、学部、さらには大学を越えて集まった多様な学生が、それぞれの背景を活かしつつ1年間を通じて一つのプロジェクトに取り組むことを通じて、社会人基礎力を養成する」ことを目的としていた。

人文社会科学部では、2017年度の学部改組と同時に「メジャー・サブメジャー制」を柱とする大規模なカリキュラム改革が実施された。サブメジャーの一つである「人文社会科学部地域志向教育プログラム」は、地域志向教育を掲げる複数のPBL授業を新たに立ち上げる形で設計されたが、その際既存のPBL授業であった「プロジェクト実習」もまた、同プログラムを構成する一授業である「プロジェクト演習」として位置づけ直されることとなった。

上述のように、プロジェクト演習は「多様な学生を集めて社会人基礎力を養成する、多様性追求型のPBL科目」として誕生した。一方で人文社会科学部地域志向教育プログラムが提供する様々なPBL授業の中には、高度に専門性追求型のPBLも含まれている。同一プログラムを構成し、いずれも「PBL」を標榜しながら、その内容にはかなり大きな差異が存在することとなった。

3:2019年度活動報告会のテーマ設定

2019年度は、活動報告会全体のテーマを「2種類のPBL・その先の学びへ」とした。

「2種類のPBL」と言えば、通常は「Project Based Learning と Problem Based Learning」が想起されよう。しかし、ここで言わんとしているのは、Project Based Learning を前提とした上での「専門性追求型か多様性追求型か」の「2種類」である。

2017年度の改組を経て、本学部では「多様性重視型」から「専門性重視型」まで、様々なPBL授業が提供されることとなった。選択肢が増えることは、学生にとって望ましいことではある。しかし、よく似ているように見えて実はかなり違う方向を志向している授業が混在する中で、十分な整理とアナウンスを欠いたまま学生募集を行えば、履修学生にとっても担当教員にとっても不幸なミスマッチを多発させることになる。この機会に「多様性重視型」と「専門性重視型」をキーワードに、人文社会科学部地域志向教育プログラムが提供するPBL授業について整理しようと企てた次第である。

4:2019 年度活動報告会の構成

2019 年度の活動報告会は、前年に引き続き「ポスターセッション」と「報告会本体」の二部構成とした。

特筆すべきは、今年度も渡辺しのぶ先生による「総合プレゼン講座」を継続開講して戴き、「夏季集中講義」、「報告会一週間前のリハーサル」からなる事前指導と「報告会当日の講評」の3部分からなる手厚いプレゼン指導を提供することができたことである。これから実社会に巣立ってゆく学生たちにとって、一步上のプレゼン力を身につけられる本講座の有用性、重要性は言を俟たない。貴重な非常勤講師時間枠をご提供下さった人文社会科学部執行部ならびに昨年度に引き続いてのご出講をご快諾下さった渡辺先生に、重ねて御礼申し上げます。

5:ポスターセッション

活動報告会の開会に先立ち、恒例のポスターセッションを行った(図1~4)。例年通り、各チームがA1判2枚組でポスターパネルを作成し、人文学部講義棟廊下に張り出すと共に長机に成果物を並べ、参観者に自チームの活動を紹介するという形式である。

2019 年度のポスター一式は、HP 資料庫に[504]としてアップしている

(<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/doc/504poster2019.pdf>)。併せてご参照戴ければ幸いである。



図 1: 教員の指導の下、ポスターパネル作成



図 2: 本番前日、ポスターを設置



図 3: 準備、完了!



図 4: ポスターと現物資料でご説明

6：活動報告会

活動報告会は、例年通り人文社会科学部 10 番教室で開催した。

チラシのデザインは、前年度にデザイン会社に依頼して一新した所であり、今後何年間かはそのマイナーチェンジで対応していくこととした (図 5)。

2019 活動報告会
ACTIVITY REPORT MEETING

2019年度のテーマは
2種類のPBL・その先の学びへ

人文社会科学部の専門科目「プロジェクト演習」は、受講生が地域の中でプロジェクトに取り組むことを通じて社会人基礎力を身につけることを目的に開講されているPBL(Project Based Learning)科目です。2019年度の報告会では、学生の活動報告に加えて「専門性追求型」と「多様性追求型」の2種類のPBLについて整理し、「プロジェクト演習のその先」の学びを考えたいと思います

13:00~16:20
(12:10 受付開始)

12:15~12:45 **ポスターセッション**
プロジェクト演習受講全8チームの活動報告

13:00~13:05 **開会挨拶** 田中 裕 (人文社会科学部副学部長・評議員)

13:05~13:15 **趣旨説明** 神田 大吾 (プロジェクト演習担当教員)

13:15~14:05 **プロジェクト演習活動報告第一部**
(1)茨城大学DomaineMITOプロジェクトチーム (2)MitoBloomチーム (3)KoriNaチーム (4)さとみあいチーム

14:05~14:15 **休憩**

14:15~15:05 **プロジェクト演習活動報告第二部**
(5)E-girls Rチーム (6)公共交通KoMiKoチーム (7)こみフェスチーム (8)IBADAI×ICTラボチーム

15:05~15:20 **プレゼン講評** 渡辺 しのぶ (ラザランス 代表)

15:20~16:05 **2種類のPBL・その先の学びへ**
佐川 豊弘 (副学長・地域PBL演習カテゴリー1「自治体政策立案ゼミ」担当教員) 田中 裕 (新カリ設計者・人文社会科学部副学部長・評議員) 鈴木 敦 (地域PBL演習カテゴリー3「プロジェクト演習」担当教員) *ファンリレーター 若尾淳一 (「プロジェクト演習」担当教員)

16:05~16:20 **総括と閉会挨拶** 内田 聡 (人文社会科学部学部長)

日時 2019年12月21日(土)
時間 13:00~16:20(12:10受付開始)
※12:15~12:45に、人文社会科学部講義棟下にてプロジェクト演習受講全8チームによる活動報告を、ポスターセッション形式で実施します
会場 茨城大学 人文社会科学部講義棟10番教室

活動報告会に関するお問い合わせは
☎ 029-228-8115 または ✉ atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp 鈴木教まで

主催 茨城大学人文社会科学部 共催 茨城キリスト教大学 後援 水戸市/Domaine MITO株式会社

図 5：活動報告会チラシ

これまで会場設営と運営・撤収については人文社会科学部歴史・考古学メジャーの院生・学生にアルバイトで協力戴いて来た。しかし、新カリ移行に伴うアクティブ・ラーニング系科目の増大等から継続困難との申し出を受けて、断念した。苦肉の策として、チームごとにプロジェクト演習を履修していない学生1~2名を紹介してもらおう形を取った。事前の心配に反して結果は上々であり、関係者一同旨を撫で下ろした。

人文社会科学部執行部ならびに事務方からは、例年通りの手厚いご支援を戴けた。記して感謝申し上げます。

以上、沢山の方々のご支援を戴き、報告会は83名の参加者を得ての開会となった(図6)。以下、式次第(図7)に沿って列記する。



図 6：会場風景

2019年度 プロジェクト演習 活動報告会

- | | |
|---|-------------|
| 0 : ポスターセッション (人文社会科学部講義棟) | 12:15-12:45 |
| 1 : 開会挨拶
田中裕(人文社会科学部副学部長・評議員) | 13:00-13:05 |
| 2 : 趣旨説明
神田大吾(プロジェクト演習担当教員) | 13:05-13:15 |
| 司会: 庄司果織(茨城大学3年)・中崎航汰(茨城大学3年) | |
| 3 : プロジェクト実習活動報告第一部 | 13:15-14:05 |
| (1)茨城大学 Domaine MITO プロジェクトチーム
(2)Mito Bloom チーム
(3)KoriNa チーム
(4)さとみ・あいチーム | |
| 司会: 小瀧千尋(茨城大学2年)・荒川祐太(茨城大学2年) | |
| 4 : 休憩 | 14:05-14:15 |
| 5 : プロジェクト実習活動報告第二部 | 14:15-15:05 |
| (5)E-girls R チーム
(6)公共交通 KoMiKo チーム
(7)こみフェスチーム
(8)IBADAI×ICT ラボチーム | |
| 司会: 藤川尚(茨城大学2年)・松本真奈(茨城大学2年) | |
| 6 : プレゼン講評
渡辺しのぶ (ラシャンス 代表) | 15:05-15:20 |
| 7 : ミニ・トークセッション「2種類のPBL・その先の学びへ」 | 15:20-16:05 |
| 佐川泰弘 (副学長・地域PBL演習カテゴリ1「自治体政策立案ゼミ」担当教員)
田中 裕 (新カリキュラム設計者・人文社会科学部副学部長)
鈴木 敦 (地域PBL演習カテゴリ3「プロジェクト演習」担当教員)
＊ファシリテーター 岩佐 淳一(「プロジェクト演習」担当教員) | |
| 8 : 総括と閉会挨拶
内田聡(人文社会科学部学部長) | 16:05-16:20 |
| 司会: 安藤未羽(茨城大学2年)・池田拓野(茨城大学2年) | |

図7：活動報告会式次第

(1)式次第 1：開会挨拶

田中 裕（人文社会科学部副学部長・評議員）



図 8: 田中副学部長挨拶

本日は、足元の悪い中、「茨城大学人文社会科学部 PBL 授業プロジェクト演習活動報告会 2019」にお越しいただきまして厚く御礼を申し上げます。

この「プロジェクト演習」ですが、これまで、「根力育成プログラム」という全学のプログラムがありまして、今年の 4 年生が最後の受講生ということになっておりますが、そのプログラムの中核的な科目として、「プロジェクト実習」という非常に長い歴史のある科目がありました。この科目が昨年度から、新たな学部のプログラムとして始まりました「人文社会科学部地域志向教育プログラム」の中の一つの中核的な科目として生まれ変わり、「プロジェクト演習」という名前で開講されることになりました。

そして、今年度はその新たな「人文社会科学部地域志向教育プログラム」の実質的な完成年度に当たります。このプログラムにおいては、必修の科目として、今年度から新たに置かれることになりました「地域 PBL 演習」というものがござ

いますが、この「地域 PBL 演習」と、これまでの「プロジェクト演習」が連動して開かれている構造になっており、この点について後ほど詳しくお話があるかと思えます。このように長い歴史のある科目が、さらに新しく生まれ変わって、今、新しいプログラムの中で動いているということですので、実は現在、学生の皆さんと私ども教員とが、お互いに悩みながら新しい世界を切り開こうと、もがいている最中でございます。

本日は、その悩みも含めて、私ども教員の悩みはともかく、特に主役である学生の学びの成果を存分にお聞きいただき、成長を実感していただきたいと思っていますところでございます。

本日は 16 時 20 分までということで、長丁場になりますが、どうぞごゆっくりお楽しみいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(2)式次第 2：趣旨説明

神田大吾（プロジェクト実習／プロジェクト演習担当教員）

それでは、神田より、本日の趣旨説明を申し上げます。

今年のプロジェクト演習活動報告会のテーマは、「2 種類の PBL・その先の学びへ」というテーマにしております。

ところで、皆様、「2 種類の PBL」というテーマをご覧になって、何を期待されておいでになってくださったのでしょうか。「2 種類の PBL」、一般には、問題解決型とプロジェクト型という 2 つの PBL 授業を指しますが、実はそれではなくて、2 種類のプロジェクト型、つまり、何か一つのプロジェクトに 1 年間取り組んでいくという学習の仕方、Project Based Learning が、新カリキュラムの中では 2 種類存在することとなりましたので、それを踏まえたテーマ設定です。

そこで、まずはそのお話をして、次に、今年 1 年間、このプロジェクト演習でどのような形で学生が本日のこの活動報告会に臨むことになったのか、そして最後に、テーマの後半の「その先の学びへ」とはどういうものなのか、という順番でお話をしていきたいと思えます（図 9・No.1、2）。

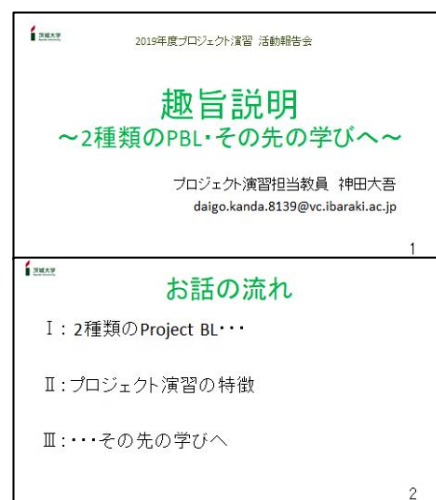


図 9-1: 趣旨説明 PPT(1)

最初に、2種類のProject Based Learning、お手元の資料（図10）には細かく書きましたが、一言で申しますと多様性と専門性です（図9・No.3）。

I : 2種類のProject BL

- 多様性を追求するProject Based Learning
多種多様なメンバー(専門分野は人それぞれ)と共に、地域の課題に取り組むことを通じて実社会を疑似体験し、社会人基礎力(考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力)を身につける。
- 専門性を追求するProject Based Learning
(例)行政学の専門知識と技能が履修する前提で、現実的な政策を立案し、専門知識に裏打ちされた能力(=実践性)を身につける。

図10：2種類のProject Based Learning（配付資料版）

プロジェクト演習は多様性です。多種多様なメンバーが揃って、さまざまな専門分野の学生が一つのチームを組んでプロジェクト活動を行います。その過程で実社会を疑似体験して、その結果、社会人基礎力、経済産業省が提唱しております三つの力、すなわち考え抜く力と、チームで働く力と、そして前に踏み出す力、これを養成する授業がプロジェクト演習です。

このように多様性を特徴とするProject Based Learningが旧カリキュラムではPBL授業のすべてでしたが、新カリキュラムでは3年次生を対象に、このほぼ対極に立つ、専門性を特徴とするPBL授業も開講されることとなりました。履修する学生は、それまで2年間、大学で何かの専門知識、例えば、行政学の知識と技能をしっかりと身につけていなければいけません。一つの専門知識を基にして、同じ専門分野の学生同士がチームを組んで、現実的な政策論を作り上げ、専門知識に更に磨きをかけようというProject Based Learningが新カリキュラムでは開講されることになりました。

そういう中で、つまり、多様性と専門性という2種類のProject Based Learningがある中で、このプロジェクト演習を履修する2年生はその先にどのような学びがあるのか、というのが本日の活動報告会のテーマでございます。

さて、プロジェクト演習はProject Based Learningですが、学期の初めに学生が学外のご協力者様からご提案いただいた課題、または学生自らが提案した課題、それを選択して、チームを作って1年間、課題に取り組み、その結果、個人の学びとチームとしての成果を得るという授業です（図9・No.4）。

実際のプロジェクト演習の詳細につきましては、お手元の資料（図11）にホームページのURLとQRコードを載せてございます。こちらからホームページでご覧いただけますと、このようになっておりまして（図9・No.5）、この授業がどういう構造で成り立っているか、また、1年間、それぞれの節目でどのような授業

I : 2種類のProject BL

多様性

- 多種多様なメンバー
- 実社会を疑似体験
- 社会人基礎力

専門性

- (例) 行政学の専門知識と技能
- 現実的な政策を立案
- 専門知識に裏打ちされた能力

3

II : プロジェクト演習の特徴

プロジェクト課題提案

学生が選択 チームを組んで取り組む

↓

課題の絞り込み

一言授業 チームミーティング

↓

チーム活動

個人の学び チームとしての成果

4

1学期前半 1学期後半 2学期前半 2学期後半

1月 4月 7月 10月

12月

1月

プロジェクトは手段
目的はプロジェクトを通じた学び
適年のProject Based Learning (PBL) 授業

目的: 社会人基礎力(考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力)の養成

4年次生が学びたい
全員が責任を持つチーム構成

社会人を疑似体験
社会人基礎力(考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力)の養成

5

図9-2:趣旨説明PPT(2)

ないし活動がなされているのか、それぞれのところにカーソルを当てていただきますと、ポップアップメニューで詳しい説明が出て参りますので、後でこちらをご覧くださいいただければ幸いです。

II : プロジェクト演習HPとFB

HP
<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/>

FB
<https://www.facebook.com/IUChiikipg/>

図 11 : プロジェクト演習 HP ならびに FB の URL と QR コード

今年プロジェクト活動は四種類ございます。地域連携・地域貢献と、国際交流・異文化理解と、そして PBL 型のインターンシップが組み込まれているプロジェクト、そして、複数に関わっているのでどれか一つのタイプに決めにくいために「総合」と分類したプロジェクト、これら四種類、合計八つのチームが活動を行いましたので、後ほど順番に活動報告を行います (図 9・No.6)。

また、プロジェクト演習には 3 年前から総合プレゼン講座 (図 9・No.7) を授業の中に組み込んでおりまして、お手元の資料 (図 12) にその授業計画を載せました。要約して申しますと、まずはプレゼン内容の組み立て方です。PPT の制作技術を学ぶ前に、そもそもプレゼンとはどういう形で構成していくのか、聴衆に内容がきちんと伝わるプレゼンにするためにはどういう点に気を付ける必要があるのかを学びます。そして、これを踏まえて、実際にパワーポイントでプレゼンの資料を作り、教室内で発表の実演をして、発表のスキルとして何が必要なのかを実践的に学びます。これらを 10

II : 2019年度の活動

総合	地域連携・地域貢献	国際交流・異文化理解	PBL型インターンシップ
<ul style="list-style-type: none"> ① 茨城大学 Domain@MITO フロントチーム ② Mito Bloom チーム ③ KoriNa チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ④ さとみ・あい チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ E-girls R チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 公共交通 KofuMito チーム ⑦ にみフェス チーム ⑧ IBADAI× ICT ラボ チーム

6

II : 総合プレゼン講座

- プレゼン
 - プレゼンテーションの企画から本番までのプロセス
 - PREP 話法とホールパート法の実践 など
- PPT
 - 基本操作の習得
 - 「一目でわかる化」する など
- スキル
 - 立ち居振る舞い、発声方法 など

7

図 9-3: 趣旨説明 PPT(3)

II : 総合プレゼン講座

- 第1回 イントロダクション(プレゼンテーションの定義と目的)
- 第2回 プレゼンテーションの企画から本番までのプロセス
- 第3回 PREP 話法とホールパート法の実践
- 第4回 伝わる文書構成はツリー構造
- 第5回 Power point 操作編①: 基本操作の習得
- 第6回 Power point 操作編②: スライドを「一目でわかる化」する・デザインマスタの作成
- 第7回 Power point 操作編③: 図解とカラーリング
- 第8回 Power point 課題作成: 第10回の課題発表に向けて演習
- 第9回 魅せるプレゼンターのスキル(立ち居振る舞い・発声方法・質問発問)
- 第10回 課題発表
- 第11回と第12回と第13回 活動報告会リハーサル
- 第14回と第15回 活動報告会

[シラバスの授業計画より]

図 12 : 総合プレゼン講座

回にわたって授業をしていただいて、その後、リハーサルを含め、本日、報告会の後半で、総合プレゼン講座をご担当いただきました渡辺しのぶ先生に講評を頂戴いたします。渡辺先生、どうぞよろしくお願いいたします。

次のスライドをご覧ください(図9・No.8)。社会で一般的に期待される5つの能力、これは2018年度の資料ですけれども、経団連の資料ではコミュニケーション能力が一番重要とされております。プロジェクト演習で身につく社会人基礎力の一つの、チームで働く力が、ここで言うコミュニケーション能力に重なるでしょう。チームで活動する中で、協調性や誠実性も培われます。また、主体性とチャレンジ精神は、社会人基礎力で言えば前に踏み出す力のことでしょう。社会人基礎力とはこのように、実際に社会で期待され、必要だとみなされている力のことでございます(図9・No.9)。

プロジェクト演習ではこのような社会人基礎力を身につけてもらうわけなのですが、ただ、今年度からはこれとは性格が異なるPBL授業も履修できることとなります。それが「その先の学びへ」です。次のスライドをご覧ください(図9・No.10)。これは人文社会科学部の5つのディプロマポリシーです。学部の卒業認定、卒業を認める学生にはこういう5種類の力が備わっている、ということでございます。もちろん、個々の授業では、この内の2つから3つの力を重点的に育てるようにしておりますが、このディプロマポリシーに沿って2017年度入学生からカリキュラムが変わりました。

そして、先ほど、開会のご挨拶で田中からも申し上げましたように、3年次生を対象に地域PBL演習という新しいProject Based Learningが開講されましたが、これだけではなくて他に社会調査演習、法学応用講義、法学アドバンスト講義、文化遺産実践演習、こういうさまざまなPBL授業が開講されることになりました(図9・No.11)。

このプロジェクト演習の学生は主体が2年生ですが、彼らはこの演習を履修し終えた先の3年生になって、こういう選択肢が生じることになりました。

プロジェクト演習というのは、チームで働く力、考え抜く力、前に踏み出す力を身につけます。その一方で、大学の授業の中でこういう授業、これについては本日後半のミニ・トークセッションのところで詳しくご紹介する予定ですが、こういうさまざまなProject Based Learningの授業があります。これらはいずれもProject Basedですので、コミュニケーション能力を培うこととなります。

多様性に重点を置いた、プロジェクト演習の発展型の3年生の授業がある一方で、それとは対照的に専門知識が前提という授業もございます。そしてまた、その中間のところ、多様性は少しあるけれども専門性を重視するという授業もあれば、専門性も少しはあるが多様性を特徴とする授業もございます。さまざまな種類のPBLの授業がありますので、さてどうするか、学生は考えていかなければなりません。どの授業を取るのか、それを考え抜いてもらって、そして、どれかを選択するとなると、これは前に踏み出す力が必要となります(図9・No.12)。

このように、プロジェクト演習のPBLで培った社会人基礎力を活用する場所が、これまでは社会に出てからですが、その前の段階として、もう一段、緩やかな形でこの力を応用してもらおう。社会人基礎力を踏まえ

II:期待される五つの能力

II:プロジェクト演習で身につく力

III:その先の学びへ

III:PBL系科目の新設

III:プロジェクト演習の使い方

ご清聴ありがとうございました

図9-4:趣旨説明 PPT(4)

て3年生の授業に、いわばその先の学びへ進むという道が新カリキュラムでは生まれることとなりました。

このような次第で、本日は直接には今年度のプロジェクト演習の学生の発表なのですが、と同時に、彼らのその先のことも考えながら、というのが今回の活動報告の趣旨、「2種類のPBL・その先の学びへ」でございます。

ご清聴ありがとうございました。

(3)式次第 3、5：プロジェクト実習／演習活動報告 (2018はp.169～191)

2019年度プロジェクト実習／演習履修8チームが、カテゴリA→Dの順で活動報告を行った。会場で放映したPPTを、以下に収載する(図13～20)。

なお、当日会場で配布した紙媒体のハンドアウトは、①白黒印刷となることを念頭に放映用PPTの一部を修正した物 ②放映用PPT以外の資料 からなる。こちらについては、HP資料庫内の「プロジェクト演習I・II資料庫」(<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/archive.html#intern>)に、「2019年度活動報告会[410]」としてアップしている。併せてお目通し戴ければ幸いである。

活動報告会での持ち時間は1チーム当たり12分と非常に限られる。加えて「時系列に沿った活動内容報告」が主眼ではなく「活動を通じて何を学んだか」に軸足を置いた報告が求められている。このため下記PPTは、必ずしも具体的な活動の全てを紹介するものではない。活動の全容については本書I-2～9のチーム別活動報告を参照されたい。また、学生の報告に対する渡辺しのぶ先生のご講評については、本章5-(4)に収載している。併せてご参照戴くことで「具体的活動」「学生の学び」「活動と学びに関する第三者評価」の三者が揃うという構成である。


図13：茨城大学 Domaine Mito プロジェクトチーム



学生アベリティブ

水戸市泉町、多世代交流スペース「マチノイズミ」にて学生版アベリティブの開催

大学生をターゲットに若年層に対するワインへの親近感の向上
水戸に興味を持ってもらうコンテンツとしての期待



5

SNS発信

Twitter、Facebook、Instagram
若年層をターゲットに発信



認知度の向上



6

HP制作

当初は写真集、パンフレットの制作・配布を企画
→専用ホームページの制作に移行



水戸ワインの周知
水戸とワインの関わり合いを紹介
活動の紹介

7

イベント出店

▶ 内容
販売のお手伝い、地域の方々・お客様との交流

▶ 日程
5/19 (日) 水戸ホーリーホック vs 柏レイソル @ケースデンキスタジアム水戸
6/2 (日) 城里町古内地区「庭先カフェ」
6/15 (土) 城里町古内地区古民家パレ「島家住宅」
10/5 (土)、6 (日) 茨城ゆめ国体 @アダストリアみとアリーナ

地域の人々との関わり合い
地域の人々の水戸ワインに対する認識や印象を得た
Domaine MITOのプロモーションを体験

8

新酒お披露目会(11月3日)

～2019年度ワインのご紹介～

▶ 水戸ルージュ
鯉淵アーリー・スチューベン
栗崎ピノ・ノワール
城里メルロ

▶ ヴィニフィエ・ア・水戸 (水戸醸造ワイン)
太田巨峰
山形デラウェア

水戸ワインに対する理解
参加者との交流



9

プロジェクトを通しての学び

- ①現状分析と目標設定の必要性
- ②企画することの難しさ、計画の重要性
- ③チーム内の意思疎通

10

プロジェクトを通しての学び①

▶ ①現状分析と目標設定の重要性

▶ ホームページ作成当初
→本来の目標である水戸のプロモーションがうまくできていなかった

▶ 現状の確認・活動後の効果についての話し合い
→目標に沿ったホームページが完成

11

プロジェクトを通しての学び②

②企画することの難しさ、計画の重要性

学生アベリティブにおいて

1. 企画の時間が短い
2. 告知がうまくできない
→規模の縮小

→この経験から企画を成功させるための計画の重要性

12

プロジェクトを通しての学び③

③チーム内の意思疎通

→前期は定期的なミーティングを行っていたが、夏休みは日程を合わせるのが難しく、個人個人の活動が中心になってしまった

→目立った企画を行うことができなかつたり、断念することがあった

→チーム内での積極的な意思疎通の重要性を学んだ

13

結びに

▶ チーム結成当初に構想していたことからかなりの修正が加わったが、メンバーの協力、そして様々な方に助けをもらいながら自分たちの思うワインを使った水戸のプロモーションに取り組むことができた

14

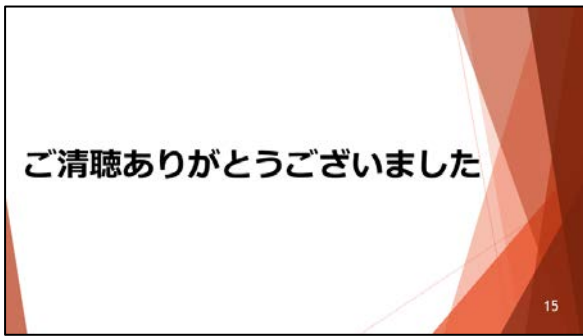


図 14 : Mito Bloom チーム

水戸中心部の コミュニティ形成

チーム名「Mito Bloom」

メンバー 木村友紀奈 佐久間秀斗 小池さくら
松本 真奈 稲野邊優香 津田 玲菜

目次

1. プロジェクト開始の経緯
2. プロジェクトの目的
3. 310食堂とは
4. 活動の目標
5. 310食堂との活動
6. 目的・目標の達成
7. まとめ
8. 今後の展望

1. プロジェクト開始の経緯①

- ◆福島県富岡町を舞台に活動する「**とみ咲ク**」チームとして結成
- ◆震災復興や地域コミュニティの強化が目的

しかし...

富岡町からの課題取り下げにより
突如**解散**を余儀なくされた

1. プロジェクト開始の経緯②

水戸市で同様の活動ができないだろうか？

【仮説】
富岡町で問題化した「**地域コミュニティの減少**」は、
水戸市でも言えるのではないかと
→仮説の検証へ

1. プロジェクト開始の経緯③

水戸市の町内会や市役所の方々に、
水戸のコミュニティの現状をお伺いした

結果・・・**コミュニティの希薄化がみられた**
→強化したい！

2. プロジェクトの目的

水戸在住の人に地域への親しみを持ってもらおう

定期的な交流イベントの実施
= 継続性のあるコミュニティ形成の一助
→310食堂の目的と重なる

310食堂の充実化・継続のお手伝い

3. 310食堂とは

主 催：310食堂実行委員会
開 催：毎月第3土曜日
場 所：マチノイズミ（泉町）
食と農のギャラリー葵（南町）
カフェリベル（南町）
趣 旨：食を通じて、地域住民の
交流の場となることが狙い

4. 活動の目標

- ◆ 310食堂の充実化を図るため、地域の方々と連携して活動していく中で、主に3つの力をつける

5. 310食堂との活動

- ◆親子参加型イベント
通常の食堂終了後、お菓子作りのイベントを実施
- ◆310食堂PR動画作成
310食堂の様子を撮影し、1分半と30秒程度の2つの動画を作成

9

5. (1) 親子参加型イベント

- ◆目的
310食堂の**充実化**
=通常、昼食を「食べる」ことでコミュニティに参加している子供たちが、「食べる」+「つくる」経験もできる

10

① イベントの概要

- ◆日時：10月19日(土)
14:30~16:30
- ◆場所：マチノイズミ
食と農のギャラリー 葵

チラシは1500枚配布!
現物は別紙をご覧ください!

「サツマイモの茶巾づくり」

11

② イベント当日の様子

親子26名、スタッフとして茨城大学からボランティア7名が参加



12

③ イベントを終えて

参加者の方々にご好評いただいたものの、

- ・世代間の交流をより増やすべき
- ・イベントの準備が不十分


といった改善点が見つかった

➡ 2月に再度イベントを実施し活かす

13

5. (2) 310食堂PR動画作成

- ◆目的
310食堂の**継続**
→学生ボランティアの募集
→まずは310食堂を知ってもらうところから
- ◆用途別に、2種類の動画を作成
- ◆アンケートで効果を検証



14

① PR動画の上映

- ◆30秒の動画
→SNSを使い、多くの人に**気軽に**見てもらう
- ◆1分半の動画
→ターゲットを**人文社会科学部の学生**に絞り、**より詳しく**活動の様子を伝える

15

② PR動画の上映

◆上映日	◆場所
12月3日(火) 12:10~	人文講義棟10番教室
12月6日(金) 12:10~	人文講義棟13番教室



16

③ PR動画の上映

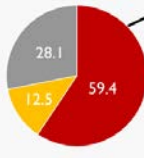


お手持ちの配布資料をご参照ください!

17

④ PR動画の効果

動画で初めて310食堂を知った



↓
6割近く!

- ・310食堂の活動を**広める**ことができた
- ・今後ボランティアに**繋げて**いきたい

18

6. プロジェクト目的の達成

- ◆プロジェクトの目的
 - ・310食堂の充実化
 - 親子参加型イベントの成功により、**達成**
 - ・310食堂の継続のお手伝い
 - PR動画を作成。認知度の向上により、**達成**

19

6. 活動目標の達成

- ◆活動の目標
 - 地域の方々との連携を通し
3つの力を習得
 - 目標達成!**

20

7. まとめ

1年間の活動を通じて...

- ・地域コミュニティの重要性や必要性を改めて感じた
- ・責任感やチームワーキング能力が向上した
- ・水戸と水戸の方々をもっと好きになった!

21

8. 今後の展望

- ◆10月に開催したイベントの反省を踏まえ、2月に**2度目の親子参加型イベントを開催**
- イベントの具体化・準備

22

謝辞

Mito Bloomチームの活動に当たりましては
310食堂実行委員会様を始めとして
沢山の方々にご支援を戴きました
末尾ながら、心より感謝申し上げます

Mito Bloomチーム一同

23

ご清聴ありがとうございました

24

図 15 : KoriNa チーム

活動報告会

KoriNa

松山 美玖 中山 瑠加 安藤 未羽
金子 友香 相島 優里香 比氣 梓

1

チーム名「KoriNa」とは?



韓国 : Korea



中国 : China

KoriNa

2

目次

- **チームの目標**
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望
- まとめ

3

チームの目標

- 言語スキルアップ
- コミュニケーション能力向上
- リフレット作成

4



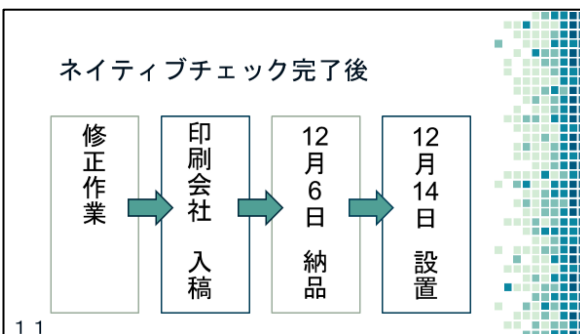
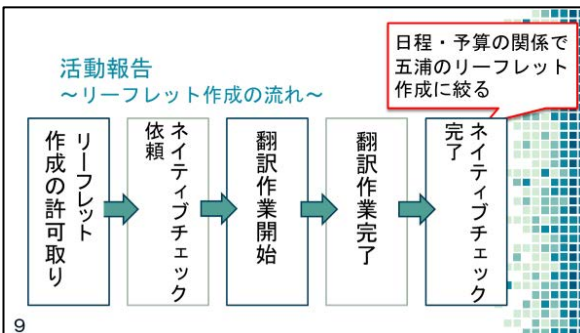
目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望
- まとめ



目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望
- まとめ



目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望
- まとめ

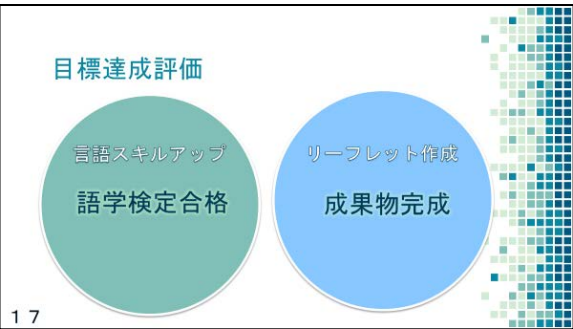
ご協力いただいた方々
 五浦美術文化研究所関係の皆様
 茨城県北ジオパーク構想関係の皆様
 翻訳文のネイティブチェックをしていただいた皆様
 写真データをご提供いただいた皆様
 印刷していただいた皆様

15

目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価**
- 今後の展望
- まとめ

16



言語スキルアップについて

目標達成

語学検定

TOPIK(韓国語能力試験)	2級	合格
中国語検定	4級	合格

その他... 語学に触れる機会の増加
 留学生との交流
 留学への参加

18

目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望**
- まとめ

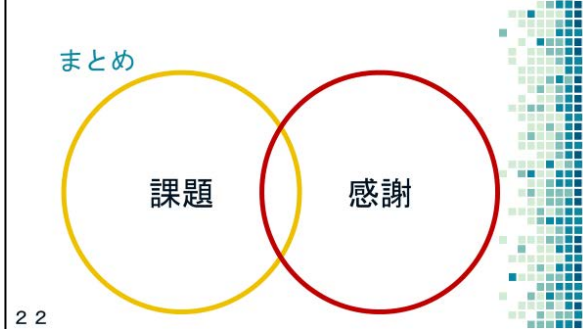
19

- 今後の展望
1. リーフレット存在の効果を測る
 2. リーフレットを五浦以外に配布
- 20

目次

- チームの目標
- プロジェクトの目的
- 活動報告
- ご協力いただいた方々
- 目標達成評価
- 今後の展望
- まとめ**

21



ご清聴ありがとうございました

23

図 16 : さとみ・あいチーム

さとみ・あい 2019年度活動報告

さとみ・あい2019メンバー

4年	江口 紗姫	大貫 史織	大村みるほ
	北野 友香	塩手葉々美	戸谷実花子
	永田 典子	野平 知里	羽田野里菜
3年	寺元 彰徳	久利生秋華	
2年	池田 拓野	川和 里帆	軍司 真奈
	関口 佳恵	澤田由季乃	計16名



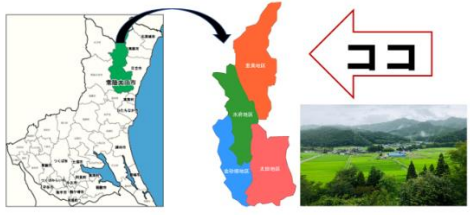
1

目次

- プロジェクトの目的
- チームの目的
- プロジェクト活動の3本柱
- 今年度の活動報告
 - ①Openday ②米 ③里川カボチャ
- まとめ
- 来年の展望

2

常陸太田市 里美地区とは



3

さとみ・あいとは

- 2012年に結成
- 里美地区に活気を!
- 里美について知ってもらうきっかけづくり
- 里美の魅力発信




4

- さとみ・あいは **8年目**
- しかし今年度のメインメンバーは **1年目**

今までの活動

里美が求めている活動

私たちがやりたい活動

→どのように活動するのか苦戦した1年

5

チームの目的




主体性



働きかけ力



コミュニケーション能力



課題解決能力

活動を通して主に上記4つの能力を養う

6

プロジェクトの目的

広報、販売などを通じて里美の情報を発信

↓

里美について知ってもらうきっかけをつくる

↓

魅力を知ってもらい、関係人口増加を目指す

7

今年の活動の三本柱



荷見誠様
里川地区
里川カボチャ
研究会長



小林信房様
大中地区
地域おこしの
レジェンド



石川歩様
大中地区
オランダ帰りの
イマドキ有機野菜農家

8

活動報告 ①Open day

10月12日(土)
石川様の畑にて開催予定

有機栽培の小豆や
様々な野菜の収穫体験

台風により中止...



9

活動報告 ②米

5月1日 田植え

9月15日 稲刈り・おだかけ

9月29日 脱穀

11月2.3日 販売



10

さとみ 秋の味覚祭


11月2日（土）、11月3日（日）
 地元、地域外からも多くの来場者
 お米を販売し、**里美のお米のおいしさをPR**




11

積極的な声掛けによるアピール

工夫した販売戦略



全100キロ分 完売
約80名の方にご購入頂けた！

活動報告
 ③里川カボチャ

- ・播種（種まき）
- ・植え付け・藁敷き
- ・茨菰祭出店



13

未曾有の大凶作…




本来の里川カボチャの出来具合（2018年の写真）

今年度の里川カボチャの様子（9月14日撮影）

収穫量はわずか昨年の半分…

14

約300個 見事完売！！



里川カボチャの存在や魅力を知ってもらえた

15

- ・販売時にお米、里川カボチャの説明
- ・里川カボチャ紹介チラシの配布

使用し

お米、カボチャコロケの販売を通じて里美地区の魅力のPRができた



16

まとめ

販売・広報を通じて里美地区について知ってもらいきっかけを作ることができた

しかし…

- ・関係人口創出に寄与することは出来なかった
- ・SNSの発信不足

17

→ 私たち自身が里美地区を知り、**関係人口になることができた**



18

- 主体性
- 働きかけ力
- コミュニケーション能力
- 課題解決能力
- 情報収集能力

+

19

来年度の展望

- ・関係人口の創出
- ・里美地区の魅力の発信

→ より多くの人に知ってもらい、里美と関わりを持ってもらう

→ **里美地区を元気に！**

20

御礼

さとみ・あいを知って下さっている
全ての皆様へ
 心より御礼申し上げます

21



図 17 : E-girls R チーム

プロジェクト演習活動報告会

異文化交流プロジェクト
 大甕マップ作成プロジェクト
 活動報告会

茨城キリスト教大学現代英語学科 E-girls Rチーム
 3年 平山 可恋 (リーダー・会計)
 3年 太田 妃香 (副リーダー・書記)
 4年 矢野 真佐子 (書記)

1

目次

I. 活動の動機
 II. 活動報告
 II-1 異文化交流プロジェクト
 II-2 大甕マップ/Omika Map作成プロジェクト
 III. プロジェクト実習を通して得られた学び
 IV. お世話になった方々

2

I. 活動の動機

3

国際社会で活躍できる人材育成のため、国際理解教育の充実や英語によるコミュニケーション能力の育成が重要
 (茨城県教育委員会)

現状①
 ・ 学生が国際的な場面でコミュニケーションをとる機会が少ない

現状②
 ・ 大みか町を訪問する外国人の目的が通勤・通学に限られており、街自体への興味・関心が薄く交流がない

4

目標①
 ・ 茨城県の若年層と異文化を持つ人との交流を図る機会を設け、留学生と地域を結び、異文化交流を促すこと。

異文化交流ができるイベントの開催

5

目標②
 ・ 大みか町の観光資源について英語で発信し、街に対し親しみを覚えてもらうきっかけを作ること。

発信するためのツールとしてのマップの作成

6

II. 活動報告

7

II-1異文化交流プロジェクト
 (1) イベント開催の流れ

4月 5月 6月 7月 7月15日

イベント発案・企画
 企画書類の提出
 招待校へ連絡・参加書類の提出
 参加高校生を招待
 参加留学生の決定
 プログラムの決定
 本番準備
 会場設営
 イベント開催

8

(2) イベントに関心を持ってもらうために

インターン・留学生向け 茨城県の高校教員・生徒向け

- 他大学のインターン生 留学生との交流
- 高校生との交流で新しいコミュニケーション体験
- 異文化に触れることで新しい価値観を知る
- 英会話を楽しく学ぶ
- 文化を楽しく学ぶ

9

(3) イベントの実施日及び参加者

『異文化交流プロジェクト』

日時 令和元年7月15日 13:00~16:00
 場所 茨城キリスト教大学3号館3405教室
 参加者 全46名（内訳高校生34名、茨城大学の留学生3名
 本学インターン生・留学生9名）

10

(4) 当日プログラム内容

OPENING CEREMONY	開会式
SELF-INTRODUCTION	自己紹介（アイスブレイク）
FRUIT BASKET TURNOVER	なんでもバスケット
JENGA QUESTION	ジェンガクエスチョン
CULTURE EXCHANGE GAME	文化交流ゲーム
CLOSING CEREMONY	閉会式

11

(5) 当日のようす

Self-Introduction 自己紹介 Fruit Basket Turnover なんでもバスケット

12

(5) 当日のようす

Jenga Question ジェンガクエスチョン Culture Exchange Game 文化交流ゲーム

13

(5) アンケート結果

1) 今回参加して良かったと感じる割合

2) 果敢とチャレンジ

14

(6) アンケート結果

2) 自由記述（感想）

- 色々な国の方と交流できてたのしかったです。
- 行ってみたい国の人とお話できて、とても良い時間を過ごせました。
- 楽しかった！もう一度参加したい。
- I enjoyed this event very much!

15

(6) アンケート結果

3) 同イベントにまた参加したいですか？

達成する

16

II-2大獲マップ/Omika Map作成プロジェクト

(1) 計画目標

昨年度のメンバーが作成した大獲駅周辺の地図を利用し、観光情報も加えた大獲マップの完成・配布を目指す。

17

(2) 大獲マップ作成の流れ

18

(3) 活動内容
①大甕神社訪問



インターン生とともに大甕神社を訪問し、外国人がどのようなことに疑問を持つのかを理解した 19

(3) 活動内容
②完成したマップ (表)



20

(3) 活動内容
③完成したマップ (裏)



21

(5) 引継ぎと今後の展望

- マップをより多くの施設・店舗に設置
- 掲載施設・店舗内の英語表記の充実化
- マップを利用した大甕駅周辺ツアーなどのイベントの開催

観光客の呼び込み、外国人と地域住民の交流の増加

22

III.プロジェクト実習を通して得られた学び

23

- (1) 二つの活動の振り返り
異文化交流プロジェクト
- 告知ポスターの情報量が少なかった。
 - 高等学校側と伝達ミスがあり、当初の予定以上に高校生の参加者が増えた。
 - アンケートの日本語版の部数が足りなかった。
 - 初期はメンバーの得意不得意を把握しきれず、仕事量に差がでることがあった。
- 24

- 大甕マップ/Omika Map作成プロジェクト
- 計画通りに進めることに固執し、作業の完成度やメンバーに対する思いやりが欠ける場面があった。
 - 作業量が多く、時間内に終わることが困難だった。
 - 必要な情報を抽出し、マップのデザインを考えることが大変だった。
 - アポイントを取る必要があった。
- 25

- (2) 学び
- ① 計画を立てることの重要性
改善策
- ある程度のゆとりをもたせて計画をたてる。
- 活動の重要度に応じて順番を決める。
- 一つ一つの活動責任者を決め、随時メンバーに報告する。
- 26

- ② チームワークの大切さ
改善策
- 一人で作業せず、全員で協力して作業する。
- 自分の意見をチーム全員に話す。
- 27

- ③ 社会人としての基礎力
- 正しいメール作成方法や電話の取次ぎ方、パワーポイントやワードの使用方法など社会人として求められる基礎知識。
 - 仕事の依頼の仕方やリーダーとしての務め。
 - 自らの活動を紹介する広報の方法。
- 28

IV.お世話になった方々

29

茨城キリスト教学園高校の皆様
 水戸啓明高等学校の皆様
 湯本高等学校の皆様
 日立第二高等学校の皆様
 太田第一高等学校の皆様
 水戸第三高等学校の皆様
 日立北高等学校の皆様
 大成女子高等学校の皆様
 いわき光洋高等学校の皆様
 茨城キリスト教大学 入試広報部の皆様
 茨城キリスト教大学 国際理解センターの皆様
 茨城大学 留学生の皆様
 茨城キリスト教大学 留学生・インターン生の皆様

30

図 18：公共交通 KoMiKo チーム

1 活動報告会
2019/12/21
海老根弘人 伊藤玲美 荒川祐太 匂坂浩聡 山形賢志 | チーム KoMiKo

2 目次
1. チームKoMiKoの活動の目的
2. プロジェクトの目的
3. プロジェクト立案の経緯
4. ツアー作成の経緯
5. プロジェクトの成果
6. ご提案したツアー
7. 今後の活動について
8. ご協力頂いた皆様

3 チームKoMiKoの活動の目的
➤ 課題の解決に取り組む → 論理的思考
➤ 目標に向けて チームで取り組む経験を積む → 計画性
チームワーク能力

4 プロジェクトの目的
「公共交通機関の利用者を増やす」
＜理由＞
水戸市民の移動手段の維持
↓
＜手段＞
路線バスを用いた「新しいツアー」の作成により、
利用者の増加が見込める

5 プロジェクト立案の経緯
水戸市交通政策課様から頂いた課題
「公共交通機関の活性化と維持」
↓
最も身近な交通機関の一つ
路線バス
↓
持続可能性が高い
茨城交通様の路線バスを活用したツアーが効果的

6 ツアー作成の経緯
➤ 水戸市役所 様
「水戸市におけるバス利用者数を増やしたい」
↓
市内発の地域間幹線系統
を利用した
新しいツアー
➤ 茨城交通 様
「地域間幹線系統の利用を促進したい」

7 プロジェクトの成果
現在...
御前山トレッキングコース
大洗コース
採用検討中！

8 ご提案したコース
①御前山トレッキングコース
・御前山登山、お買い物
・道の駅かつら名物「かつら」1個プレゼント
・個人利用だけでなく団体にも
例) 登山系サークル、アクティブシニア
山頂からの眺め
道の駅かつら

ご提案したコース

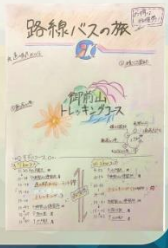
②大洗コース

- ・乗り放題のフリー切符で、自由到大洗・那珂湊の街を散策
- ・いくつかのモデルコース
- ・車を持たない学生向け



今後の活動について

- ・チラシの作製、配布
- ・プロジェクトの成果の検証
→利用者数調査
- ・後続のチームへプロジェクト課題提案



ご協力頂いた皆様

- ・茨城交通株式会社 様
- ・水戸市交通政策課 様
- ・株式会社桂ふるさと振興センター 様
- ・茨城県公共交通活性化会議事務局 様
(令和元年度地域公共交通利用促進活動助成金を頂きました)

ご静聴ありがとうございました | チームKoMiKo

図 19：こみフェスチーム

プロジェクト演習活動報告会

こみフェスチーム



中崎航汰 大塚萌 田岡真美子
庄司果織 小野嶺奈 黒澤卓矢

目次

- ◆こみっとフェスティバルとは
- ◆活動開始の経緯
- ◆目的・目標
- ◆行った活動
- ◆今後の展望
- ◆お世話になった方々

2020年2月15日(土)
イオンモール水戸内原にて開催!




目次

- ◆こみっとフェスティバルとは
- ◆活動開始の経緯
- ◆目的・目標
- ◆行った活動
- ◆今後の展望
- ◆お世話になった方々

活動開始の経緯

- ◆水戸市役所市民生活課様から課題提案
- ◆水戸市のボランティア現状
→若者にボランティアの良さを知ってほしい!




目次

- ◆こみっとフェスティバルとは
- ◆活動開始の経緯
- ◆目的・目標
- ◆行った活動
- ◆今後の展望
- ◆お世話になった方々

目的

- ◆ こみフェスの市民への周知
- ◆ **若者**にボランティアの良さを知ってもらう



7

目標

- ◆ 昨年よりも来場者数を増加
- ◆ ターゲットに合った広報活動
→ **若者**



8

目次

- ◆ こみっとフェスティバルとは
- ◆ 活動開始の経緯
- ◆ 目的・目標
- ◆ 行った活動
- ◆ 今後の展望
- ◆ お世話になった方々

9


行った活動

- ◆ こみフェス実行委員会への参加
- ◆ 市民活動への参加
- ◆ アンケート作成
- ◆ 茨苑祭での宣伝活動
- ◆ 130周年記念

10

こみフェス実行委員会への参加

- ◆ こみフェスの市民への認知、若者への参加を促すために**広報を担当**
- ◆ Twitter、Instagramの更新
- ◆ ラジオ出演 FMはるるん 水戸こどもの劇場 大内様のご協力



11


市民活動への参加

- ◆ 子育て支援BE-LIEFさん主催
みんなで手をつなごう♪ジョイントコンサート（参加日：8月18日）
- ◆ ペンギンくらぶ（参加日：8月21日）

12

アンケートの作成


- ◆ 既存アンケートの改善
- ◆ 水戸市のボランティアの現状について知る




13

茨苑祭での宣伝活動

- ◆ タピオカの販売
- ◆ こみフェス宣伝のシールをカップに貼り、宣伝を行う
- ◆ アンケートの配布、回収



14





15

水戸市政130周年事業

水戸市民130人の笑顔

- ◆ インタビュー
「あなたが感謝したい人は？」
⇒ 当日イオンモール水戸内原で上映予定
- ◆ 「130の笑顔」周りにメッセージカード掲載

16

目次


- ◆ こみっとフェスティバルとは
- ◆ 活動開始の経緯
- ◆ 目的・目標
- ◆ 行った活動
- ◆ 今後の展望
- ◆ お世話になった方々

17

今後の展望

**こみっと
フェスティバル**

- ◆ 現在の目標達成率について
- ◆ SNS広報
- ◆ ラジオ等のメディア出演
- ◆ 水戸市政130周年記念物作成
- ◆ 本番当日→**司会進行、SNS情報発信**



18

- ◆ お世話になった方々
- ◆ 今後の展望
- ◆ 行った活動
- ◆ 目的・目標
- ◆ 活動開始の経緯
- ◆ こみっとフェスティバルとは

目次

19

お世話になった方々

20

ご清聴ありがとうございました！



**2月15日
お待ちしております！**

21

図 20 : IBADAI×ICT ラボチーム

**データ活用による
ICT学習教材の提案**

IBADAI×ICTラボ

小笠原彩葉 生田梨帆 岸朱里 並木舞香
栗原千怜 小瀧千尋 関澤南

目次

- (1) プロジェクトの課題
- (2) 「インターネット検定」とは
- (3) チームの活動目標
- (4) プロジェクトの流れ
- (5) 活動内容
 - ①カリキュラム改訂案の検討
 - ②公式サイト改訂の検討
- (6) プロジェクトの成果と学び
- (7) 今後の課題

謝辞

2

(1) プロジェクトの課題

3

① カリキュラム改訂案の検討

- インターネット検定の公式テキストである「.com Master BASIC」のカリキュラム改訂案の検討

→大学生のインターネット利用を調査し、その結果を踏まえた改訂案を提出する。



4

② 公式サイト改訂の検討


- インターネット検定の公式サイト (www.ntt.com/com-master) の改訂
 - 一公式サイトをより見やすくわかりやすいものにする。
 - NTTコミュニケーションズ様の課題感・要望を把握した上で、利用者目線での検討を行い改訂案を提案する。

5

(2) 「インターネット検定」とは

6

- NTTコミュニケーションズ株式会社が実施するICTスキル認定資格。
- インターネットの基礎知識から、ビジネスの最前線で活かせる実践的なICT知識を身に付けることができる。



(インターネット検定公式サイトより)

7

(3) チームの活動目標


8

- チーム一人ひとりが自分の役割の仕事を全うし、お互いのフォローを心がける。
- 輝かしい成果を出すことよりも、課題達成にむけての過程を大切にする。
- 曖昧な課題にも、解決に向けて自分なりの糸口を見つけ、最後まで取り組む。

9

(4) プロジェクトの流れ

10



- 参加前**
 - チーム内でのミーティング
 - 課題提案者様とのミーティング
 - アンケート調査
- インターンシップ**
 - 課題提案者様へアンケートの結果を報告・意見交換
 - web制作者様との意見交換
- 参加後**
 - 意見交換を受けチーム内で再度改訂案を検討
 - ⇒最終的な改訂案を提出!!

11

- 夏季インターンシップ
 - 受入先：NTTコミュニケーションズ株式会社
 - 日時：2019年8月22日～23日（2日間）



- カリキュラム改訂に関するアンケート分析状況の報告
- 公式サイト改訂に向けた制作担当者様との打合せ
- 自己分析ワーク
- オフィスツアー
- 会社説明 等

12

(5) 活動内容

13

①カリキュラム改訂案の検討

〈主な実施内容〉

- チーム内ミーティング(週1回ベース、20回程度)
- 提案者様とのwebミーティング
- 現行テキストの読み込み
- インターネットに詳しい茨城大学の教員へヒヤリング
- 2段階にわたるアンケート
 - ...プレアンケート：Google Formで実施。141名回答。
 - 本アンケート：授業時間に紙を配布・回収。141名回答。
- アンケート結果の集計・分析

14

〈成果物〉

- 追加すべき項目を検査し、改訂案を作成
...[追加項目][追加ページ][狙い・目的][理由(データを基に)]
を記載
(カリキュラム改訂案 抜粋)

改訂案	改訂ページ	狙い・目的	理由(データに基づき)
通商手帳(改訂案)	2020 3・3 ①-②「インターネット」の追加	インターネット利用によるデジタル化の進展について、自身の教育機会を拡大して取得する。	2020年3月1日現在で通商手帳を保有した、外国人労働者の数は、約10万人と増加傾向にある。外国人労働者の増加に伴って、通商手帳の重要性が増している。
通商手帳(改訂案)	2020 3・3 ①-③「インターネット」の追加	インターネット上の情報の信頼性の確保について、デジタルスキルを身に付ける必要がある。	インターネット上の情報は、誰でも簡単に入手できる。そのため、情報の信頼性を確保し、デジタルスキルを身に付ける必要がある。
デジタルスキル(改訂案)	2020 3・3 ②「デジタルスキル」の追加	デジタルスキルを身に付けることで、デジタルスキルを身に付ける必要がある。	デジタルスキルを身に付けることで、デジタルスキルを身に付ける必要がある。
通商手帳の改訂案	2020 3・3 ③「通商手帳」の追加	通商手帳を身に付けることで、通商手帳を身に付ける必要がある。	通商手帳を身に付けることで、通商手帳を身に付ける必要がある。
デジタルスキル	2020 3・3 ④「デジタルスキル」の追加	デジタルスキルを身に付けることで、デジタルスキルを身に付ける必要がある。	デジタルスキルを身に付けることで、デジタルスキルを身に付ける必要がある。

15

〈反映状況〉

- 新テキストへ改訂案の内容が一部採用されている。

(新テキストの目次 抜粋) ※執筆期間中のため変更の可能性あり

章	節	節の目的
1	1	インターネットの利便性
1	1	1. 生活の中のインターネット
1	1	2. コミュニケーション促進のインターネットサービス
1	1	3. インターネットを基にした新しいサービス
1	1	4. インターネットの発展と課題
1	2	1. 生活の中のインターネット
1	2	2. インターネットの発展

16

②公式サイト改訂案の検討

〈主な実施内容〉

- チーム内ミーティング(週1回ペース、20回程度)
- 提案者様とのwebミーティング
...提案者様からの要望や現行公式サイトの課題等を確認
- 現行公式サイトの問題点の把握と改訂案のアイデア出し
- 他の検定サイトとの比較
- web制作担当者様との意見交換(インターンシップ内に実施)
- web制作担当者様のご提案内容との比較
- 上記を受けての追加提案取りまとめ

17

〈成果物〉

- 大学生目線での公式サイトの改訂案を作成
...合格者の声とサンプル問題の解説の掲載、2種類の資格の色分け表示など
- Web制作担当者様のご提案に対する追加提案を提示
...説明文への内容補足など

18

〈反映状況〉

19

(6) プロジェクトの成果と学び

20

〈成果〉

- 学生同士で考えた改訂案の一部が、テキストのカリキュラムと公式サイトのどちらにも採用された。

21

〈学び〉

- 課題に取り組む際に、ゴールを明確にし、筋道を立てて手順を踏むことを学んだ。
...ゴール:大学生目線で、現行に記載のない(薄い)ものを提案する。
⇒提案に向けてアンケートの実施を決定
- 役割分担を意識しつつお互いをフォローすることによって、チームワークの大切さを学んだ。
- 社会人の方々とのやりとりを通じて、根拠を明確に示し相手の理解を得る意見の伝え方を学んだ。

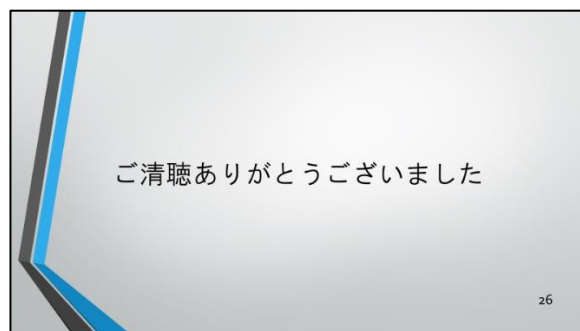
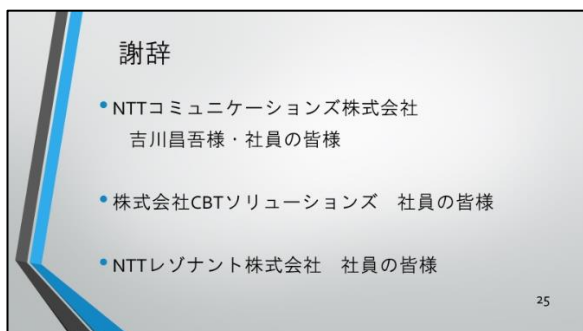
22

(7) 今後の課題

23

- 先方とのコミュニケーションの充実化
...提案者様を交えた打ち合わせの場が少なかったため。
- 計画的な物事の進行
...時間に余裕がない中で準備や修正作業を行う場面があったため。

24



(4) 式次第 6：プレゼン講評

「総合プレゼン講座」の教育効果の大きさは言を俟たない。しかし同時に、「総合プレゼン講座」を継続的に開講していくことが大学の財政状況に照らしてかなり難しいことも、自明のことであった。

そのような中、2019 年度も幸いにして学部執行部のご理解により、30 時間分の非常勤枠を宛がって戴くことができた。さらに渡辺しのぶ先生にも、引き続きご出講戴く事ができた。かくして渡辺先生による「夏季集中講義」「活動報告会リハーサルでのご指導」「活動報告会当日のコメント」が、2017 年度、2018 年度に続いて 2019 年度も実現した。厳しい状況の中で非常勤枠を宛がって下さった学部執行部、並びに遠路ご出講を戴いた渡辺先生に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。



図 21：渡辺先生ご講評

渡辺 しのぶ（ラシャンス代表）

ご来賓の皆様、そして、発表者の学生の皆さん、お疲れさまでした。

私は、東京を中心に人材育成の仕事をしております渡辺しのぶと申します。

こちらに関わらせていただきまして今年で3年目でございます。

私からは、皆さんの発表について少しお話をさせていただきます。

まず、今年をあらわす漢字がニュースで発表になりましたね、皆様、ご記憶にございますでしょうか。ついこの間のことですから、記憶に新しいですね。そう、令和の「令」ということでした。

ちょっと話は変わりますが、10月の授業で学生の皆さんに「自己開示のプレゼンテーション」をしていただきました。それは、「あなたの今を漢字一文字であらわすと何ですか」と共に「今後どんな人になりたいですか、それも漢字一文字であらわしてください」というものです。

今回、社会人基礎力という言葉が冒頭から出ていますが、皆さんはご存じでしょうか。簡単にご説明しますと経済産業省が提唱している「社会人に必要な基礎能力」でそれには大きな3つの力があげられます。①前に踏み出す力②考え抜く力と③チームで働く力という3つです。それをまたさらに細分化して12の力というものを構成しています。

私は、新入社員や入社5年目ぐらいまでの方々に対して社会人基礎力養成研修なども実施をしております。今回、茨城大学さんでは、これらの力をプロジェクト活動を通じて身につけるということを目的としているわけですね。

例えば、物事に進んで取り組み、他人に働きかけて巻き込む力。現状を分析して目的や課題を明らかにする力。課題の解決に向けてプロセスを明確にする力。さらには、相手の意見を否定せず正確に聞き、そのうえで自分の意見をわかりやすく伝える力。意見の違いや立場の違いを吸収しながら合意形成をする力。これらの力をプロジェクト活動を通じて身につけることが目的だったかと思います。

経済産業省の社会人基礎力には、出はこないのですが、私は自己開示力というのも重要な力だと思っております。前置きが長くなりましたが、ということで今回はプレゼンテーション授業の中に自己開示を取り込みました。

そして、さらには、プレゼンテーションの語源はプレゼントということで、今回、ご来賓の皆様は、お時間を使って来てくださっているのです、来てよかった、そして、聞いてよかったという話であるかどうかということがとても大きなポイントになると思いました。皆様は良かったと思っていただけたでしょうか。もしそうであれば、学生の皆さんが行ったプレゼンは成功したということになると思えます。

そもそもプロジェクト活動とは何か、これもちょっと触れておきますと、目的を達成するために臨時で構成される組織がプロジェクトなわけです。それは、小さな目標の達成のためのものではなくて、大きな目的を集団で達成するために実行するものがプロジェクトの定義です。

今回、学生の皆さんが取り組んだものは、現状がどうあって、そして、プロジェクトの目的はどうか、さらに現状とプロジェクトの目的の間にあるギャップが問題や解決すべき課題です。それを達成するために、チームの目標を一つ一つクリアにしていく。そうするとプロジェクトの目的が達成できたかどうかということが明確になるわけなのです。特に、この目標に関しては、数値化してあればあるほど目標が達成できたかどうかということがわかりやすいです。

ということで、8つのチームに発表していただいたのですが、1チームずつ触れているお時間が残念ながらありませんので、総括して申し上げます。よかった点は、司会者の皆さんが本当に頑張りました。いろいろとリハーサルのときから比べて上達もしていると思えました。また、発表者の皆さんも、リハーサルのときに比べて、スライドの作り込みであるとか、発表の仕方なども大分よくなってきていると思えました。

もしこれがもう少しよくなるようにということであれば、先ほど申し上げたように、目標を数値化すること、数値化してあれば、達成ができたかどうかということが明確になります。

それから、うまくいっているチームの特徴は、自分たちの頭で考えて、方向性がちょっと違うなと思ったら、すぐに方向転換をして仕切り直しをしてやっている。そういったことを感じられたチームは非常に上達していると思えました。

それに反して、何となくアルバイト的に、企業様に言われたとおりのことだけをやったということが感じられたチームは少し残念だったかなという印象です。

今回、ご来賓の皆様方からたくさんの質問をいただきました。その質問に関しては、本当はプレゼンテーションの中で取り込んでいただくと、もっと皆さんにご納得いただける内容になったかと思えますので、それはぜひ入れていただきたいと思えます。

あと、一つ、個別のチームで申し上げてしまいますと、公共交通の KoMiKo さん、本当に質問もたくさんいただきました。でもそれはわかりにくかったことというよりは、興味を持っていただいたからこそ出た質問だと思えました。

こちらのチームは、2つのコースを採用検討中ということで大変すばらしいことです。しかしながら、苦労した点というのがわからなかったのです。そこまで企業様に認めていただけるようなものを作るためには、一筋縄ではいかなかったはずなので、どんなところに苦労をしたのかということをもう少し言っていただくと「なるほど！そうなのか」と、聞き手の学びにつながるが多かったと思えます。

簡単ではございますが、私からは以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

(5) 式次第 7：ミニ・トークセッション「2種類の PBL・その先の学びへ」

2019 年度の活動報告会のテーマは「2種類の PBL・その先の学びへ」である。これに沿って、45 分という短時間ながらミニ・トークセッションを設定した。登壇者は新カリの設計者である田中裕副学部長、新カリの人文社会科学部地域志向教育プログラムにおいて専門性追求型の PBL 授業を担当している佐川泰弘副学長、ならびにプロジェクト演習すなわち同プログラムにおける多様性追求型の PBL 授業を担当している鈴木敦の 3 名である。ファシリテーターは、同じくプロジェクト演習担当教員の一人でメディアが専門の岩佐淳一教授が担当した (図 22)。

セッションでは、まず田中副学部長から「新カリの趣旨」が説明された。その上で、人文社会科学部地域志向教育プログラムの一環として設定されている PBL 科目群を、「多様性と専門性のどちらをどの程度追求しようとしているか」という基準で整理した (図 23)。

次いで佐川副学長が、自ら担当している専門性追求型の PBL 授業の概要を説明した (図 27)。

さらに鈴木が、自ら担当している多様性追求型の PBL 授業、すなわちプロジェクト演習の概要を説明した。鈴木は、その上で「履修目的と授業設計のマッチングの重要性」を強調し、併せて「専門性追求型」「多様性追求型」という授業設計の枠組みを越えて、自らの志向に基づいて独自の取組を展開した先輩の例を紹介した (図 28)。

限られた時間で、必ずしも十分な「トーク」にはならなかったが、新カリ成立と共に整備された PBL 科目群について、初めて体系的な整理がなされた意義は大きかったと自賛している。今後は、これらの PBL 授業の受講を検討している学生たちに対して、この整理結果をどうやって漏れや偏りの無い形で伝えていくかが課題となろう。



図 22 : ミニ・トークセッション
左から:岩佐淳一 田中裕 佐川泰弘 鈴木敦

○岩佐

続きまして、いわば第三部とも言えます「2 種類の PBL・その先の学びへ」に入りたいと思います。

ファシリテーターを担当しておりますプロジェクト演習担当教員の岩佐と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

時間も押しておりますので、ファシリテーターと申し上げましたが、今回は司会に徹したいと思っております。

冒頭で、神田から、PBL は専門性追求型と多様性追求型の 2 種類があると申し上げましたが、今回はその 2 種類の PBL とはどのようなものなのかということについて考えたいと思います。

その前に、まずは、プロジェクト演習の背景となっている人文社会科学部地域志向教育プログラムの説明を教務員長の田中裕からご説明いたします。よろしくお願いいたします。

○田中

改めまして、田中でございます。

私からは、平成 29 年度から始まりました新しい人文社会科学部のカリキュラムの考え方にあわせて、今のお題についてお話をさせていただきます (図 23・No.1)。

10 分ちよっとかかるかと思えます。

項目としては、お手元の資料のとおりでございます。学生さんの資料の後に私のパワーポイントの資料 (図 24)、そして、それをめくっていただくと、「メジャー・サブメジャー制と『実践的科目・PBL 系科目』」資料 (図 25) がございますので、この文字資料と、そして、前とを比べながら聞いていただければと思います。

まず、平成 29 年度の私どもの改組が、どのような問題意識であったのか、と申しますと、平成 27 年文科省通知が背景にございます。学生さんは余り知らないかと思うのですが、どう書いてあるのかを見ていきます (図 23・No.2)。なお、この通知は今も生きている通知でございます。画像では「特に」から引用してい

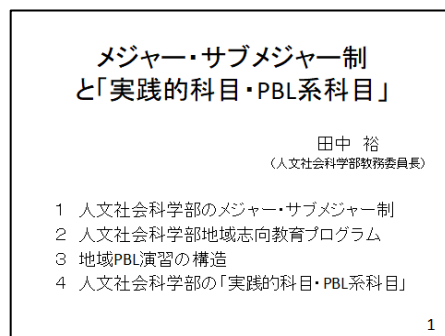


図 23-1 : 田中のスライド(1)

ますが、人文社会学系の学部、大学院については、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に取り組みなさいという通知だったのです。

これは社会的にいろいろな反響がありまして、真意はこういうところではない、というようないろいろなやり取りはあったのですが、これを文字どおり読めば、国立大学は、人文社会学系は要らない、あるいは別のものになりなさい、と読めるわけです。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1418121.htm)

この通知に対し、人文社会学系を担当している私どもとしましては、私たちが身を守るという意味ではなくて、そもそもこれは世界的な傾向ではあるのですが、人文社会学系が弱いからこそ、どこともなく、言葉が通じないような人物が首脳に選出されるようなことが世界的に起こり得るわけです。そのことに対して私たちはものすごく問題意識を持っているのです。ですから、文系を志す学生さん、生徒さん、高校生に、やはり人文社会学系の学びを提供する場所を、とにかく確保するということが私たちの使命であろうと考えたわけです。さらに、この通知を放置するとどうなるのかといいますと、大都市圏だけに人文社会学系を学ぶ場所が偏ってしまう。それは果たして地域にとって良いことなのか、という問題意識があったわけでございます。

このような背景の中で、私どもは、といっても、さきほど設計者としてご案内いただきましたが、実は、基本設計をしたのはここに座っておられる前学部長の佐川先生や、私の前任者である澁谷浩一先生でして、私は実施設計をしたということでございますが、その中で、全国に先駆けた新しい構造の学び、すなわち、人文社会学系の専門性を持った学生さんが、社会に出て、きっと活躍してくれるだろう、という形がみえやすいカリキュラムにしたということです(図23・No.3~5)。

どのような形かという、メジャー・サブメジャー制というものです。細かくは皆さんのお手元にも同じ図面があります(図24・25)。

まず、それまで2学科制だったものを、さらに専門的に、3学科に分けたのです。当時の流れとしては逆の方向へ行っただけです。これは、学ぶ分野をはっきりとさせる、ということが目的の一つでした。しかし、専門性だけだと、一つのことばかり学ぶことになっては、社会に役に立つ、活躍できるということにはならないだろう、という批判があるということで、もう一つのサブメジャーを必修とし、その両方を卒業要件として、卒業してもらおう形にしたわけです。メジャーとサブメジャーの組み合わせによって、さまざまな出口が考えられる。そのストーリーまで全て考えた上で、文科省に計画を提出したのです。

メジャーの狙いは、体系的な専門的知識を身につけるということです。それに対し、サブメジャーの狙いは、複眼的視野を持つこと、もしくは実践的な能力を身につけることです。専門性に加えてこのどちらかを必ず身につけて社会に出れば、必ず活躍できるはずだ、という形をつくったわけです。

人文社会学部のメジャー・サブメジャー制

人文社会学系は役に立たない?
平成27年6月8日付文科省通知「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」

特に教員養成系学部・大学院、**人文社会学系学部・大学院**については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、**組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組む**よう努めることとする。

人文社会学部改革のポイント

現代社会学系	経済社会学系	人間文化系	メジャー・サブメジャー制	卒業要件
<ul style="list-style-type: none"> メディア文化のメジャー 国際・地域実践のメジャー 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学・経営学 社会学・経営学 	<ul style="list-style-type: none"> 文学・思想 歴史・考古学 心理・人間科学 	<ul style="list-style-type: none"> メディア文化 国際・地域実践 経済学・経営学 社会学・経営学 文学・思想 歴史・考古学 心理・人間科学 	<ul style="list-style-type: none"> 専門系(特にメディア分野や総合系) 地方公務員 大学教員 民間企業(総合系) 地方公務員 大学教員 民間企業(総合系) 地方公務員 大学教員 民間企業(総合系) 地方公務員 大学教員

体系的な専門的知識 | 複眼的視野の実践的能力

地域を支え地域に支えられる教育

人文社会学部での「地域」体験を自分の「地域」で活かす

文化財などの保全 | 観光振興などの工夫

人文社会学部のメジャー・サブメジャー制

- 体系的な**専門的知識**と、**複眼的視野**または**実践的能力**を、必ず身に付けるカリキュラム(卒業要件)
- 科目ナンバリング対応の**積上型カリキュラム**により戦略的に**ディプロマポリシー**を達成

- 人文社会学部ディプロマポリシー
- 人文社会学部カリキュラムポリシー

お手元の資料をご覧ください

図23-2：田中のスライド(2)

さらに、学部全体としては、地域に貢献できる、あるいは、地域にさらに、学部全体としては、地域に貢献できる、あるいは、地域に逆に支えてもらう教育が、この水戸や茨城にある茨城大学の一つの強みでもあり、意義でもあるということです。学生さんにも地域の中で実践的な学びをしていただきたいと思います、ということをお考えのわけでございます。

もう一つ、体系的な学びをどう提供するかですが、専門性は基礎から始まり、さらに深く学ぶということが必要ですので、学ぶレベルをはっきりさせましょうということで、科目ナンバリングをカリキュラムに組み込みました。学生さんにはガイダンスでお話をしているのですが、積上げ型のカリキュラムをはっきりさせたわけですね。レベル1、レベル2、レベル3、レベル4の段階がありまして、4年生はレベル4の卒業研究をもって卒業していくという形になります。段階を踏まえながらディプロマポリシーを必ず身につけて出てもらう形を、文科省に提出したのです。

お手元のこの別添資料というところをごらんください（図23・No.6、図26）。

学部のディプロマポリシーを全文載せてお

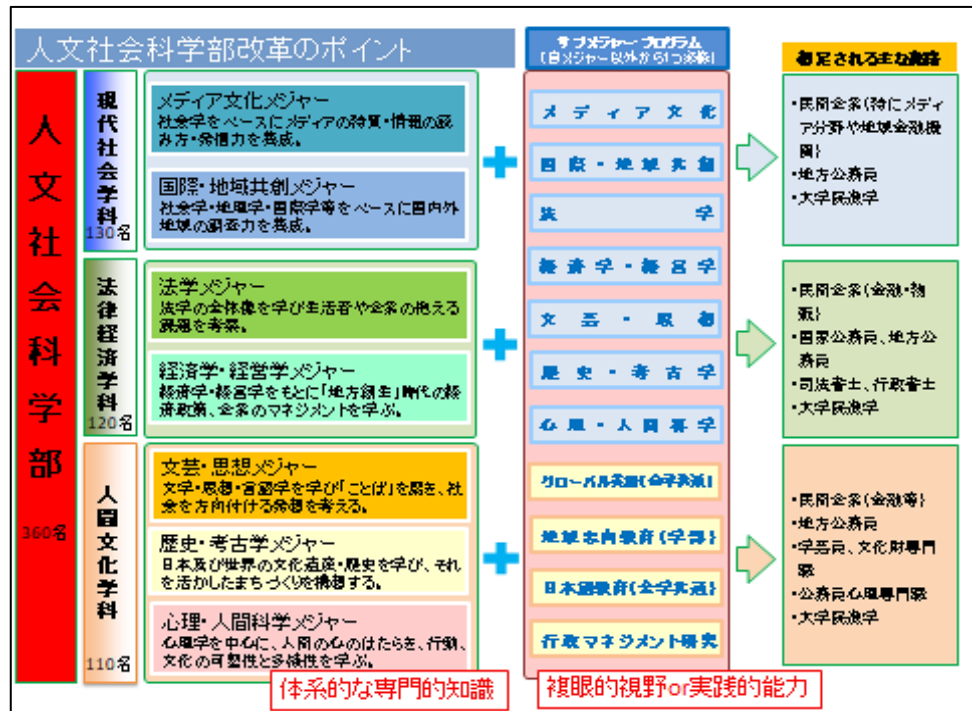


図24：人文社会科学部改革のポイント（図23・No.3の拡大図）

メジャー・サブメジャー制と「実践的科目・PBL系科目」

田中 裕（人文社会科学部教務委員長）

- 人文社会科学部のメジャー・サブメジャー制
 - 体系的な専門的知識と、複眼的視野または実践的能力を、必ず身に付けるカリキュラム
 - 科目ナンバリング対応の積上型カリキュラムにより戦略的にディプロマポリシーを達成
- 人文社会科学部地域志向教育プログラム
 - カリキュラムポリシーに位置づけられた学部の中核的サブメジャープログラム
 - 全学開講科目群と人文社会科学部独自の科目群（地域志向科目+地域PBL科目）
 - 地域志向科目（学科専門科目からなる：メジャーに置かれた学科の専門科目）
地域の持続的発展を考える内容の科目や地域を題材としている専門科目群
 - 地域PBL科目（学部共通科目からなる：誰でも履修できる共通の専門科目）
 - インターンシップA・B（2年生以上向け）：Problem Based Learning
 - プロジェクト演習I・II（2年生以上向け）：Project Based Learning
 - 地域PBL演習I・II（3年生以上向け）：Project Based Learning→プログラム必修

※これらはサブメジャーに拘わらず履修可能
- 地域PBL演習の構造

下記3カテゴリから選択履修

 - カテゴリ1「自治体政策立案ゼミI・II」（より専門性をもった自主的活動での学修）
 - カテゴリ2「地域課題の発見・解決プログラムI・II」（専門性と多様性の中間的学修）
 - カテゴリ3「プロジェクト演習III・IV」（より多様性をもった自主的活動での学修）
- 人文社会科学部の「実践的科目・PBL系科目」
 - 学部のカリキュラムポリシーに掲げる「実践的科目・PBL系科目」
専門性を地域に生かす課題解決に活かす力を磨くことにより、ディプロマポリシーを達成する
 - メジャーに置かれた「実践的科目・PBL系科目」
 - 社会調査演習I～IV（レベル3）現代社会学科：国際・地域共創メジャー
 - 法学応用講義・法学アドバンスト講義（レベル3）法律経済学科：法学メジャー
 - 文化遺産実践演習I（レベル2）・II（レベル3）人間文化学科：歴史・考古学メジャー

図25：メジャー・サブメジャー制と「実践的科目・PBL系科目」

ります。全学のものも、項目は一緒でございます。

その中で、専門的分野とか俯瞰的理解というのはわかりやすいところなのですが、問題は、先ほどの経済産業省のいう能力にも関係する、いわゆる「汎用的能力」といわれる、「課題解決能力・コミュニケーション力」、「社会人としての姿勢」、そして「地域活性化志向」、この3つをいかに身につけるかが問題になります。

そこで、実施設計においてカリキュラムポリシーというものをつくりながら、どのような科目群がどのような力を身につけるのかを、明文化していきました。学部のカリキュラムポリシーに記してあります青字部分、「実践的科目・PBL系科目」を置くことで、いわゆる「汎用的能力」を身に付ける。そして、赤字部分、「地域活性化志向」については、「人文社会科学部地域志向教育プログラム」を明記しまして、さらに「実践的科目・PBL系科目」を置くことで身につけることを考えたわけでございます。

文科省に提出した最初の計画では、まだまだこの細かいところまでは決まっていなかったわけです。これらを実際にどう実施するのかは模索する必要がありました。スライド No.7 にお示しした概念図は、どこにも公表されている図ではなく、先日、私がつくった図です。カリキュラムポリシーに落とし込む過程の中で、どういうふう考えたのかをまとめた図ということになります。

この概念図で示しているのはまず、大学でも学びは、いろいろな専門性から成り立っているということですが、その中で、自分の専門性をどんどん高めていってもらうということですが、それだけでは地域社会に関わるという方向性をなかなか持たないということで、「実践的科目・PBL系科目」、あるいは「iOP」という

人文社会科学部 ディプロマポリシー

- ① (世界の俯瞰的理解)
 - ・人間が生み出した多様な文化とその価値について深く認識するとともに、自然環境、国際社会に対する幅広い知識と俯瞰的な理解力を有している。
 - ・地域がグローバルな動きと繋がっているという認識を持っている。
- ② (専門分野の学力)
 - ・人文科学・社会科学の学問的な方法、ものの見方・考え方、知見を身に付けている。
 - ・学問分野に応じた専門的な調査・分析・企画力を身に付けている。
- ③ (課題解決能力・コミュニケーション力)
 - ・問題を認識し課題を解決するために、多様な情報を主体的に収集・分析・活用し、文章・口頭で的確に説明できる。
 - ・問題を認識し課題を解決するために、文化、社会、人間を多角的に捉えて考察できる。
 - ・問題を認識し課題を解決するために、目標に向かって多様な人々と積極的にコミュニケーションをはかる能力を備えている。
- ④ (社会人としての姿勢)
 - ・職業人や市民としての社会的責任と役割に関する自覚に基づいて、生涯にわたり自ら学び続ける積極性を備えている。
- ⑤ (地域活性化志向)
 - ・職業人や市民として地域の課題を見だし、地域の持続的発展に主体的に携わる意欲と能力を有している。

人文社会科学部 カリキュラムポリシー

- ①教育課程の編成・専門分野の学力育成
- ②課題解決能力・コミュニケーション能力の育成
 - ・(中略) 多様な人々とコミュニケーションをはかって課題解決に取り組む積極性を涵養するため、上記のゼミナール形式科目を置くとともに、メジャーの特色に沿った**実践的科目、PBL系科目**を置く。(中略：サブメジャーの記載)
- ③実践的英語力・国際化志向
- ④地域志向
 - ・地域についての認識を深め、地域の持続的発展に携わる意欲と能力を養成するため、学科・メジャー毎に学問分野の特色をいかした、地域をフィールドとする**実践的科目、PBL系科目**を配置する。(中略)
 - ・学生の目的意識に応じて、より実践的に地域で活躍できる能力を養成するため、次のサブメジャー専用プログラムを置く。「**人文社会科学部地域志向教育プログラム**」(16単位)：地域課題の解決能力を養成する
- ⑤社会人としての姿勢
 - ・(中略) キャリアを考える学部共通科目として「**インターンシップ**」「社会人入門」を置く。(中略)
- ⑥教育の質の向上

図 26：スライド 6 別添資料

ギャップターム（3年次第3クォーターに必修科目を置かず学外へ出やすくする学外学修推進のための全学的取組み）を通じて持たせるようにする。概念図に「組織化」と書いてありますが、これは、カリキュラムの組織でもあるのですが、むしろ学生の皆さんの頭の中の「組織化」、つまり「オーガナイゼーション」を意味しています。組織を「布」と考えてください。縦糸に対して横糸を絡めていって、その横糸の先に地域社会があるのだということ、頭の中で専門性を地域社会に結びつけていってもらおう。つまり、専門性もいろいろあるのだけれども、それらを絡めて、結びつけていって、地域社会に貢献できるような自信をつけてもらいたい、ということを考えてわけです。

そして「学部地域志向教育プログラム」は、概念図にしめすような「くねくねの横糸」ではなくて、ほとんどまっすぐに、ぐさっと刺す「横串」ということになるわけでございます。

ですので、いかに専門性を持ってそれを応用してもらえるのが新カリキュラムの最大の焦点であり、その中核的な取り組みとして、「学部地域志向教育プログラム」を置いたということでございます。

「学部地域志向教育プログラム」の科目群については、きょうは余りお話ししてもしょうがないかなと思うのですが、その中の中核的な科目として「地域PBL科目」という一群があります。学部ホームページ（<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/>）に示しているように、その中に、「インターンシップ」、「プロジェクト演習」、そして、必修である「地域PBL演習」があります。必修の「地域PBL演習」がレベル3になっている点が重要です。つまり、3年次以上の学生さんが、その前の学びを生かして履修してもらおうという科目が、当プログラムの必修になっているという点をご理解いただきたいと思えます。

地域PBL演習の構造ですが、3つのカテゴリー（シラバス上は授業題目に該当）から選べるようになっていきます（図23・No.9）。この後、お話がありますが、より専門性を持った活動から、多様性を持った活動まで用意されている（図23・No.10）、ということでございます、これを整理した図がスライドのNo.11になるわけです。

今までの「プロジェクト実習」がレベル2の「プロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ」に該当しています。それから、上位学年で取っていた「プロジェクト演習」が「地域PBL演習」の中に入りまして、クラス分けで選択できる、という構図です。そして「地域PBL演習」ではほかに、「地域課題の発見・解決プログラム」、それから、「自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ」がクラス分けで選択できる、ということです。性質がさまざまあるということになります。

さらに、これら「学部地域志向教育プログラム」のほかに、カリキュラムポリシーに位置づけられた「実践的科目・PBL系科目」として、各学科にそれぞれ、横の糸が用意されています。

なお、ここで断りをおきたいのは、私どもはPBL授業をすること自体が、目的ではなかったということです。専門性を応用する力を身に付ける手法として、PBLを含む「実践的な科目」を、とにかく置きたかった。ですから、こういう曖昧な書き方にはなっていますが、「実践的科目・PBL系科目」をカリキュラムポリシーの中に入れたということです。

茨城大学人文社会科学部カリキュラム
学修の「組織化」イメージ

科目ナンバリング(難易度)
レベル4
レベル3
レベル2
レベル1
7

実践的科目・PBL系科目・IOP
ボキャの自分野
学科内の他分野
サブジャンの分野
リベラルアーツ等

人文社会科学部
地域志向教育プログラム

カリキュラムポリシーに位置づけられた学部の中核的サブジャンプログラム

全学領域科目群
人文社会科学部独自の科目群

地域志向科目: 地域の持続的発展を考える、地域を題材とする、学科専門科目群
地域PBL科目: サブジャンに関わらず、誰でも履修できる、学修性専門科目
8

地域PBL演習の構造

下記3カテゴリーから選択履修

- ・ カテゴリー1「自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ」
(より**専門性**をもった自主的活動での学修)
- ・ カテゴリー2「地域課題の発見・解決プログラムⅠ・Ⅱ」(専門性と多様性の中間的学修)
- ・ カテゴリー3「プロジェクト演習Ⅲ・Ⅳ」
(より**多様性**をもった自主的活動での学修)

9

人文社会科学部の
「実践的科目・PBL系科目」

専門教育の縦串に対する
横串の「実践的科目・PBL系科目」の設置

既存のPBL科目: プロジェクト実習→プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ (Lev.2)
新設の「実践的科目・PBL系科目」

- 地域PBL演習 (Lev.3) カテゴリー(授業題目)
 - ・ プロジェクト演習Ⅲ・Ⅳ
 - ・ 地域課題の発見・解決プログラムⅠ・Ⅱ
 - ・ 自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ

現代社会学科 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (Lev.3)
法律経済学科 法学応用講義・法学アドバンス講義 (Lev.3)
人間文化学科 文化遺産実践演習Ⅰ (Lev.2)・Ⅱ (Lev.3) 10

多様性～専門性へのグラデーション

7 自治体政策立案ゼミ (Lev.3)
法学応用講義、法学アドバンス講義 (Lev.3)

6 ゼミ関連PBL (Lev.3・準備中)

5 文化遺産実践演習Ⅱ (Lev.3)

4 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (Lev.3)

3 文化遺産実践演習Ⅰ (Lev.2)

2 地域課題の発見・解決プログラム (Lev.3)

1 プロジェクト演習 (Lev.2) プロジェクト演習 (Lev.3)
青字表記: 地域PBL演習 (Lev.3)

1～7は専門性の必要度に対する段階のイメージ
令和元年度は初年度。実施しながら改善を図る 11

図23-3: 田中のスライド(3)

以上私どもの活動を通して、何を狙っているのかと申しますと、この図は、科目に取り組むときに絶対に必要という、専門性の必要度についての段階のイメージを示したのですが、レベル2の「プロジェクト演習」は誰でも、とにかくまずは集まってやってみましょう、というものであるわけです。もちろん専門科目は始まっていますので、基礎的に身に付けた専門性を基礎にして、それを応用して地域に関わっていくという形にはなりません。

一方、「学部地域志向教育プログラム」の中にある科目ではなく、各学科に置かれている「実践的科目・PBL系科目」もこの図にあります。例えば、「社会調査演習」はレベル3です。レベルが高い科目は、通常、履修する時点で、専門性も高いものが要求されてくるということになるのです。

ただし、レベル3「地域PBL演習」の中にある「プロジェクト演習」クラスは、必ずしもそうではない。むしろ一つの活動を、皆さんが3年生になって、さらに専門性をそれぞれ学んでいるでしょうから、そういったものをぜひ持ち寄って、生かして活動していただく、というような、多様性を期待しているということになります。

今年度は、このような非常に意欲的なカリキュラムの実質的初年度なものですから、学生さんにもさまざまご迷惑をおかけしている部分があるかもしれません。一緒に悩みながらつくり上げているという最中です。今後、いろいろなFDということを通じてより改善をしていき、皆さんと一緒にいいものをつくっていききたいなと思っています。

最後に、各学科に置かれたPBL系科目、あるいは実践的科目についてですが、一つだけ例示をさせていただきます。先ほどの図でレベル2、レベル3と違う段階が設定されている「文化遺産実践演習Ⅰ・Ⅱ」、これは人間文化学科に置かれているものですが、を例に挙げたいと思います(図23・No.12)。図の左側は、常陸太田市の催し物「集中曝涼」に専門性をもって参加するというものですが、レベル2の科目で行っているのは、学生が専門性を持って参加する活動の内容について、「記録をとる」という部分を課題として切り取り、より誰でもできる形にしていることが特徴です。何をやっているのかを理解し、さらに専門的な学びにもつなげるというような内容のものです。

それに対して、図の右側に示したレベル3の科目ではどうかというと、実際に「史料」を読んで、その意味を来場者に伝えるという「展示」を行う授業であり、これは現在、図書館で開催しているものです。本会が終わってもまだやっていると思いますので、ぜひ1階の展示を見ていただきたいと思います。より専門性を要求する科目ですが、一般の方に伝えていくという過程を通じて、地域社会にコミットするところに、実践性を求めているわけでございます。

このような取り組みをして、学びの「総合化」、あるいは「組織化(オーガナイゼーション)」を考えているのが、人文社会科学部の新しいカリキュラムです。皆さん、そこで培った力を持って、自信を持って社会に出ていただければ幸いです。

以上、人文社会科学部のカリキュラムの狙いと実際についてお話をいたしました。

○岩佐

ありがとうございました。

続きまして、2種類のPBLのそれぞれ代表例を紹介いたします。

まずは、専門性追求型を代表して、自治体政策立案ゼミ1、2の佐川ゼミの活動を、茨城大学副学長で前人文社会科学部長の佐川泰弘からご説明いたします。

○佐川

本日成果報告を行った今ここにいる学生の多くは2年生だと思えます。これから3年生になっていくと、



図 23-4 : 田中のスライド(4)

より個々の専門性が高まるし、自身の研究もという世界に入っていきます。そこで、地域志向プログラムの中の3年生向けのPBL授業が、今回発表のあったPBL授業の延長線上でどう位置づけられるか、その内の「専門性追求型」の一例をお話しさせていただきます(図27)。

プロジェクト演習活動報告会「2種類のPBL・その先の学びへ」(発言要旨)

2019.12.21 佐川

1. 旧カリキュラム(昨年度まで)での3年次ゼミPBL活動
 - ・「座学+卒研を念頭に置いた個人の研究」と時間外のPBL(Project Based かつ Problem Based +グループワーク、単位なし)を3年後期のゼミ活動の柱に。
 - ・近年は大洗町議会からの要請に基づき研究、政策提言
 - ・観光、モビリティ、駅前活性化などがテーマに。
 - ・一年簡潔でテーマに継承性はない。
2. 原稿カリキュラム(今年度3年生より)でのゼミPBL活動の位置づけ
 - ・学部地域志向教育プログラム中「地域PBL演習」として位置づけ「専門性追求型」カテゴリ1「自治体政策立案ゼミ」(それぞれのゼミをベースに佐川担当分と馬渡担当分があり)
 - ・全学的なiOP(internship off-campus program)の開始
3. 専門性追求とは
 - ・自治体行政や民間アクターが、これまで実施してきた取組(努力)を把握し、問題点を探る。
→その地域・現場が抱えている課題、取組が必ずしも奏功しない要因の検討。
→一般的に報道されている以上の、根幹にある要因の把握。
 - ・他所の事例をフォロー(「先進」事例は本当に先進的か)
 - ・課題を乗り越えられない制約は何か。国徳法令等による規制、財政-----。
 - ・「若者らしいアイデア」だけでなく、制約をどうすれば乗り越えられるかまで考える。
 - ・政策の目的、手段、ターゲット、コスト。
こうすれば困難を乗り越えられるというロジック、ストーリーの提示。
4. 今年度の取組
 - ①履修条件「それぞれのゼミナールで学ぶ専門的な知識と技能を身につけていることが、活動の大前提となります。このため、両ゼミナール所属以外の学生が履修を希望する場合は、あらかじめ行政学あるいは政治学の授業の履修状況などについて確認する面談を行った上で履修の可否を判断します」。→結果的に、今年度の履修者はゼミ生のみ。
 - ②昨年度に引き続き、大洗町をフィールドとして「政策提言」を行う。
 - ③総合計画、地方創生の「人口ビジョン」「総合戦略」、都市計画や観光計画等の基本的行政文書の内容を把握。
 - ④大洗町のイメージ等ブレインストーミング。
 - ⑤議会議長によるレクチャー、懇談
 - ⑥大まかなテーマの決定
 - ⑦テーマに関する先行研究+他所での事例を把握
 - ⑧ヒアリング(必要に応じて複数回)
 - ⑨提案準備→現在進行中
 - ⑩1月下旬に議員向けにプレゼン予定
 - ⑪振り返り
4. 今後の展開
 - ・「専門追求型」かつゼミベースの授業拡大の可能性
 - ・持続的にプログラムを開講するためにFDの必要性

図27: 佐川・発言要旨

学外から来られた皆さん、あるいは他学部の皆さんもいらっしゃいますので、少しだけ補足いたしますと、これを含む新しいカリキュラムが始まり、今3年目ということで、最上位学年が3年生です。人文社会科学部では、学生数が1学年360名、3つの学科からなっております。今年で言えば他大学・他学部の学生も含めますが約50名、360人中の約50名が、この2年生向けのPBL授業を履修したということです。

この地域志向教育プログラムをサブメジャーとして履修をして、メジャーとセットにして卒業して貰おう。それは一つのオプションになっているわけですが、そのためには、さらに3年生でもPBLを続けてもらいたい。かつ、そこには幾つかパターンがあるということなのですが、そのうちの一つが自治体政策立案ゼミということになっております。その辺のお話を私からいたします。

まず、これまでも私のゼミでは、現4年生までの学生は、3年生の特に後期において、PBL的な活動はやってまいりました。ゼミというと、半期2単位で1コマ90分という前提で、座学的なことをやり、あるいは卒業研究に向けたこともやっていく中で、PBLもとなると、なかなか大変です。ゼミの時間を使って、あるいは時間外に学外に出てProject BasedかつProblem Basedのグループワークもやってもらい、外向きの報告もやってもらうということを私のゼミでは3年後期の活動の柱にしておりました。学習時間から言うと、通常の倍の時間を実際に求めてきました。

ちなみに、専門は、行政学とか地方行政に関するということです。

特に、ここ数年は、大洗町議会から、議会から見て、町長とは少し別の観点で政策をつくっていきたいというところで、学生から何か提案を受けられないかという要請を受け、研究・政策提言を行ってきました。観光、町内のモビリティ、駅前の活性化などをテーマに取り組んできました。

3年生限定ですので、取組は1年ごとに完結して、そこで提案をしたら終わり。また次は新3年生のメンバーが別のテーマを選んで、別の研究をして、政策提言をしていくということを繰り返してまいりました。

今年度の3年生は、今、田中から説明がありました新しいカリキュラムでのゼミの授業を受講しているわけですが、過去にかなり重いことを外でやらせてきたということもありますので、この部分を地域志向教育プログラムの地域PBL演習の中に位置づけて、単位もつけたらどうかということで、何年もかかって、鈴木先生や神田先生と相談をして、それを実現したということです。

後ほど、多分、鈴木先生からも紹介があると思いますが、専門追求型でカテゴリ1の自治体政策立案ゼミとして、今現在、授業を展開しているのは2つのゼミです。一つは私のところのゼミです。現代社会学科の地方行政論ゼミ。もう一つは、同じ学科の馬渡教員の地方政治論ゼミとなっております。

あわせて、もう一つ、全学的な視点で言いますと、これも今年度からになります。3年生後期の前半期、4クォーター制にして第3クォーターを、茨城大学においては、internship Off-campus Programの時期だというふうに設定し、大手を振って学外に行ってきたよい時期にしました。授業等の活動の一環で学外に出る際、授業を休んでということが今までははばかられたこともあったのですが、大手を振って外に行けるようにしようという時期に設定しました。その制度も使うという前提で今年の授業計画を組み立て、実施してきたところです。

では、「専門性追求」とは何かということです。先ほど、常磐大学の村山先生からも幾つかの発表に対する質問が出て、要するに、「もうちょっと分析をして、専門性を発揮できないのか」という指摘をいただいたようにも捉えられました。しかし、主に2年生がやっているPBLの一番大きな狙いが、おとなしいとされてきた茨大生からの脱却だと思っております。プロジェクトの内容は地域貢献、社会貢献の域になるかとは思いますが、地域からすれば、学生がここに来て動いてくれること自体に価値があるとみなされているところもあり、それにも応えながら、社会に目を向けアクティブに活動してみよう。2年生のプロジェクト演習としてはこれでいいのではないかと私自身は考えております。

それに対して、もう一段、サービスや商品の供給側の視点を持って、いろいろな課題の根底にあるもの、大人はいろいろやっているのになぜ課題をクリアできないのかというところを分析した上で、制約を乗り越える方法を考えていくというあたりが、「専門性を活かす」という点かなと考えております。

私のゼミとの関連で言いますと、例えば、自治体行政も民間アクターも課題は認識をしているわけでありまして、それに対していろいろな努力、取り組みもされております。しかし、やはりなかなかうまく行って

いない現実があるわけです。そこを一步踏み込んで、当該地域や職場が抱えている課題の本質、取り組みが必ずしも功を奏さないのはなぜなのかというあたりまで踏み込んで見てみたいということです。

つまり、一般的にはこんな問題があって、こんな取り組みがされているという報道紹介もされていますが、なかなか乗り越えられない課題の根幹には何があるのかということです。あるいは、いろいろなところで先進事例の紹介がされるわけですが、先進事例のどこが先進的なのか、そういうあたりの観点も持たせたいということです。

探っていくと、課題を乗り越えられない要因として、そもそもの法令上の規制がかかっているとか、何とかしたいのはやまやまなのだけれども、お金がなくてできないのだとかということは山ほどあるわけです。そこを踏み込んでみて、ただ若者らしいアイデアを出しましょうということだけではなくて、大人の世界ではこの制約を乗り越えるためにどうしたらいいのかということまで考えるのが課題だと思いますので、その練習をしてみようということです。

政策であれば、目的や手段がちゃんと因果関係を持っているのかとか、ターゲットは誰かとか、コストはどんなのだとか、こういう視点を持ってこれを乗り越えられるロジックとかストーリーを提示していきたい、これを最終目標として取り組んでいきます。

新しい形で今年度初めてやってきていますが、なかなか難しい点も実際にはあります。専門追求型ということで、一定の条件をつけて受講者を募りました。受講に当たってハードルを上げるつもりはありませんが、今言ったような説明も加え、面談もして募集しましたが、結果的には、正規ゼミ生だけが履修しております。今年度も、大洗町をフィールドに、議会からの要請を受ける形で政策提言を行うこととし、現在最終的な準備を行っております。

前期中は、総合計画とか地方創生の「戦略」、都市計画とか観光計画、いろいろな計画が自治体には並立しておりますので、これらの内容を把握して、町がどういうストーリーを持っているのかを分析する。それから、そもそも大洗はどんなところだと思っているか、ブレインストーミングをやり、議長にも来てもらって、議会として考える町の課題についてレクチャーを受けて、懇談をする。それを踏まえて大まかなテーマを夏前ぐらいに決定をいたしました。その後、実際には、行政側にもお手伝いいただいて、これまでの取組等の調査、テーマに関する先行研究、ほかの場所の事例研究を学んだ上で、今現在、提案準備をしているところです。台風の影響を受けて、スケジュール的には遅れているところはありますが、1月下旬を目途に、議員に集まっていただき、提案報告を行う予定にしております。

まだ作業の途中であるため、総括的なことは、申し上げられません。専門性を追求して研究成果を出すという点では、なかなか難しいところが実際にはあります。とはいえ、このような形での授業は続けていきたいとは思っているところです。

さらに、専門追求型、特に自治体政策立案ゼミは2つしかありません。もっとメニューを増やす必要があるだろうということで、同じ学科、メジャーの先生方にも話をもちかけておまして、来年度からゼミベースで関わってくれる教員がもう少し増えていくかなと思っております。

それと、もう一つ。長年このタイプの授業を神田先生と鈴木先生中心にやってきていただいているものの、今後どう持続・展開させるのか学部全体としては必ずしも見えていないところがあります。持続的に開講できるプログラムとするためには、教員集団にFD等のテーマとして取り上げていただいて、現状とか、何をやっているというところを知ってもらった上で、参画する教員を広く増やしていくということが課題だと思っております。

長くなりました。以上です。

○岩佐

ありがとうございました。

続きまして、多様性追求型のプロジェクト演習3と4につきまして、担当教員の鈴木敦からご報告を致します。

○鈴木

鈴木でございます。

私からは、プロジェクト演習をベースに、多様性追求型の PBL についてご説明致します (図 28)。

まず大前提として、PBL 授業の根幹は申すまでもなく「学生の自発的な取り組み」です。どのような PBL であれ、担当教員としてはまずこの「自発性」を尊重して授業運営をする必要があります (図 28・No.2)。

その上で、課題への具体的な取り組み方に注目して分類すると、「専門性追求型」と「多様性追求型」に区別することができます (図 28・No.3)。

「専門性追求型」については、今、佐川のほうから、現在人文社会科学部で開講されている中では最も専門性志向の強い PBL 授業の説明がございました。担当教員の専門性に基づくテーマ設定の下に、その分野を専門的に学んでいる学生が集まり、専門知識・専門技能を踏まえた課題分析・課題解決のトレーニングの場として活動し、最終的には「研究成果」と言えるレベルの到達点に至ることを目指すというものでございます。高い専門性が求められる訳ですから、だれでも取り組めるという訳ではない。活動についてこられるだけの専門知識を持っている、あるいは多大なエネルギーを投入して当該分野の専門知識をつけていく姿勢と環境が整っている学生であることが、受講の前提条件になります。かくして 2019 年度の佐川の授業では、一定の条件を付けて受講者を募り、面談もして募集し、結果的に佐川ゼミの学生だけが受講できたということです。担当教員の佐川としては決して他の学生を排除する意思はなかったが、「専門性追求型」というあり方に照らして、自ずと当該ゼミ生以外では太刀打ちできなかったということだと思います。

このように、専門性追求型 PBL は追求の程度が高いほど必然的に受講生の母集団が小さくなります。同じ大学の学生だからといって、だれでも受講できるものではない。同一学部にと絞っても然り。同一学科に限ってもかなり厳しい。事実上、追求する専門性がドンピシャ一致するゼミのメンバーに限られざるを得ない。いわば「精製型」とでも申しましょうか。色々な成分が交じり合っている原油を、精製して、精製して、ガソリンだけを抽出する、というような構図になる訳です (図 28・No.4)。

プロジェクト演習を代表とする「多様性追求型」PBL は、これとは正反対です。大学でのいわゆる専攻に関わりなく、社会に出たら否応なく求められるであろう様々な資質—「ジェネリックスキル」とか、「社会人基礎力」とかとして定義されている能力を養成すべく、在学中に実社会を疑似体験する場です。専門性も志向する方向も異なる様々な背景を持った学生が集まり、多様なるが故の利点も欠点もひっくるめて現実の課題に取り組むというものです。特定の専門知識・専門技能を有していることは要求されず、寧ろてんでんばらばらの方が実社会でのあり方に近くなり、歓迎されます。活動のテーマも特定の専門分野に限定されず多様になる一方、担当教員の数は限定的ですから、活動テーマと教員の専門分野は乖離しがちになります。因みに、プロジェクト演習の担当教員 3 名の専門は、岩佐

プロジェクト演習と 2 種類の PBL

鈴木 敦
atsushisuzuki8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

PBL 授業の根幹

言うまでもなく

学生の自発的取組

2

2 種類の PBL

1 : 専門性追求型

2 : 多様性追求型

3

1 : 専門性追求型

いくなれば「精製型」

単一大学 → 単一学部

→ 単一学科 → 単一ゼミ

4

2 : 多様性追求型

いくなれば「化学反応型」

複数ゼミ → 複数学科

→ 複数学部 → 複数大学

5

図 28-1 : 鈴木のスライド(1)

がメディア、神田がフランス文学、鈴木は中国考古学です。

かくして受講生と教員、両方の「多様性」の結果として、多様性追求型の PBL は、構造的に特定の分野での深い専門性を前提とした取り組みとはなりえません。高校までは概して指示待ちでありがちだった学生たちが、高校生的なあり方を脱却して真の大学生になる、さらには社会人に向かって歩み始める、そのきっかけ・最初の実践の場として設計しています。メンバーが多様なるが故に衝突することもあるが、多様なるが故に思いがけない展開が生まれることもある。かくして、受講生に対して特定の専門性の枠をかけることはありません。単一ゼミに限定することではなく、複数のゼミ、複数の学科、複数の学部、さらには複数の大学からの受講を、積極的に呼びかけることとなります。「精製型」に対して「化学反応型」とでも言うべきでしょうか。色々なものが混ざり合うことで展開していく構図になる訳です (図 28・No.5)。

その伝で申せば、今年度のプロジェクト演習は理想的な構成となりました。受講生は、人文社会科学部を主体としつつも、水戸キャンパスにある他の二学部、すなわち教育学部、理学部からも来てくれています。さらに、連携関係にある茨城キリスト教大学、常磐大学からも受講してくれています。また、本日の報告会には両学の先生方にもお越しいただいています。授業設計者として本当にありがたく、この場をお借りして感謝申し上げます。

さてここで、先ほどの田中のスライドを一部修正した上で改めてお示しします (図 28・No.6)。

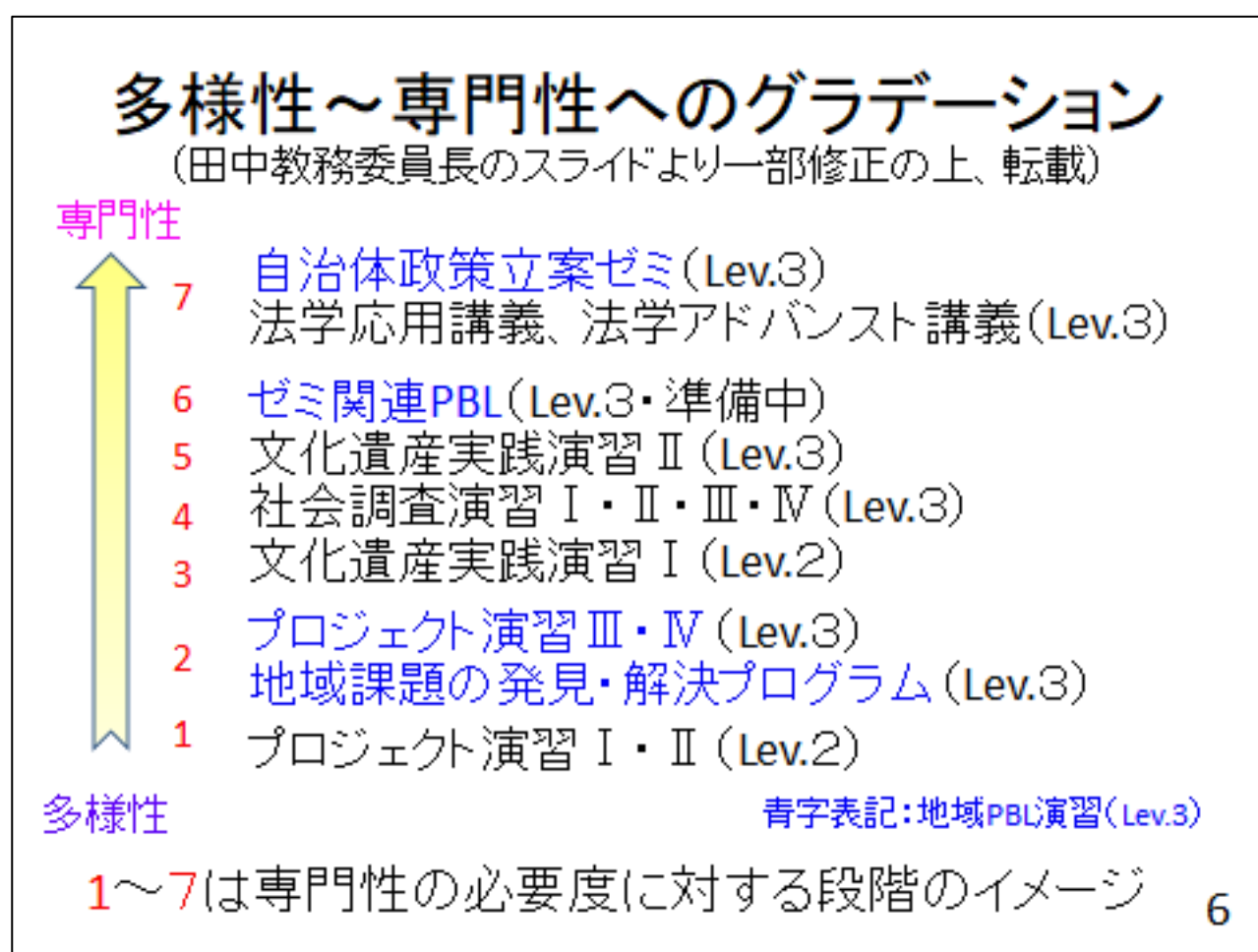


図 28-2: 鈴木のスライド(2)

今現在、茨城大学人文社会科学部で提供している PBL 科目を、多様性追求型から専門性追求型へのグラデーションを付けて一覧にしたものです。一番多様性寄りの「プロジェクト演習 I・II」から一番専門性より「自治体政策立案ゼミ」すなわち佐川ゼミ。この二つを両極端として、その間にこういうグラデーションでこういう PBL 授業の選択肢がありますよというラインナップです。8年前に、現在のプロジェクト演習の前身である「プロジェクト実習」を初開講した時点では、「PBL?それは何?植物?動物?」という状態

でした。そこから、もちろん私1人でやって来た訳ではありませんが、「自分の専門をほったらかして何をやっているのだ」などと言われながら、「それでも今、この大学にはこういう授業が必要なんだ」と、ギャーギャー騒いでやって参りました。今回このラインナップを見て、漸くここまで来たんだという感じで、ささやかながら達成感に浸っております。

そういう経緯ですので、個人的には「学生の皆さん、レベル3のPBL授業でもプロジェクト演習Ⅲ・Ⅳを受講しましょう！」とやみくもに広報したくなるころではあるのですが、ぐっとこらえてスライドNo.7です。これだけのラインナップがあるのだから、皆さん、自分が求めているものは何かをよく考えて、それに合致するのは、取るべき授業はどれかということをよく考えた上で選んでほしいのです。どういう授業環境で、何を学んで、どういう力を身につけたいのかということを真剣に考えた上で、選んほしいのです。そのためにはこのラインナップの性質をしっかりと説明して、皆さんに理解していただくことが非常に重要である。ということで、本日こういう場を設けて、こういうものを並べてご覧いただいたということなのです。

先ほどのお話と重複しますが、ここで改めてプロジェクト演習の設計をご説明します(図28・No.8~11)。

プロジェクト演習の設計は多様性追求型、言い換えれば化学反応型です。「化学反応」は、もちろん比喩的な表現であり、直接的な表現で言えば「多様なメンバーでの取り組みを通してこそ得られる学び」です。プロジェクト演習の受講を通じて、何らかの分野について特に専門的な能力がつくように設計されているのかと言えば、それはNOです。プロジェクト演習で養成しようとしているのは「社会人基礎力」です。スライドNo.10は、経済産業省のホームページの写しです。

(<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>)

お手元の資料(図29)をご覧ください。社会人基礎力を茨城大学版というか、プロジェクト演習版にルーブリック化したものです。プロジェクト演習受講生には、年度初めの授業のスタート時に、このルーブリックを使って自己分析をした上で、プロジェクト演習受講を通じて各人が強化したい力を明確化してもらっております。

社会人基礎力については、経済産業省のHPに詳しい説明が載っていますが、一言で言えば「単なる就職試験対策ではない、社会に出てからも持続的に活躍してゆける能力」です。先ほどのラインナップに記されたPBL授業群には、それぞれに独自の設計があり、特色があり、養成しようとする能力が規定されているはずですが、具体的な受講科目を決めるに先立ち、そういうものをきちんと調べて、自分の求めているものとのミスマッチが生じないように努めてほしいと思っています。

「その先」の選択基準は？

履修者各人の目的 ← マッチングが決め手! → 個々の授業の設計

どういう環境で 何を学んで
どういう力をつけたいの？

プロジェクト演習の設計は
多様性追求=化学反応型

ゼミ、学科、学部は勿論
大学さえ異なる多様な学生が
集まって、チームを結成

「化学反応」って？

様々な背景を持つメンバー

異なる知識・技能・発想等々を
「持ち寄り」「ぶつけ合い」...

多様なメンバーなればこそその学び

身につけるのは？
社会人基礎力

HPはこちら

「人生100年時代の社会人基礎力」とは
「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に続く個人・企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力である。社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられる。

3つの視点
1. 何を学ぶか【学び】
2. チームで働く力
3. 前に踏み出す力

3つの能力
1. 2の能力要素

リフレクション(振り返り)
2. のように学ぶ【統合】
3. チームで働く力

何を学ぶか【学び】
チームで働く力
前に踏み出す力

経済産業省HPより

お手元の資料をご覧ください

社会人基礎力を
一言で言えば

単なる就職試験対応能力ではない

社会に出てからも
持続的に活躍
してゆける能力

図28-3: 鈴木のスライド(3)

根拠の構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、最後まで読み通し、筆者の主張を論理的に理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない、或いは読み通せるが筆者の主張を論理的に理解・分析することができない	
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料がある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験はない	「つぶやき」的に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない	
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない	
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判にコミュニケーションの機会と受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平穏で答えられる	親しい人たちの気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンではない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない	
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常々確実に遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に違えることがある	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれない等の基本マナーを、しばしば遵守できない	
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を広汎かつ有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のあらかも情報入手するための新たなルートの開拓方法を把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報入手するための新たなルートを開拓する方法は分からない	
3 行動力	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要がなくとも、自らの意見・計画に基づき、自主的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
	働きかけ	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない、或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちなため
	実行力	目的を設定し、確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さや粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないこともままある	目的を設定できない、あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
4 思考力	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの意見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応することができる	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまうがちである
	課題発見能力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追究した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追究した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追究することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭に的確な対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考へるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応策を描けない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考へる必要性は認識しているが、明確なイメージを描けない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない、またイメージする必要性を自覚しない
5 チームワーク・キング能力	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にでき、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われ、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化の背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・語法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しては、明確な内容・語法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・語法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・語法で伝えることができない
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になって考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスを受け入れることに抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない	
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則は勿論、チーム内での取り決め等についても、決められたことは本意でも遵守する。高い倫理観を持ち、自ら公平公正に努める	法令・規則・チーム内での取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内での取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めができていない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
ストレスマネジメント	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平常心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平常心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えられず、気分晴らしをするだけでは不満足な結果になる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気分晴らしの方法もなく、最終イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気分晴らしの方法もないため、最終イライラして攻撃的になる	

図 29：プロジェクト演習版・社会人基礎力ルーブリック

さて、ここまで「それぞれの授業の設計をよく理解して選択してください」というお話をしました。「設計を理解して、選択して、その設計に沿って学んでいってください」ということです。ところで、私は本日のお話の冒頭で「PBL 授業の根幹は学生の自発的な取り組みである」というふうに申し上げました。それを踏まえて言い直すと「設計を理解して、選択して、その設計に沿って、自発的に学んでいってください」ということになります。その通りなのですが、最後に、もう一步踏み出す手もあるぞというお話です(図 28・No.12)。設計を理解して、選択して、その上で「設計の枠を踏み越えて」授業を利用し、自発的に学ぶという手もあるぞということです。これこそ究極の自発性の発揮ですよ。

実は、もうやっている先輩がいます。過去 8 年で数名いますが、一番最近の例をご紹介します。3 年間、プロジェクト演習さとみ・あいチームの一員として、常陸太田市里美地区で地域おこし活動に取り組み、今年 3 月に卒業した田島彩花さんです。今は日立市の職員になっています。お手元の資料は、プロジェクト演習のフェイスブックの 2018 年の 11 月 17 日の記事です(図 28・No.13、図 30)。今もフェイスブック上で見られるのですが、スクロールに時間がかかるので、原稿をここに印刷しました。

彼女は何をやったのか？繰り返しになりますが、プロジェクト演習の設計は多様性追求型です。専門性追求型ではない。彼女は 2 年生で初めてプロジェクト演習を履修し、3 年生からは民俗学のゼミに入りました。民俗学を専門に勉強しながら、引き続きさとみ・あいでの活動も行った訳です。3 年生も後半になって、いよいよ本格的に卒論に取り組むに当たり、過去 2 年間の里美地区でのプロジェクト演習の取り組みを通じて蓄積してきた、里美地区や中山間地の現状に対する知見、さらに住民の方々との信頼関係を活かして#里美地区の民俗事例を研究テーマに選んだのです。そうして 4 年生でも引き続きさとみ・あいチームのメンバーとして活動しながら、卒論作成という学生にとって究極の専門性追求の場として、プロジェク

ト演習という多様性追求型として設計された授業を活用してくれた授業設計者である私としては、設計の枠を自発的に乗り越えて新しい展開に持って行ってくれたということで、すごくうれしかった記憶があります。

プロジェクト演習の「その先」の学びの場を検討するに当たっては、まずは各授業の設計と自分の求めているものとのマッチングについて、よくよく考えてほしい。さっきのグラデーションの図を見ながら考えてほしい。その上で、田島さんの例のような「もう一步踏み越えた自発性」の発揮も考えてみてほしい。そういう選び方もありますよということです。

どうもありがとうございました。これで終わりにいたします。

ここで再度「選択基準」は？

選択の
決め手

履修目的と授業設計の
マッチング

PBLの
根幹

学生の自発的取組

その
先には

12

プロジェクト演習

授業設計を**超えた**活用事例

2018年度さとみ・あい
田島彩花さんの卒論作成
お手元の資料を
ご覧ください

究極のPBL=自発的取組は
授業設計者の意図を
超えた、授業の独自活用



13

ご清聴ありがとう ございました

鈴木 敦
atsushisuzuki8115@vc.ibaraki.ac.jp

14

図 28-4 : 鈴木のスライド(4)

20181117 プロジェクト演習 FB 記事
<https://www.facebook.com/IUChikkip/>

番外編：プロジェクト演習と専門研究

PBL 授業には、専門性追求志向のいわば「精製型」と多様性追求志向のいわば「化学反応型」の二種類があります(図1~2)。

プロジェクト演習は、「社会人基礎力」の育成を目的に「化学反応型」の PBL 授業として設計されました。このため学科学部、時には大学高校の枠も越えて様々なバックグラウンドを持つ学生、生徒が一緒に一つのプロジェクトに取り組んで来ました(図3)。

ではプロジェクト演習は専門性とは無縁かと言えば、そうではありません。プロジェクトの遂行に当たって自らの専門性を活かす場面は、その気になればいくらでもあります。さらに、プロジェクトへの取組を通じて問題意識を深め、最終的に卒業論文の題材につなげていく学生もいます。

つまり「**化学反応型**」で設計されたプロジェクト演習ではありますが、**自らの問題意識次第で「専門性追求の場」として活かすこともできる**ということです。一例として、昨年度のさとみ・あいチームのリーダーで現在卒業論文を執筆中の田島さんへのインタビューをアップします。

鈴木 (以下「S」)：田島さんの専攻や卒業論文と、プロジェクト演習とのかかわりについて、簡単に教えてください。

田島 (以下「T」)：私は民俗学を専攻しています。さとみ・あいチームの一員として3年間常陸太田市里美地区で活動して来て、一般的な大学生に比してかなり濃密なつながりを持つことができました。このつながりを活かして「地に足の着いた」卒業研究をしたいと考えました。最近、かかしはあまり作られなくなっていますが、里美地区では毎年秋に「かかし祭」が開催され、地域の様々なグループ単位で多様なかかしを製作して出展しています。その結果里美地区では、「かかし作りの技術」と「作る人たちのつながり」が十分生きているんですね。そこで、かかしをテーマに卒業研究を進めようと思いました。

S：卒論の概要を教えてください。

T：「民俗学の分野においても従来あまり研究対象となってきたかかしを、「つくり物研究」のテーマとして位置づけ、資料化できないという理由から語られてこなかった「審美性」について、かかし製作の過程から調査をする」ということになるでしょうか。

S：「つくりもの」とは？

T：「特定の場で飾られる人工的な造形物」と定義されていますが、これまでの研究では、祭礼道具や民俗芸能について研究されることが多く、かかしに注目した研究はほとんどありませんでした。現在の里美地区においては、かかしを祭への出品を前提として鑑賞品、芸術品の1種として製作していることに注目し、地域の中でかかしに対する審美的基準がどのようなものなのか、という観点で研究を行っています。

S：具体的にはどのように研究を進めているのですか？

T：「美しい里づくり委員会」様と「肝緑会」様のかかし作り作業を参与観察させて戴いています。里美地区でのかかし作りは個人から団体まで様々なレベルで行われていますが、団体を調査対象とすることで、団体内での会話や行動から審美性が読み取れるのではないかと考えたためです。またこの二団体は、毎年グランプリや準グランプリを受賞してきた「腕利き集団」であることも、参与観察をお願いした大きな理由です。

S：「サンヨカンサツ」とは？

T：あ、すみません。「外から観察をするだけでなく、自らが活動に参加しながら調査をする手法」です。

S：田島さんが参与観察中の写真を図4に示します。田島さんも作成に参加した「肝緑会」さんの「チコちゃんに叱られる」かかし(図5)は準グランプリ、同じく「美しい里づくり委員会」さんの「大変ご迷惑をおかけしております」(図6)はグランプリと、上位独占だったとか。

T：はい、さすがは腕利き集団。「技術」という点でも「審美性」という点でもとても勉強になりました。

S：ありがとうございました。卒論完成まであと一息ですね。頑張ってください！

2種類のPBL
(1)精製型
専門性追求型のPJ
単一大学 → 単一学部
→ 単一学科 → 単一ゼミ

(1)精製型 PBLと履修母体の方向性

2種類のPBL
(2)化学反応型
多様性追求型のPJ
複数ゼミ → 複数学科
→ 複数学部 → 複数大学

(2)化学反応型 PBLと履修母体の方向性

プロジェクト演習の設計は
化学反応型
茨城大学+常盤大学
+茨城キリスト教大学
+水戸農業高等学校

(3)プロジェクト演習の設計方針と連携する高校・大学



(4)只今、参与観察作業中



(5)第31回 里美かかし祭 準グランプリ



(6)第31回 里美かかし祭 グランプリ

肝緑会「チコちゃんに叱られる」かかし 美しい里づくり委員会「大変ご迷惑をおかけしております」かかし

図 30：プロジェクト演習 FB・2018 年 11 月 17 日記事

○岩佐

ありがとうございました。

それでは、2つのタイプの PBL の報告を聞いてのコメントを、田中教務員長からお願いいたします。

○田中

最後の感想ということにもなりますが、実施設計をした者として、「専門性」と「多様性」というところに整理をされていくというのは、これをやりながら、ああそういうことだったのか、ということをも改めて考えさせられたところがございます。

その上で、これは学生さんへのお願いなのですが、先ほど、渡辺しのぶ先生から、「自己開示」を授業で扱ったということをお聞きしました。自分とは何か、自分の強みはどこにあるのか、ということも一つ重要なことです。この点がキャリアになっていくわけです。その強みの、一番特徴的な部分が、実は「専門性」にあるということを意識していただきたいと思うのです。専門的なところで学んだことが、いろいろなことに、実は応用可能であるということ、この「プロジェクト演習」、あるいは「地域 PBL 演習」でも気づいていただけたら、私としては非常に設計した甲斐があったと思います。そして、この科目での経験は必ず生きてくるはずだと思っております。身についたいろいろな「力」を意識しながら、合わせて「専門性」に基づく発想も生かし、さらにそれ以外の自分の「感性」も生かして、人文社会科学系を学んだ者として貢献する、というような考え方で社会とうまく向き合っていっていただければと思います。

以上です。

○岩佐

先生方、どうもありがとうございました。
それでは、司会を学生の安藤さんと池田君に戻します。

(6)式次第 8：総括と閉会挨拶



図 31：内田学部長挨拶

人文社会科学部学部長 内田 聡

皆さん、こんにちは。学部長の内田です。

いろいろな報告を聞、皆さんが多くの学びを行っていることを知れて、大変うれしく思いました。

学生の皆さんの取り組みはもちろん大切ですし、活動を継続していただければと思いますが、普段の学びの場あるいは日常生活の中でも、学んだものをぜひ生かしてください。PBLにチャレンジしたことのない周りの人に、積極的に皆さんの力を使って刺激を与えることもできるでしょう。

もう既に終了時刻を過ぎていますので、持ち時間は15分ということですが、簡潔に、少し違う観点からお話しをして終わりにしたいと思います。

私は、学部長になって2年目なのですが、学部長になる前からずっと言い続けていることがあります。今、AIなどのテクノロジーが急速に進んでいます。人文系には余り関係ないという理解をしている人もいるのですが、むしろテクノロジーが進展すればするほど人文社会科学の力が大切になりますし、今まさに私たちの力が必要とされています。

例えば、科学技術基本法を皆さんもご存じかもしれませんが、これまで、この法律の対象から人文社会科学は除かれていました。しかしながら、最近開かれた政府の会議で、この法律を改正して、人文社会科学も対象とするという方向性が打ち出されています。まさに世の中全体が人文社会科学の力を必要としているのです。

皆さんの学びが世の中にどのようにつながっていて、皆さんが世の中にどういう貢献ができるのかということを常に意識してもらいたいと思います。そうした大局観を持ちながら、日々、目の前にある勉強あるいは具体的なPBL等に取り組んでいくことが、より皆さんを成長させることにつながるのではないかと思います。今後の皆さんの取り組みと成長を期待しています。

最後になりますが、地域の方々には、今後ともいろいろなご指導、ご鞭撻をいただきまして、茨城大学と一緒に、人文社会科学部と一緒に地域を盛り上げていければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、遅くまでどうもありがとうございました。

(7)司会担当

2019年度も、引き続き履修生自身が司会を担当することとした。運用の枠組みも基本的に一昨年度以来の形を踏襲したが、諸般の事情により今年度は全て本学学生が担当することとなった。具体的には、以下の通りである。

- ①会を4つのブロックに分けて学生8人が二人一組で担当する
- ②学生の活動報告に当たっては、報告内容を踏まえてコメントを加える
- ③人選自体はチームに任せる
- ④「ペアの構成と担当ブロック」については、担当教員が「各ブロックの特性」と「各人の個性」を勘案して

割り振る

以下に各ブロックの特性と担当者名を記す。式次第の詳細は、図 7 を参照されたい。

第一ブロック（開会～趣旨説明）

責務：会のスタートであり会全体に関わる連絡事項も多いが、遅刻入場者もあって冒頭はざわついている。開会直後は会場の雰囲気も硬い。ペアの高校生をエスコートしつつ「明確な開会宣言並びに確実な情報伝達」と「会場のアイスブレイク」という、相反する責務を同時並行でこなさねばならない。

担当：庄司果織（図 32 左・茨城大学 3 年）
中崎航汰（同 右・茨城大学 3 年）

図 32：第一ブロック司会者



第二ブロック（プロジェクト実習活動報告第一部）

責務：会場の雰囲気は和らいできている。一方で、4 チームそれぞれの報告の箇所をその場で理解し、当を得たコメントを出さねばならない。

担当：荒川祐太（図 33 左・茨城大学 2 年）
小瀧千尋（同 右・茨城大学 2 年）

図 33：第二ブロック司会者



第三ブロック（プロジェクト実習活動報告第二部）

責務：休憩を挟み、「第二の開会」とも言える。会場には、ややダレが出てくるタイミングでもある。その中で「会の再起動」並びに第二ブロックと同様に「報告内容の即時理解・然るべきコメント」という大役を担うことになる。

担当：藤川 尚（図 34 左・茨城大学 2 年）
松本真奈（同 右・茨城大学 2 年）

図 34：第三ブロック司会者



第四ブロック（プレゼン講評～総括と閉会挨拶）

責務：会全体の締めくくりであり、登壇者も概して「肩書きが重い」。会場にも疲れが見えてくる中、会の終了時刻を睨んで時間調整を強く意識した臨機応変の差配が求められる。

担当：池田拓野（図 35 左・茨城大学 2 年）
安藤未羽（同 右・茨城大学 2 年）

図 35：第四ブロック司会者



おわりに

神田 大吾

2019 年度に成立した 8 つのチームは、外部協力者様によるご提案課題、教員による提案課題、学生が自ら提案した課題にそれぞれ取り組んだもので、誠に多種多様でした。しかし、活動を通じて予想外の事態に遭遇し、1 歩後退、2 歩前進、知恵を絞って軌道修正しながらなんとか成果に辿り着くという道のりほどのチームにも共通していました。前に踏み出し、考え抜き、チームで学び合う。そんな彼らの成長の記録である本報告書をお読みいただき誠にありがとうございました。学生が社会人基礎力を身につけて実社会で活躍できるよう、担当教員は今後とも努力を続けて参りますので、引き続きプロジェクト演習にご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2019 年度
根力育成プログラム 「プロジェクト実習」
地域志向教育プログラム「プロジェクト演習」
活動報告書

令和 2 年（2020）3 月 31 日刊行

編集 神田大吾 鈴木敦
発行 茨城大学人文社会科学部根力育成プログラム小委員会

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
茨城大学人文社会科学部
e-mail atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp